

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
キリスト教概論 (Introduction to Christianity)		金 永秀

授業の到達目標及びテーマ
キリスト教の聖書の成立と思想について理解を深める。

授業の概要

本学の拠って建つキリスト教とは何か。キリスト教の聖書の成立と思想を概観(大まかに学ぶこと)し、イエスとは誰だったかを問ひながら、キリスト教的人間観、自然観、人権思想、そして戦争と平和についての考え方や結婚観などについて聖書にはどう記されているかを探る。それをとおして今日の状況に隠れている宗教的価値観すなわち宗教的ものの見方の理解を深める。

授 業 計 画

第 1 回：	キリスト教を学ぶにあたって：なぜ宗教を学ぶか	第 8 回：	キリスト教の流れを変えた運動
第 2 回：	本学の成り立ちと願い	第 9 回：	近代化の中のキリスト教
第 3 回：	キリスト教特別講演会（4月上旬） ※レポートにして提出 沖縄に伝えられたキリスト教：歴史と現況	第 10 回：	人間：この創られた者
第 4 回：	キリスト教の誕生： イエスとその時代	第 11 回：	「正義」の戦争は可能か： 聖書の平和論
第 5 回：	キリスト教の誕生： 初代教会と社会	第 12 回：	キリスト教と人権思想の流れ
第 6 回：	教会が生み、教会を育てた聖書	第 13 回：	性・結婚： 男と女の豊かな関係を求めて
第 7 回：	初代のキリスト教の思想	第 14 回：	環境破壊とキリスト教
		第 15 回：	授業総括（まとめ）

テキスト： テキストは設定しないが、聖書（旧・新約）を各自購入しておくこと。

参 考 書： 担当教員によって異なる

評価方法・評価基準：

1. 前回の講義について小テストを行うことがあるので注意すること。
2. 評価は、小テスト、期末試験、レポート、授業態度を総合的に勘案して行う。
3. レポートは2種類： 原稿用紙3枚程度 ワードプロでも可
*キリスト教週間中の特別講演についての感想、論評。
*次の人物又は事柄から1件を選んで調査(リサーチ)、まとめ、論評を加える。
仲里朝章、阿波根章鴻、中村哲、杉原千畝、マーティン・ルーサー・キング、マザー・テレサ、マルチン・ルターの宗教改革、人権思想の起こりと現況、戦争と平和などその他の分野で書きたい人は前もって相談すること。
4. 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので5回以上の出席および礼拝内容の要約（400字、横書き、A4版ワードプロ原稿）提出
提出期限：礼拝参加週の講義時間（要約は、3回の授業出席扱いとする）
5. 学期中に一度は最寄りの教会の礼拝に参加することを薦める。
6. 授業中の私語、教科以外の学習、その他授業の妨げとなる行為などは堅く禁止する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							80
小テスト・ 授業内レポート							10
授業態度							10
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
聖書における人間 (Man and Woman in the Bible)		金 永秀

授業の到達目標及びテーマ
旧約・新約両聖書を通して、聖書における思想を理解する。

授業の概要

旧約・新約両聖書の中に登場する、人々の生涯と人間像を描く中で、聖書がその人々を通して示そうとした思想と使信を明らかにする。特に「人間」に焦点を置くことによって、「罪」、「希望」、「信仰」、「愛」等に対する聖書の描写と使信を学ぶことを目的とする。旧約では、創造物語の中で描かれている人間のあるべき姿、アブラハム、モーセ、王国建国の英雄ダビデ、預言者といわれる人々の姿を中心に学ぶ。新約では、イエスと、初代キリスト教会の人物像と教えをその時代背景とともに学ぶ。

授 業 計 画

【一部 序論】

第 1 回： ガイダンス/聖書とは

【二部 旧約聖書の人物】

第 2 回： 旧約聖書の時代と社会の背景

第 3 回： アブラハム、イサク、ヤコブ等の族長たち

第 4 回： モーセ等、出エジプトの人物像

第 5 回： 師士：イスラエルの指導者

第 6 回： ダビデとソロモン

第 7 回： 預言者の活動と思想

【三部 新約聖書の人物】

第 8 回： 新約聖書の時代と社会の背景

第 9 回： イエスの生涯と思想（1）

第 10 回： イエスの生涯と思想（2）

第 11 回： パウロの生涯と思想

第 12 回： 初代教会の人物像

第 13 回： 聖書の中の女性達

第 14 回： キリスト教特別講演会（12 月上旬）
※レポートにして提出

第 15 回： 授業総括（まとめ）

テキスト及び参考文献：

日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳及び、その他授業のガイダンスにおいて詳しく指定する。

評価方法・評価基準：

期末試験評価を中心とするが、授業態度、月曜礼拝を含むレポートを参考にして、総合評価を下す。キリスト教週間中の特別講演会に出席し、講演内容をレポートにして提出すること。

月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので5回以上の出席および礼拝内容の要約（400字、横書き、A4版ワープロ原稿）提出

提出期限：礼拝参加週の講義時間（要約は、3回の授業出席扱いとする）

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								80
小テスト・ 授業内レポート								10
授業態度								10
受講者の発表								
演習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意：

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英語聖書講読 (English Bible Reading)		山里 恵子

授業の到達目標及びテーマ

This class is designed to help you understand the central ideas of the Christian faith by reading short essays or articles that discuss themes from the Bible.

授業の概要

The focus of the class is put on understanding the essays and the parts of the Bible quoted in them. However, it is hoped that by focusing on the content and meaning of some essays or articles, you will be able to improve your English reading ability as well.

授 業 計 画

Topic/Homework		Topic/Homework	
第 1 回 :	Introduction/Read Chapter 1	第 9 回 :	Discussion of Chapter 8/ Read Chapter 9
第 2 回 :	Discussion of Chapter 1/ Read Chapter 2	第 10 回 :	Discussion of Chapter 9/ Read Chapter 10
第 3 回 :	Discussion of Chapter 2/ Read Chapter 3	第 11 回 :	Discussion of Chapter 10/ Read Chapter 11
第 4 回 :	Discussion of Chapter 3/ Read Chapter 4	第 12 回 :	Discussion of Chapter 11/ Read Chapter 12
第 5 回 :	Discussion of Chapter 4/ Read Chapter 5	第 13 回 :	Discussion of Chapter 12/ Read Chapter 13
第 6 回 :	Discussion of Chapter 5/ Read Chapter 6	第 14 回 :	Discussion of Chapter 13/ Read Chapter 14
第 7 回 :	Discussion of Chapter 6/ Read Chapter 7	第 15 回 :	Discussion of Chapter 14
第 8 回 :	Discussion of Chapter 7/ Read Chapter 8		

テキスト : The textbook for this class is Themes from the Bible by Randolph Thrasher. Some materials related to the topics, are also provided for every class.

参考書 : It would be wise to have a copy of the Bible in Japanese.

評価方法・評価基準 :

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価							
毎回の小テスト	○	○	○		○		70%
課題レポート	○	○	○		○		10%
授業態度							
受講者の発表	○		○		○		5%
演 習							
授業への参加度			○	○			15%
その他							

履修上の注意 :

Each class, except the first, will begin with any questions the students have about the text that they have read. Once these questions have been dealt with, comprehension of the text will be checked. This comprehension check will be followed by a discussion of the text and each class will close with an introduction of the chapter to be read for the following class.

Each chapter is three or four pages long. It will take you too much time to read this much material word by word. You must begin to read in a way that allows you to get the meaning of the important part of what is written in the text.

Regular attendance is highly required.

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キリスト教倫理 (=短大:キリスト教人間学) (Christian Ethics)		青野 和彦

授業の到達目標

キリスト教人間学(キリスト教倫理学)とは聖書とそのキリスト論を根拠として、人間の生きる「道」を探求する学問である。人間とは何か、信仰とは何か、という内面的テーマと共に、我々を取り巻く日本や国際社会が直面する諸問題について、旧・新約聖書から探求し、われわれの生きる倫(道)を模索したい

授業の概要

上記目標を達成すべく、キリスト教人間学(倫理)の主要な領域テーマについて、①それぞれのテーマに対する聖書理解、②その中で提起される過去から現代にわたる諸問題を解説する。

授 業 計 画

第1回:	授業オリエンテーション
第2回:	生命(聖書における「生」の意味、聖書から見た「クローン人間」、「人工妊娠中絶」など)
第3回:	死(テーマ:安楽死と尊厳死、ホスピス・終末期ケア、エイズ、自殺から1つ)
第4回:	生命と死:3.11について考える
第5回:	愛(アガペーとエロース)
第6回:	幸福
第7回:	罪
第8回:	男性と女性(同性愛者、性同一性障がい者の人権等)

第9回:	結婚と家庭(キリスト教の結婚観、家庭観、子供を巡る環境など)
第10回:	労働と余暇(キリスト教から見た労働問題、所得格差など)
第11回:	社会と福祉(キリスト教から見たボランティア、少子高齢化問題など)
第12回:	国家と政治(キリスト教と「愛国心」、「君が代」、「日の丸」など)
第13回:	戦争と平和①(聖書の説く戦争と平和)
第14回:	戦争と平和②(キリスト教から見た核兵器の保有の問題)
第15回:	イスラム教とキリスト教

※テーマに関連した映画も上映予定。

テキスト:

- ・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。
 - ・原 栄作『現代に生きる人間像』(聖書と人間3)、新教出版、1992年。
- ※テーマに関連する資料も毎回配布する。

参考書:

- ・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。
- ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』(1-4巻) 日本キリスト教団出版局、1999年。

評価方法・評価基準:

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末レポート)	○	○	○		○		60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意:

- ・毎回、『聖書』(新共同訳版)も必ず持参すること。
- ・「月曜礼拝」出席を奨励する。
- ・出席(毎回とる)、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。
- ・「キリスト教I」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
プロテスタント主義の歴史と思想 (History and Thought of Protestantism)		神山 繁實

授業の到達目標及びテーマ

授業の概要

プロテスタント主義は、近代社会・経済・政治・文化に多大な影響を及ぼし、民主主義社会の形成に大きく貢献した。しかし、保守キリスト教の抱える負の遺産も大きい。21世紀を開いていこうとする時代に、再度プロテスタント主義が社会・政治・文化の牽引力になり得るのか、以上の問題意識をもって、プロテスタント主義の歴史と思想を読み直し、将来への展望を探る。宗教と政治、経済と文化の問題を今日的文脈の中で追及する。

授業計画 大きく5領域にわたって。

第1回： オリエンテーション	第9回： プロテスタント主義のアメリカにおける変容②
第2回： プロテスタント主義の思想的原点 ①	第10回： " ③
第3回： " ②	第11回： プロテスタント主義の日本の近代化への影響①
第4回： " ③	第12回： " ②
第5回： プロテスタント主義の社会・文化・政治・経済・宗教への影響①	第13回： プロテスタント主義の21世紀における諸課題等①
第6回： " ②	第14回： " ②
第7回： " ③	第15回： 総合的検討
第8回： プロテスタント主義のアメリカにおける変容①	

テキスト： 『近代世界とプロテスタント主義1』(著作集8) ヨルダン社 1984/03

参考書：①マックス・ウェーバー 『プロテスタント主義との倫理と資本主義の精神』岩波書店 1989
 ②Wilhelm Pauck, *The Heritage of the Reformation* : New York, Oxford University,
 ③エルンスト・トレルチ著 林昌道訳、『ルネッサンスと宗教改革』 1993 岩波文庫
 ④住谷一彦・小林純・山田正範共著『マックス・ウェーバー』清水書院 1996 ￥700
 その他、随時オリジナル資料を配布
 ・マルチン・ルター『キリスト者の自由』石原謙訳、岩波文庫 青808 420円
 ・ジョン・カルヴァン『キリスト教綱要』(大著なので、必要に応じてプリントを配付)

評価方法・評価基準：授業におけるディスカッション・プレゼンテーション等、基本的事項の筆記テスト、期末レポートによって評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

1. 専門用語等については日本語と英語で、特に、古典的な術語はラテン語で説明する。
2. アメリカの大学のスタイルで授業をすすめる。
(上記の授業内容は、受講者が大学院へ進学してから役に立つ。)

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
キリスト教芸術 (Christian Art)		金 永秀・神谷智子・糸洲のぶ子

授業の到達目標及びテーマ
キリスト教音楽の作品を合唱をもって賛美し、学内のクリスマス礼拝に参加する。

授業の概要

キリスト教芸術の中でも、キリスト教音楽を単なる知識ではなく、実践を通して理解し体得する。近代西洋音楽において多大な影響を与えた G. F. ヘンデルのオラトリオ「メサイア」から No44 "Hallelujah"、クリスマスに歌われているドイツ語の賛美歌と日本語訳の賛美歌を基礎発声法と言葉の大切さを中心に合唱し、クリスマス礼拝に参加する。

授 業 計 画

第 1 回：	クラスオリエンテーション	第 9 回：	「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習①
第 2 回：	ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習①	第 10 回：	「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習②
第 3 回：	講義「メサイア概要」	第 11 回：	「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習③
第 4 回：	ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習②	第 12 回：	「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習④
第 5 回：	ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より ハレルヤ 曲の説明と演習③	第 13 回：	「メサイア」よりハレルヤ、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」 総合演習⑤
第 6 回：	「メサイア」よりハレルヤ 演習④、 「in dulci jubilo」	第 14 回：	実演（クリスマス礼拝参加）
第 7 回：	「メサイア」よりハレルヤ 演習⑤、 「in dulci jubilo」, 「よろこびいわえ」	第 15 回：	まとめ（レポート提出）
第 8 回：	実技試験（「No44 "Hallelujah" のパート）		

テキスト： 初回講義にて楽譜を配布する。

参 考 書： 讚美歌、聖書
家田足穂「メサイア」ーテキストと音楽の研究 音楽の友社

評価方法・評価基準：クラスでの学習態度、授業への参加度、レポート、実技を総合して評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○		○		○		20
小テスト・ 授業内レポート		○	○					10
授業態度				○	○			10
受講者の発表							○	10
演 習								
授業への参加度				○	○			50
その他								

履修上の注意：毎回遅れずに出席して下さい。（出欠確認を行います）
教室、時間変更等、その都度掲示板で確認して下さい。
練習用 CD を配布するので、各自練習をして授業に参加して下さい。
初回到資料代を徴収します。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
基礎演習 I		糸洲 理子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：大学教育に必要な基礎的技術（「読む」「考える」「調査する」「書く」「発表する」）について理解し、論理的で明快な文章の作成方法を学ぶ。演習を通して、自分自身の考えを適切な文章で表現できるようになることをめざす。

テーマ：身近な社会問題や教育問題を中心に扱う。

授業の概要

この授業では、大学教育に必要な基礎的技術（「読む」「考える」「調査する」「書く」「発表する」）を基に、論理的に文章を作成する方法を学ぶ。

授業外学習として、毎回、次のとおり学習すること。

予習：授業計画をよく読み、必要な資料や指示された資料を準備すること。

復習：授業中に説明したことを再度復習して、文章作成などの課題に取り組むこと。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション
第2回： 文体について（常体と敬体）
第3回： 文章の構成
第4回： 小論文の作成と発表
第5回： 資料の収集方法
第6回： 文献読解と発表
第7回： ディスカッションの方法
第8回： 要約文①

第9回： 要約文②
第10回： 資料の引用方法
第11回： 論評文①
第12回： 論評文②
第13回： 文献リストの作成方法
第14回： ディスカッション
第15回： まとめ・授業内試験

テキスト： 初回の講義で指示する

参 考 書： 田中共子編『よくわかる学びの技法 第2版』ミネルヴァ書房 他、適宜紹介

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度			○	○			
受講者の発表	○	○	○	○	○		30
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：日頃から新聞を読み、社会問題に関心を持つこと。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
基礎演習Ⅱ		

授業の到達目標及びテーマ

In this class, students are encouraged to take a fresh look at themselves and at their society. The fifteen-week course is divided into two seven-week cycles, which follow Bloom's Taxonomy. In the first cycle, issues such as 'self-identity', 'group identity' and 'community identity' will be investigated. In the second cycle aspects of Okinawan culture will be investigated more deeply. Field research may be included.

授業の概要

In line with Bloom's Taxonomy, each lesson builds upon the previous one. Students will work towards the final goal of creating and presenting something unique. In-class work will involve pair and small group discussions, the sharing of original ideas as well as making and giving interesting presentations.

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション	第9回： Okinawan Identity I
第2回： Self-identity	第10回： Okinawan Identity II
第3回： Group Identity I	第11回： Research I
第4回： Research I	第12回： Research II
第5回： Research II	第13回： (Field) Research
第6回： Preperation	第14回： Preperation
第7回： Presentation	第15回： Final Presentation
第8回： Review / Extension	

テキスト： None

参 考 書： 適宜、紹介する

評価方法・評価基準：試験、レポート、課題、授業態度、授業への参加度などを総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				30
授業態度	○	○	○	○			40
受講者の発表	○	○	○				30
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：日頃から新聞を読み、社会問題に関心を持つこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
コミュニケーション入門 (Introduction to Communication)		伊佐 雅子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について理解できること。

テーマ：対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション、電話・携帯コミュニケーション

授業の概要

人は常に、自分自身も含めて誰かとコミュニケーションしている。本講義では、人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について学ぶ。心の中の会話からパソコン通信までのそれまで、現代のコミュニケーションの姿を理論的に整理し、よりよきコミュニケーションのありかたを探るものである。

授業計画

第1回： 授業についてのオリエンテーション	第8回： 人と人のコミュニケーション
第2回： 人間のコミュニケーション	第9回： 外見のコミュニケーション
第3回： 動物のコミュニケーション	第10回： 電話コミュニケーション
第4回： 自我とコミュニケーション	第11回： 集団・組織のコミュニケーション
第5回： 人間と社会の形成におけるコミュニケーションの役割	第12回： マス・コミュニケーション
第6回： 歌によるコミュニケーション	第13回： 高度情報社会のコミュニケーション・電子メール&ケータイ、SNSサイト、インターネット掲示板
第7回： まとめ（中間テスト）	第14回： 笑いコミュニケーション（非言語コミュニケーション）
	第15回： まとめ（期末テスト）

テキスト： 船津衛『コミュニケーション・入門』有斐閣

- 参考書：
- ・松沢哲郎『進化の隣人ヒトとチンパンジー』岩波書店
 - ・松沢哲郎『チンパンジーはちんぱんじん』岩波書店
 - ・G.H. Mead『社会的自我』恒星社厚生閣
 - ・正高信男『考えないヒトーケータイ依存で退化した日本人』中央公論新社
 - ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮社
 - ・志水彰 他『人はなぜ笑うのかー笑いの精神生理学』講談社

評価方法・評価基準：授業への参加度(10%)、課題レポート(20%)、テスト(70%)により総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：出席重視。最近は「コミュニケーション」という言葉がよく使われるが、本当の意味を理解している人は少ない。この授業では、「コミュニケーション」の意味について深く学び、次に、いろんな場でのコミュニケーションの特性を学んでほしい。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
異文化コミュニケーション I (Intercultural Communication I)		伊佐 雅子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、自己（自文化）および他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養うこと。
 テーマ：コミュニケーションと文化、言語、非言語コミュニケーション、カルチャーショック、異文化適応、ステレオタイプと偏見、多文化共生

授業の概要

- 異なる文化背景を持つ人たちのコミュニケーションに影響を与える基礎概念と理論を学び、家庭・学校・職場・地域社会で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦を超えて、多文化社会に生きる上での必須となる実践的な対話力・人間関係力を養成する。
- 自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養う。

授 業 計 画

第 1 回： 授業のオリエンテーション	第 9 回： 比較する：異文化へのあこがれと不安、留学生が抱える問題
第 2 回： 異文化コミュニケーションとは	第 10 回： 言語コミュニケーション：日本語と英語の違い、会話理論
第 3 回： コミュニケーションとは何か：コミュニケーションのメカニズム	第 11 回： 非言語コミュニケーション：身体行動（ジェスチャー）、空間・距離、時間、沈黙
第 4 回： 異文化コミュニケーションの基礎要因について	第 12 回： 異文化への認識（カテゴリー化、ステレオタイプ）と態度（偏見）、ヘイトスピーチ
第 5 回： 問題となる異文化コミュニケーション	第 13 回： 異文化摩擦や対立のビデオ『As Human Beings』視聴
第 6 回： トラブル理論：カルチャーショック、異文化適応、不安・不確実性管理理論	第 14 回： より効果的なコミュニケーション：多文化共生への道
第 7 回： まとめ（中間テスト）	第 15 回： まとめ（期末テスト）
第 8 回： 学生の異文化適応の問題（国際交流のビデオ視聴）	

テキスト： 小坂貴志『異文化コミュニケーションの A to Z 』（研究社）

参 考 書： ・鍋倉健悦『異文化コミュニケーション入門』丸善
 ・古田暁（監修）『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社

評価方法・評価基準：授業への参加度(10%)、課題レポート(10%)、クイズ(10%)、テスト(70%)により総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：出席重視。異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因を学んでほしい。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
異文化コミュニケーションⅡ (Intercultural CommunicationⅡ)		伊佐 雅子

授業の到達目標及びテーマ

- 到達目標： ①異文化コミュニケーションの理論的枠組みを理解できる。
 ②授業で学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけること。
 ③今後直面するさまざまな場面における異文化コミュニケーションにおいて自分で考え、対応できる力を養うこと。

授業の概要

本講義では、コミュニケーションが行なわれている場を中心に、現在行なわれている異文化コミュニケーションの問題について考察する。通訳者や語学教師が直面する問題、ビジネスマンや留学生の海外での適応問題、マスメディアと異文化コミュニケーション、空間、時間と異文化コミュニケーションなどについて学ぶ。また、グローバル化社会における「異」文化コミュニケーションの状況を理解し、グローバル化とアイデンティティについて考える。また、沖縄における異文化コミュニケーションの問題も扱う。

授 業 計 画

第1回： 授業についてのオリエンテーション	第9回： 障がい者、高齢者とのコミュニケーション
第2回： 異文化コミュニケーション者としての通訳	第10回： 女性と異文化適応
第3回： 同時通訳、翻訳、字幕通訳の現場－「言語の壁を越えて」(ビデオ視聴)	第11回： 「地球都市」の出現とコミュニケーション－グローバル化の負の側面
第4回： 異文化コミュニケーションと誤解の接点	第12回： 異文化に対する偏見と異文化間の友情
第5回： 異文化コミュニケーションにおける言語選択－「英語の普及」をどう捉えるか－	第13回： インターカルチャル教育としての日本語教育の映像メディアの役割 (CD 視聴)
第6回： まとめ (中間テスト)	第14回： 沖縄における異文化コミュニケーション (アメラジアンの問題、国際結婚など)
第7回： 空間、時間、異文化コミュニケーション	第15回： まとめ&課題レポート提出
第8回： マスメディア (CM) と異文化コミュニケーション－日米のCM	

テキスト： 伊佐雅子監修『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社

- 参 考 書：
- ・池田理知子・E.M.クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣
 - ・小坂貴志『異文化コミュニケーションのA to Z』研究社
 - ・石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション－多文化共生と平和構築に向けて－』
 - ・青木保『異文化理解』岩波新書

評価方法・評価基準：

- ・授業への参加度(10%)、課題レポート(20%)、クイズ (10%)、テスト(60%)により総合的に評価する。
- ・異文化コミュニケーションⅠを履修済みであることが好ましい。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意： 学生のみなさんには、「あたりまえ」のことを常識とせず、どのようにしてその「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養ってほしい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
メディア・リテラシー		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：メディアの使い方・読み取り方について学ぶ

知識理解：メディア・リテラシーを理解する 関心意欲：メディアのあり方に対して疑う意欲をもつ

思考判断：メディアを批判的に捉える自己見解能力を持つ 態度：メディアを読み取り、活用する方法を身につける。

授業の概要

情報の流通が多量・高速化する現在、その媒体（メディア）を読み解き使いこなす能力（メディア・リテラシー）が重要となっている。メディアの特性を理解し、その内容を批判的に捉え、単に情報を受け取るだけでなく、あらゆるソーシャルメディアを活用し、発信していく力を身につける。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション	第8回： 戦争とメディア
第2回： メディア・リテラシーとは	第9回： ジャーナリズムと報道
第3回： コンピューター・リテラシーとデジタルデバイド（情報格差）	第10回： 「語られない情報」とは
第4回： マスメディアの歴史	第11回： 情報・印象操作と表現その1
第5回： ソーシャルネットワークサービスとリテラシー	第12回： 情報・印象操作と表現その2
第6回： CNNとアルジャジーラ	第13回： メディア・リテラシー教育の現在
第7回： マクルーハンとメディア論	第14回： これからのメディアのあり方s
	第15回： まとめ

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

レポートやエッセイを課す。授業への参加のみならず、積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
授業への参加度							30
その他 調査			○	○			20

履修上の注意：調査活動への参加は授業外、校外活動となります

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
コンピュータ基礎演習 I (Basic Computing I)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ

PCの基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法、基礎的なデータベースソフトの活用方法などを実践的に修得すること

授業の概要

コンピューター操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピューターを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。

授 業 計 画

- 第 1 回： オリエンテーション：①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定
- 第 2 回： パソコンの概念：①Windowsの基本操作 ②OSの基本操作 ③インターネット
- 第 3 回： Word2007：①Wordの基本操作 ②文章の作成保存
- 第 4 回： Word2007：①文章のデザイン
- 第 5 回： Word2007：①書式の応用
- 第 6 回： Word2007：①表示能力を高める ②オブジェクトの挿入
- 第 7 回： Excel2007：①基本操作 ②一覧表の作成
- 第 8 回： Excel2007：①グラフの作成 ②グラフのデザインおよびレイアウト
- 第 9 回： Excel2007：①グラフのデザイン
- 第 10 回： Excel2007：①グラフのレイアウト
- 第 11 回： パワーポイント①プレゼンテーションとは
- 第 12 回： ①スライドの作成
- 第 13 回： ①アニメーションの操作
- 第 14 回： ①プレゼンテーションの発表
- 第 15 回： ①プレゼンテーション評価

テキスト：教材は、そのたびに講義担当者が準備する

参 考 書：

評価方法・評価基準：課題の提出 授業への参加度及び授業に臨む姿勢

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○	○	○		評価に加える
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○	○		80
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意：各自 USB メモリーを準備すること

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
プレゼンテーション概論 (Introduction to Presentation)		上原 明子

授業の到達目標
相手に伝わるプレゼンテーションについてのスキル習得と実践

授業の概要

自己認識と他者理解という、対話的思考を基軸としたプレゼンテーションについて学ぶ。徹底した実践を通して、スキルを習得し、プレゼンについての認識を深める。

授業計画

第 1 回：	伝えることと伝わること ～プレゼントは〇〇だと考えてみる～	第 9 回：	社会とつながること① ～志望理由書を書いてみる～
第 2 回：	相手とつながること① ～気持ちを伝える気持ちを書いてみる～	第 10 回：	社会とつながること② ～面接を受けてみる～
第 3 回：	相手とつながること② ～アドバイスしてみる～	第 11 回：	森羅万象とつながること① ～「生」についてプレゼンしてみる～
第 4 回：	相手とつながること③ ～はげましてみる～	第 12 回：	森羅万象とつながること② ～「死」についてプレゼンしてみる～
第 5 回：	自分とつながること① ～インタビューを受けてみる～	第 13 回：	プレゼン実践② ～キリ短を支える人々～
第 6 回：	自分とつながること② ～「自己紹介してみる～	第 14 回：	プレゼン実践③ ～キリ短生を育てる授業～
第 7 回：	プレゼン実践① ～キリ短とは～	第 15 回：	まとめ・授業内試験 ～「Happy Campus Guide」プレゼン～
第 8 回：	相手に伝わるプレゼンテーションとは？ (表現・態度・資料・環境)		

テキスト：講義担当者が講義にて資料配付

参考書：講義担当者が講義にて紹介

評価方法・評価基準： プレゼンテーション課題・実践。授業態度

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○		○				30
授業態度		○	○	○			30
受講者の発表	○	○	○	○	○		40
演習							
授業への参加度			○	○			
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
情報機器利用プレゼンテーション演習 (IT Presentation)		湧川 華江

授業の到達目標及びテーマ

効果的なプレゼンテーションを支援するための情報機器活用技術を習得するだけでなく、聞き手に対し、情報を一定時間内に的確かつ効率的に表現する技法を習得する。

授業の概要

プレゼンテーションにおけるコンピュータやプロジェクタ等の情報機器の利用方法について、代表的なプレゼンテーションソフトウェアである Microsoft PowerPoint を利用した演習を通して学習する。データ、静止画、動画、アニメーション等視聴覚メディアを効果的に活用する技術や、聞き手に対し、情報を一定時間内に的確かつ効率的に表現する技法を学ぶ。
プレゼンテーションの実践は、1回目は2名のグループで行い、2回目は個人発表とする。

授業計画

第1回： オリエンテーション	第9回： プレゼンテーションの実践 (グループ)
第2回： プレゼンテーションの基礎知識、PowerPoint の操作方法	第10回： プレゼンテーションの実践 (グループ)、プレゼンテーション資料の作成 (個人)
第3回： PowerPoint の操作方法	第11回： プレゼンテーション資料の作成 (個人)
第4回： PowerPoint の操作方法	第12回： プレゼンテーション資料の作成 (個人)
第5回： PowerPoint の操作方法、グループ分け、プレゼンテーション資料の作成	第13回： プレゼンテーション資料の作成 (個人)
第6回： プレゼンテーション資料の作成 (グループ)	第14回： プレゼンテーションの実践 (個人)
第7回： プレゼンテーション資料の作成 (グループ)	第15回： プレゼンテーションの実践 (個人)
第8回： プレゼンテーション資料の作成 (グループ)	

テキスト： クラスにて案内する。

参考書：

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			55
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	
演習							45
授業への参加度			○				
その他							

履修上の注意：各自USBメモリを準備すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員					
はじめての日本語教育 (Japanese language teaching Introduction)		上原 明子					
授業の到達目標 知識理解：日本語の構造、日本語教育について意識的になる 思考判断：教えるという視点から日本語に触れることで新たな発見ができる 関心意欲：自文化と異文化への理解を通して多文化共生について考えるきっかけとなる 態度：他者理解と自己認識が育まれる							
授業の概要 日本語を教える立場から視点を変えて学ぶ、生きた日本語・日本文化の講義。 「共に生きる」という社会人としての姿勢を培うことにもつながる。							
授業計画 (※クラスの状況に応じた内容変更あり)							
第1回：オリエンテーション・課題配付(外国語教授法についてのレポート) 第2回：日本語教育とコミュニケーション(テキスト1章対応) 第3回：教育の焦点化とスティックフィギア(テキスト2章対応) 第4回：「話すこと」の教育とコミュニケーションゲーム(テキスト9章対応) 第5回：「書くこと」の教育と日本語力チェック(テキスト4章対応) 第6回：「読むこと」の教育と教材作成(テキスト6章・7章対応) 第7回：スピーチ教育とスピーチ実践(テキスト5章対応) 第8回：日本語文法の世界(1) 述語文(品詞とハトガの使い分け) 第9回：日本語文法の世界(2) 自動詞と他動詞 第10回：日本語文法の世界(3) 修飾するという機能(形容詞・副詞) 第11回：日本語文法の世界(4) 話者の視点移動(テンス・アスペクト・モダリティ) 第12回：日本語文法の世界(5) 敬語の本質 第13回：練習問題作成(テキスト3章対応) 第14回：評価することについて(テキスト8章対応) 第15回：課題報告とまとめ(テキスト9章対応)							
テキスト：『はじめての日本語教育・2[日本語教授法入門]』高見澤孟 (アスク講談社)							
参考書 ：講義にて紹介							
評価方法・評価基準 ：							
1 授業への参加態度を重視 2 毎回のフィードバックレポート提出 3 課題への取り組みと試験							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		20
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○	○			40
受講者の発表				○	○		20
演習							評価に加えず
授業への参加度				○			評価に加えず
その他							評価に加えず
履修上の注意 ：							
・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
日本語表現法 (Japanese Expression)		上原 明子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：コミュニケーション・効果的なプレゼンについて深く認識する
 思考判断：スピーチの論理的な構成を通じて、相手を尊重すること、自分を省みることを学ぶ
 関心意欲：失敗から学ぶ姿勢で積極的にスピーチ・プレゼンに取り組む意欲を喚起する
 態度：相互交流での学び合いによるセルフ・ラーニングの意識を培う

授業の概要

日本語の音声表現についての講義と実践を通し、的確なコミュニケーションのための土台作りをする。以下の5つの観点からの学びを行う。

- ① 自分の考えや意見を音声言語で表現する方法を訓練する。
- ② 他人の話を聞く訓練をする。
- ③ コミュニケーションのしくみを学ぶ。
- ④ 1分スピーチ力を養成する。
- ⑤ 効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。

授 業 計 画

第 1回： 「コミュニケーション」って何？ 課題：他己紹介、ヒーローインタビュー	第 8回： 「パブリックスピーキング実践(2)」 課題：フィードバック
第 2回： 「聞く・聴く・訊く」 課題：聴く力の点検、音を読む	第 9回： 「聴衆分析」 課題：即興スピーチ
第 3回： 「話す～声のパワー～」	第 10回： 「朗読～相手に届ける表現～」
第 4回： 「敬語意識(1)」	第 11回： 「教室プレゼンテーション・20の技法」
第 5回： 「敬語意識(2)」	第 12回： 「プレゼン実践(1)」 課題：写真リポート
第 6回： 「パブリックスピーキング～伝達・情報化～」	第 13回： 「プレゼン実践(2)」 課題：フィードバック
第 7回： 「パブリックスピーキング実践(1)」 課題：自分の披露宴の友人代表スピーチ	第 14回： まとめ、プレゼン、即興スピーチ
	第 15回： フィードバック・レポート提出

テキスト： 講師作成資料を配布。

テキスト： テーマ毎に指示する。

評価方法・評価基準：① 授業への参加態度

- ② 1分スピーチへの取り組み
- ③ プレゼンテーションへの取り組み
- ④ 筆記試験、プレゼン、即興スピーチ(1分、250-260字程度)
- ⑤ 最終レポート提出

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○				○		20
小テスト・ 授業内レポート								評価に加えず
授業態度				○	○			50
受講者の発表		○	○	○	○	○		30
演習								評価に加えず
授業への参加度				○	○			評価に加えず
その他								

履修上の注意：講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
朗読の科学 (Interpretative Presentation)		上原 明子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶ
 思考判断：作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める
 関心意欲：集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じる
 態度：グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培う

授業の概要

日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。15回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。毎回のクラスは、3つの部分から構成されている。

- I. 体操・呼吸法・発声
- II. 日本語の音声学・群読の技法 講義
- III. 課題への取り組み

授 業 計 画

第1回： 「深い呼吸に支えられた深い声（1） 身体と対話する」	第9回： 「群読の技法（2）」
第2回： 「深い呼吸に支えられた深い声（2） 声を感じる」	第10回： 授業内試験・中間まとめ
第3回： 「美しいリズムと声の響き（1）母音」	第11回： 「表現する（1） 作品の読み込み・読み譜つけ」
第4回： 「美しいリズムと声の響き（2）子音」	第12回： 「表現する（2）間の取り方」
第5回： 「美しいリズムと声の響き（3）日本 語の母音と子音」	第13回： 「表現する（3）意識を連ねる」
第6回： 「美しいリズムと声の響き（4）内に 向かうリズムと外へ開くリズム」	第14回： 「表現する（4） ゲネプロ（衣装着用）」
第7回： 「美しいリズムと声の響き（5）日本 語作品のリズム構造の分析」	第15回： 発表会「ことばの渚」・最終まとめ
第8回： 「群読の技法（1）」	

テキスト： 講師配布資料を配布。

参 考 書： テーマ毎に指示。

評価方法・評価基準：

- ① 授業への参加態度
- ② 中間テスト（日本語音声学についての筆記試験）
- ③ ことばのライブ参加
- ④ 最終レポート提出

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						50
小テスト・ 授業内レポート								評価に含めず
授業態度				○	○			20
受講者の発表				○	○	○		30
演習								評価に含めず
授業への参加度				○	○			評価に含めず
その他								

履修上の注意：①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと
 ③「ことばの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
マルチメディア演習 (Multi-media Applications)		金城 豪

授業の到達目標及びテーマ

コンピュータ、及び付属するソフトウェアの一步上を行く使用法や知識を獲得する。
また、世界に向けて情報を発信するための技術を身に付ける。

授業の概要

コンピュータの基本的操作法を習得したことを前提に、次の段階としてネットワーク社会におけるコンピュータを考えます。Web ページ作成を通して、マルチメディア ファイルの取り扱い方、種々のソフトウェア利用技術を学習します。また演習と並行して、実社会の事例を紹介しながら情報技術の発達と高度情報化社会の諸問題についても理解を深めます。

授 業 計 画

第1回： 情報社会への歩み	第9回： マルチメディアファイルについて
第2回： 生活環境におけるコンピュータの位置づけ	第10回： マルチメディアファイルを扱う (1)
第3回： 高度情報通信網	第11回： マルチメディアファイルを扱う (2)
第4回： インターネットの仕組み	第12回： Web ページ作成 (1)
第5回： HTMLとは	第13回： Web ページ作成 (2)
第6回： HTML演習	第14回： Web ページ作成 (3) 提出
第7回： ファイルの管理	第15回： 課題発表会
第8回： メモリー概念	

テキスト： 「情報の表現と管理」伏見正則著

参 考 書：

評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題提出状況、受講態度などを総合的に判断して評価します。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							評価に加えず
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		40
授業態度			○	○			10
受講者の発表							評価に加えず
演 習	○	○			○		40
授業への参加度			○				10
その他							

履修上の注意： 各自USBメモリを準備すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
異文化交渉演習 (Intercultural Practicum)		伊佐 雅子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：異文化交渉に役立つ、「協調的交渉術」のスキルを身につけること。

テーマ： 論理的思考、交渉の諸要素、コンフリクトと文化的諸要因、パワー（権力構造）、怒り

授業の概要

私たちが国の内外で異文化の人々とさまざまな目的で接触するとき、そこには必ずといってよいほど交渉の要素が含まれている。この場合、交渉とはディベートのように勝ち負けを決めるのではなく、さまざまなかけひきを駆使しながら合意にいたる複雑なコミュニケーション・プロセスである。本講義では、英語圏の人たちとの交渉ばかりではなく、英語圏以外の人々と英語で交渉する場合に役立つ、ビジネス・コミュニケーションについて学ぶ。

授 業 計 画

第1回： 授業のオリエンテーション	第8回： 交渉の諸要素—社会的、心理的背景、交渉の「段階的流れ」
第2回： 交渉とは何か。交渉、議論(ディベート)、説得、プレゼンテーション	第9回： 「本音・欲求」を見極める、「怒り」への対処法
第3回： 論理的思考	第10回： 文化の違いは交渉にどう影響するか — (応用編)
第4回： 対立・衝突の背景を知る(理論編)—なぜ人は「対立」や「衝突」を避けられないのか	第11回： コンフリクトと文化的諸要因
第5回： 従来型問題解決法ではダメな理由、対立の構図—交渉のケーススタディ	第12回： 「権力構造」という厄介なもの、大人になれない大人たち
第6回： 協調的交渉術をどう進めるのか(実践編)(ケーススタディ) 国際支援流危機乗り切り力 (ビデオ視聴)	第13回： 英語による交渉のスキル 2020 東京五輪プレゼン(TV 視聴)
第7回： 競争的交渉はなぜ失敗するのか、協調的態度とは、コミュニケーション・スキルとは	第14回： 文化の壁を越えて —ブリッジパーソンを育成する
	第15回： まとめ&レポートの提出

テキスト：野沢聡子『問題解決の交渉学』（PHP 研究所）と英字新聞を使う

参 考 書：

- ・船川淳志『思考力と対人力』日本経済新聞社
- ・野沢聡子『協調的交渉術のすすめ』アルク
- ・足立行子他『ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション』同文館
- ・トロンペナルス『異文化の波—グローバル社会：多様性の理解』白桃書房
- ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社

評価方法・評価基準：授業への参加度（10%）、授業での発表(10%)、課題レポート(20%)、クイズ&テスト（60%）。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：交渉というスキル（技能）という狭い意味に取られがちであるが、交渉とはコミュニケーション活動であるということを読んでほしい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
比較文化 (Comparative Culture)		伊佐 雅子

授業の到達目標及びテーマ

到達目標：アメリカの広告を学ぶことで、アメリカ社会の価値観を知り、日本文化とアメリカ文化の共通点と相違点を理解できること。

テーマ：コンピューター、化粧品、牛乳、タバコ、衣料、車、アルコールなど。

授業の概要

日本とアメリカの基本的な文化の違いを、両国の歴史的な背景を概観しながら考える。たとえば、風俗や習慣、衣食住、家庭、教育、社会問題、言語、スポーツなどの事柄を宗教、人種、民族、文化などに対する観点から比較し、文化の相対性の視点と、多角的な視点から文化を捉える方法論をさぐる。また、日米を中心にしながら、他の文化をみる視点の基本も養う。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。今年は、広告を通じてアメリカ文化に触れ、日米社会の価値観を比較するとともに、自分自身の価値観をも自覚させることを目的とする。また、アメリカのCMも授業でとりあげる。

授 業 計 画

第1回： 授業のオリエンテーション	第9回： sports wear
第2回： なぜ、文化を比較するのか。ーグローバル時代を生き抜くための教養ー	第10回： cosmetics
第3回： アメリカの歴史、人種・宗教、広告の目的と機能	第11回： gun control
第4回： global communications	第12回： jeans
第5回： milk	第13回： cigarettes
第6回： men's underwear	第14回： cereal treats
第7回： cars	第15回： まとめ
第8回： まとめ（中間）	

テキスト： Kumi Inoue *In Touch with American Ads* (心に響くアメリカの広告) 成美堂

参 考 書： ・有賀貞『概説アメリカ史』有斐閣
 ・苅谷剛彦『比較社会・入門』有斐閣
 ・エスターワニング『アメリカ人』河出書房
 ・Kumi Inoue *Ads Speak American Culture* (広告からみたアメリカ文化) 成美堂

評価方法・評価基準：

授業への参加度(10%)、授業での発表(10%)、課題レポート(10%)、テスト(70%)により総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：文化比較をおこなう場合、とかく違いが強調されやすい。しかし、文化の違いと同時に、文化の共通性も理解してほしい。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
うちなーぐち講座		比嘉 光龍

授業の到達目標及びテーマ

うちなーぐちを実際に社会で使用できることを目標にする。また、うちなーんちゅとしてのアイデンティティを持ち、うちなーを基本に世界を見る人材を養う。

授業の概要

うちなーぐちの挨拶、発音、語彙、表記を学ぶ。また、授業始めに毎回「かじゃでい風」を踊ることにより、言語のみではなく文化の体験も行う。さらに、琉球・うちなーの歴史をきちんと知る事で、うちなーぐちを自らの言語だと認識できる講義を行う

授 業 計 画：

第 1 回： 講師紹介と各学生自己紹介	第 8 回： うちなーぐちの会話
第 2 回： 「かじゃでい風」解説と踊り実技	第 9 回： 琉球諸民謡という新しい定義
第 3 回： 皆の前でうちなーぐちで自己紹介	第 10 回： うちなーぐちの表記法
第 4 回： 「うちなーぐち」の使用地域	第 11 回： うちなーぐちの数詞
第 5 回： 沖縄県の地図上の位置と端点	第 12 回： 琉球の歴史
第 6 回： うちなーぐちの発音	第 13 回： うちなーの歴史
第 7 回： 「うちなーやまとうぐち」について	第 14 回： うちなーぐちエッセー読後感想口述
	第 15 回： うちなーぐち継承案レポート提出

テキスト： 授業内にプリント配布

参 考 書： 『沖縄語辞典』（国立国語研究所編）

評価方法・評価基準：皆の前であいさつをする、小テスト、授業態度などを総合して評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート							50
授業への参加度							30
授業態度 (皆の前であいさつをする。かじゃでい風を踊る。トイレに行かない。寝ない、など)							20

履修上の注意：

- ・毎回の授業の感想と講師の書いたうちなーぐちエッセーへの感想をまとめたレポートを提出。皆出席でもレポート提出をしなければ単位は取得できません。
- ・出席が大切で1回でも休むとまず成績Aは取れません。一度も休まない自信のある方のみ受講して下さい。
- ・皆の前で「かじゃでい風」を踊ったり、あいさつなどをさせるのできちんとできる方のみ受講して下さい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
Okinawan Studies		David Ulvog

授業の到達目標及びテーマ The objective of this class is for students to use English to acquire a more proficient understanding of Okinawa through a variety of contemporary subjects and to improve their language skills and knowledge of the subject matter.

授業の概要

沖縄について、特に琉球王国の近代日本への吸収から今日までの歴史的経過や文化の概要の紹介を目的とする。王国時代についても必要事項について言及しつつ、米国や日本からの外圧、王国内の社会的、政治的関係や発展に焦点を当てる。英語のアーカイブ現代資料を利用し戦後沖縄の状況についての紹介をすると同時に G.H.カーや Chalmers Johnson、大田昌秀などの研究者の様々な見解を紹介検討する。琉球・沖縄の驚嘆すべき文化の興隆から数項目を選び検討する。講義ではパワーポイントを使用する。日本語のキーワードを紹介しつつ英語で講義を行うことにより期せずして学生の英語聴解力、会話力、読解力の向上を促す。

授業計画

第1回:	Orientation; geology, and geography, the constituent islands, population and units of local government	第9回:	Classical music and dance; quiz
第2回:	Outline of Ryukyuan history to 1879; quiz	第10回:	Architecture and masonry; quiz
第3回:	Outline of Okinawan history, 1879 to 2000; quiz	第11回:	Okinawa's UNESCO World Heritage Sites; quiz
第4回:	Iha Fuyu, the origins of Ryukyuan・Okinawan Studies, and Iha's critics, quiz	第12回:	Pacifism in Okinawa; quiz
第5回:	Karate; quiz	第13回:	Pacifism in Okinawa; quiz
第6回:	Lacquer; quiz	第14回:	Okinawan cuisine, <i>awamori</i> , longevity and health foods; quiz
第7回:	Ceramics and the <i>mingei undo</i> ; the Dialect Controversy; quiz	第15回:	Student choice: women's history <u>or</u> education in Okinawa; final summary quiz
第8回:	Textiles; mid-term summary quiz		

テキスト:

参考書: 資料リストは最初の講義に配布する。

評価方法・評価基準:

- 1) 質疑応答を通じての積極的姿勢、時間厳守(重視する)、授業への参加度、意識・関心度
- 2) 講義内容についての事前学習
- 3) 復習クイズ(毎週)、中間及び期末クイズ

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意:

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
沖縄の歴史と現在 (Okinawa modern history)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

沖縄の歴史に関する一定程度の知識を習得し、現代沖縄に関する諸問題を歴史的な視点から考察することができるようになること。

授業の概要

現在の沖縄をめぐる諸問題は、歴史的な堆積の上に存在するものである。その歴史的経緯を抜きに沖縄を論ずることはできない。本講義では、基地・文化・歴史教科書・アイデンティティといった沖縄をめぐる諸問題を歴史的な視点から考察してゆく。私たちが生きる沖縄の現在と沖縄近現代史とを往還することになる。

授業形態に関しては、各回のテーマを論争的なものひとつに絞り込み、授業前半で講師による解説を行い、授業後半で参加者間の意見の交換・バズ討論・発表という展開をとる。よって、参加する学生の発言が授業成立の前提となり、積極的な参加が不可欠である。

沖縄でより良く生きるための学知を提供し、話し合いの空間の創造を目指すので、より多くの学生の参加を期待する。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション	第8回： 【近代④】近代沖縄の歴史教育 (1895-1940年)
第2回： 【現在①】沖縄イメージとその政治性：『ちゅらさん』『ナヴィの恋』	第9回： 【近代⑤】山之口猥と大和で生きる沖縄人
第3回： 【現在②】歴史認識をめぐる抗争①2007年の歴史教科書検定をめぐる沖縄県民集会	第10回： 【近代⑥】ソテツ地獄と移民、植民地
第4回： 【現在③】歴史認識をめぐる抗争②小林よしのり『沖縄論』	第11回： 【近代⑦】「方言論争」と柳宗悦 (1940年)
第5回： 【近代①】「琉球処分」論争と「琉球救国運動」(1870-1895)	第12回： 【近代⑧】沖縄戦と「方言」(1945年)
第6回： 【近代②】謝花昇と沖縄の自由民権運動 (1900年前後)	第13回： 【戦後①】米軍基地の建設と沖縄経済 (1950年代)
第7回： 【近代③】伊波普猷の日琉同祖論と「個性」論(1910年代)	第14回： 【戦後②】復帰運動と1960年代の「方言札」
	第15回： 【戦後③】「反復帰論」と沖縄独立論・自立論 (1860年代～現在)

テキスト： 講師が配布するレジメ・資料をテキストとして用いる。

参 考 書： 池宮城秀意『戦争と沖縄』岩波書店、1980年（ブックレビューの課題図書）

評価方法・評価基準：評価に関しては、沖縄史の概説書のブックレビューの提出、各回の議論への参加具合、中間期末試験、レポートによって行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						30
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		10
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			15
その他	○	○			○		15

履修上の注意：新聞・TV・書籍などで沖縄社会の動向に注意を払うこと

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
近代沖縄とアイデンティティ		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：

沖縄の近代化がそのアイデンティティにもたらす様々な影響について学ぶ
 知識理解：「近代性」や「アイデンティティ」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ
 思考判断：近代化や多様性に対する自己見解を持つ 態度：国際社会と地域の事象を比較して考えることが出来る

授業の概要

近代国民国家日本の形成と沖縄の近代化が、沖縄のアイデンティティにどのような影響を及ぼしてきたのか、その歴史的背景と現状について学ぶ。アイヌ民族や在日コリアン、混血児や労働移民、難民など近代国家の狭間であって、様々な課題を抱える人々と沖縄を照らし合わせながら、アイデンティティについて考える。異質なものを排除する近代システムの暴力と、多様性の強みを理解し、多文化共生社会に積極的に関わるための知識と考察力を養う。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション	第8回： 第二次世界大戦と日系アメリカ人、沖縄系アメリカ人
第2回： 「近代」という時代	第9回： 米軍占領下における宣撫工作と沖縄のアイデンティティ
第3回： 近代国民国家と日本	第10回： 「日本復帰」、沖縄の経済開発とアイデンティティ
第4回： 「アイデンティティ」とは	第11回： 帰国県系人のアイデンティティ
第5回： 日本における少数民族の歴史と現状	第12回： 「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」とディアスポラ
第6回： 沖縄の近代化と日本への同化と沖縄戦	第13回： 観光のなかのイメージとしての沖縄文化
第7回： 沖縄の労働移民と沖縄救済活動	第14回： 地域言語と沖縄の文化的アイデンティティ
	第15回： まとめ

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
授業への参加度							30
その他 調査			○	○			20

履修上の注意：調査活動への参加は授業外、校外活動となります

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
中国語 I (Chinese I)		武村 朝吉

授業の到達目標及びテーマ

中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。基本的な文法事項を理解（約 30 個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができることを目標とする。

授業の概要

中国語のピン音（発音記号）の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。中国語 I では、テキストの第 1 課から第 8 課までを学習する。

授 業 計 画

第 1 回： 中国語の発音、ピン音、声調	第 9 回： 提案の仕方、“有”文
第 2 回： 発音練習、ピン音書き取り練習	第 10 回： 介詞構造
第 3 回： “吗”を用いた疑問文	第 11 回： 時間詞
第 4 回： 疑問代名詞を用いた疑問文	第 12 回： 連動文
第 5 回： 形容詞述語文	第 13 回： 連用修飾語
第 6 回： 動詞述語文	第 14 回： 方位詞
第 7 回： 所属・所有関係を表す連体修飾語	第 15 回： 反覆疑問文
第 8 回： “是”文、名詞述語文	

テキスト： 『漢語会話 301 句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社

参 考 書： 中日辞典

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		70
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度 授業への参加度			○	○	○		20
受講者の発表	○		○	○	○		
演 習	○	○			○		10
その他							

履修上の注意：相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5 回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
中国語Ⅱ (ChineseⅡ)		武村 朝吉

授業の到達目標及びテーマ

中国語の発音（声調コントロールを含む）の正確な発声方法を習得する。基本的な文法事項を理解（60個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読める、簡単な作文と平易な日常会話ができることを目標とする。

授業の概要

個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習も継続しつつ、十分な時間をかけ各課を学習する。各課の学習においては、基本的な文法事項の学習に続き、その応用として、簡単な日常会話の練習と作文練習を行う。

授 業 計 画

第1回： 中国語Ⅰの復習
第2回： 文末の語気助詞“了”
第3回： 動詞の重ね型、主述述語文
第4回： 能願動詞、二重目的語文
第5回： 連体修飾語としての数量詞
第6回： 兼語文、“是”文(2)
第7回： 結果補語、介詞“给”
第8回： 動態助詞“过”、無主語文

第9回： “还没(有)…呢”(完了の否定)
第10回： 選択疑問文
第11回： 動作の手段を表す連動文
第12回： 方向補語
第13回： “要…了”、“是…的”、“从”の用法
第14回： 同量補語
第15回： 連体修飾語としての動詞・動詞構造・主述構造

テキスト： 康玉華・来思平著作、 語文研究社

参 考 書： 中日辞典

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		70
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度 授業への参加度			○	○	○		20
受講者の発表	○		○	○	○		
演 習	○	○			○		10
その他							

履修上の注意：相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
韓国語 I (Korean I)		金 永秀

授業の到達目標及びテーマ
 ハングルの読み書きの基礎を身につけ、簡単な会話をすることができる。

授業の概要

ハングルの基礎から、簡単な会話と読み書きの習得を目的とする。CD による発音の練習を行い、実際に使われている音声に慣れる。日常会話で最もよく使われる基本的な単語を使用し、実際の例文を使って反復練習をおこなう。あいさつ、感情表現、自己紹介、旅行に必要な会話、暦やお金の数え方など、交流に必要最低限の語学力の習得ができる内容とする。韓国人の特別ゲストを招いて、実際の場面を想定した練習を、できるだけ多くおこなう。又、簡単な民謡、歌謡曲を数曲覚える。

授 業 計 画

第 1 回：	コースガイダンス、韓国と日本、沖縄について。	第 8 回：	いくらですか。
第 2 回：	ハングルの読み方と書き方。 (1) 母音	第 9 回：	春夏秋冬
第 3 回：	ハングルの読み方と書き方。 (2) 子音	第 10 回：	どこにありますか。
第 4 回：	ハングルの読み方と書き方。 (3) パッチムについて。	第 11 回：	私の好きなもの。
第 5 回：	数詞	第 12 回：	漢字の読み方と使い方
第 6 回：	挨拶 (アンニョンハセヨ) — 関連する文法	第 13 回：	韓国の歌 (1)
第 7 回：	挨拶 (2) 私の名前は金城です。— 関連する文法	第 14 回：	韓国の映画 (2)
		第 15 回：	まとめ

テキスト： 『韓国語を学ぼう』初級 (前半)

参 考 書： 民衆 韓日辞典

評価方法・評価基準：

適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を十分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
韓国語Ⅱ (KoreanⅡ)		金 永秀

授業の到達目標及びテーマ
会話に必要な文法の基礎を身につける

授業の概要

韓国語Ⅰの単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にする。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なハングル文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とする。ハングルで、韓国の地理、人口、生活と、ある程度の韓国の文化理解をし、日本及び、沖縄のことがある程度紹介できるようにする。ハングルは、漢字を多く使用することによって成立しており、漢字語を利用することにより語彙力の増強をはかる。韓国で流行している歌謡曲にも挑戦する。韓国人の特別ゲストを招いて韓国生活文化を学んだりもする。

授 業 計 画

第1回： コースガイダンス	第9回： 交通についての会話と関連文法事項(2)
第2回： 食事についての会話と関連事項(1)	第10回： 会社事務所での会話と関連文法事項
第3回： 食事についての会話と関連事項(2)	第11回： 会社事務所での会話と関連文法事項
第4回： 天候についての会話と関連文法事項(1)	第12回： 家庭生活についての会話と関連文法事項
第5回： 天候についての会話と関連文法事項(2)	第13回： 韓国の歌
第6回： 買い物についての会話と関連文法事項(1)	第14回： 韓国の映画
第7回： 買い物についての会話と関連文法事項(2)	第15回： まとめ
第8回： 交通についての会話と関連文法事項(1)	

テキスト： 『韓国語を学ぼう』初級(後半)

参考書：民衆 韓日辞典

評価方法・評価基準：

適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意：

語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
スペイン語Ⅰ		武村朝吉

授業の到達目標及びテーマ

スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際に使ってみる。

授業の概要

スペイン語の文字・発音について概説した後、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。また、文字の教え方、日時、曜日の言い方等、平易な日常会話で頻出する表現を練習する。

また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。

授 業 計 画

第1回： スペイン語ガイダンス	第9回： 時刻の言い方
第2回： 名詞、定冠詞、不定冠詞	第10回： 曜日と月、昨日、今日、明日
第3回： 形容詞、動詞 ser と estar	第11回： 単位、長さ、重さ、容積
第4回： 肯定文と否定文、前置詞	第12回： 規則動詞の活用
第5回： 所有形容詞	第13回： 規則動詞の活用練習
第6回： 指示詞	第14回： 不規則動詞の活用
第7回： 数の教え方、	第15回： 不規則動詞の活用の練習
第8回： 分数、序数、	

テキスト： 『スペイン語をはじめよう！』大岩功 著，すばる舎

参 考 書： 西和辞典

評価方法・評価基準：

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○			○		70
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度・ 授業への参加度				○	○	○		20
受講者の発表		○		○	○	○		
演 習		○	○			○		10
その他								

履修上の注意：相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
スペイン語Ⅱ		武村朝吉

授業の到達目標及びテーマ

スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際に使って見て、その感覚を蓄積する。

授業の概要

スペイン語Ⅰの復習を行いつつ、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。その上で、平易な日常会話ができるよう練習を行う。

また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。

授 業 計 画

第1回： スペイン語Ⅰの復習	第9回： 現在分詞とその用法
第2回： スペイン語Ⅰの復習	第10回： 比較の表現
第3回： スペイン語Ⅰの復習	第11回： 副詞、疑問詞
第4回： 目的語「を格」と「に格」	第12回： 関係詞
第5回： 向き違いの動詞	第13回： 否定語と不定語
第6回： 再起動詞	第14回： 未来形
第7回： 過去分詞とその用法	第15回： 点過去形、線過去形
第8回： 現在完了形	

テキスト： 『スペイン語をはじめよう！』大岩功 著，すばる舎

参 考 書： 西和辞典

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		70
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		20
受講者の発表	○		○	○	○		
演 習	○	○			○		10
その他							

履修上の注意：相互（学生⇔教師，学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
文化人類学 (Cultural Anthropology)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：「文化」という概念を説明できる。 関心意欲：自己および他者に興味を持てる。
 思考判断：社会的構築物としての概念を指摘できる。 態度：既存概念に疑いを持つ。

授業の概要

私たちの日常生活に存在する「文化」と「人類」に関する様々な課題を考える。15世紀に始まった大航海時代の異文化観からグローバル時代の文化人類学に至るまでの歴史を追い、「ヒト」と「文化」に対する考え方の変化を理解する。また、沖縄という現実を通して、文化人類学という学問が、わたしたちの社会生活にどのように影響を及ぼしてきたかを学ぶ。最後に「海洋民族」、「万国津梁の民」など、沖縄の文化的アイデンティティについても考えてみる。

授 業 計 画

第1回： 「文化人類学」とは？「文化」とは？	第9回： 象徴主義人類学
第2回： 15～17世紀大航海時代とヨーロッパ植民地主義	第10回： 解釈学的人類学
第3回： 社会進化論の人類文化研究	第11回： 「オリエンタリズム」と文化人類学
第4回： 文化伝播主義	第12回： グローバリズムと文化人類学
第5回： ボアズとアメリカ文化人類学	第13回： 日本文化人類学と「沖縄」
第6回： イギリス社会人類学	第14回： 沖縄のポップカルチャー研究
第7回： 「コロニアル人類学（古典人類学）」批判とパラダイム転換	第15回： 文化の雑種性と多文化主義
第8回： 構造主義人類学	

テキスト： 教材は、そのたびに講義担当者が準備する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：

レポートやエッセイを課す。講義への積極的参加が最も重視される。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			80
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
異文化理解 (Cross-cultural Understanding)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。
 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。 態度：他者の声を聴く態度を持つ。

授業の概要

新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたものは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。

「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。

授 業 計 画

第1回： 「文化」とは？「異文化理解」とは？	第9回： 現代アメリカの社会問題とヒップ・ホップ
第2回： 大航海時代と異民族・異文化接触	第10回： レイズムと音楽
第3回： アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度	第11回： 沖縄の音楽と文化
第4回： 奴隷解放とブルースの誕生	第12回： 歴史・社会・文化
第5回： 北部都市シカゴと R&B	第13回： 比較文化論
第6回： 貿易港ニューオリンズとジャズ	第14回： 日米における教育と文化の関連性について
第7回： ブルースからロックへ	第15回： 「文化」の概念再考
第8回： 抵抗の音楽～レゲエ	

テキスト： 教材は、そのたびに講義担当者が準備する。

参考書：

評価方法・評価基準：

レポートやエッセイを課す。講義への積極的参加が最も重視される。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度				○			50
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際平和学 (International Peace Studies)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：21世紀における平和構築の可能性を考える。

知識理解：世界の現状を説明できる。

関心意欲：発展途上国に興味を持てる。

思考判断：「グローバリゼーション」を指摘できる。 態度：地球市民としての意識を持つ。

授業の概要

21世紀を迎えた最初の年、私たちが直面した現実はこの世界が平和ではないこと、政治経済のグローバリゼーションに伴う新たな宗教間の対立や国際的テロリズムの蔓延など、平和をめぐる問題の構造の急激な変化であった。

これらの新たな紛争の原因を明らかにすること、現状に基づいた新たな平和研究の取り組みが今、必要とされている。「平和」や「暴力」など、根本的な概念を理論的レベルで再考すると同時に、それらが私たちの日常生活でどのような意味を持つのか、様々な側面から「平和」を考える。その一環として沖縄の米軍基地問題から身近に存在する暴力と平和についても学習する。またキリスト教の視点から世界平和について考えてみる。

授業計画

第1回： 「平和」と「暴力」	第9回： 憲法・教育基本法改定、有事法、自衛隊
第2回： 民族、宗教、国家間の紛争	第10回： 環境破壊と平和
第3回： 近代国民国家とナショナリズム	第11回： アメリカの世界的軍事戦略と在日米軍基地
第4回： 人口移動とグローバリゼーション	第12回： 音楽と平和
第5回： 新たな社会形態の可能性	第13回： ジェンダー・ジャスティス
第6回： 沖縄と平和	第14回： 核廃絶と軍備撤廃
第7回： 軍事主義と軍産複合体	第15回： 地球市民社会の創造
第8回： 国際テロリズムとは—9.11以降の世界	

テキスト： クラスにて指示します。

参考書： クラスにて指示します。

評価方法・評価基準：レポート・エッセイを課します。授業への積極的参加が最も重要視されます。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					25
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演習							
授業への参加度				○			45
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
海外ボランティア演習 (Overseas Volunteer Seminar)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：海外ボランティアの実践的手法を学ぶ。

知識理解：海外ボランティアの活動紹介ができる
 関心意欲：海外ボランティア活動に興味を持つ
 思考判断：活動の取り組みについて指摘できる
 態度：参加活動できるようになる

授業の概要

海外ボランティアとは何であるのかを学ぶ時間であり、本授業は海外ボランティア実習授業と連動している。海外ボランティア実習授業を検討中、もしくは興味ある学生の皆さんと一緒に本年度の現地の事前学習を兼ねたものとする。尚、現地へ行くことが無理な場合でも、本授業を受講することは可能であり、参加型授業を通して海外ボランティアを学ぶ時間としたい。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション	第9回： バリ島の調査・発表共有1 ネット・書籍を通じて
第2回： 海外ボランティアの心構え1	第10回： バリ島の調査・発表共有2 ネット・書籍を通じて
第3回： 海外ボランティアの心構え2	第11回： バリ島の調査・発表共有3 ネット・書籍を通じて
第4回： 海外調査法1 ～共に学びあうために～	第12回： ゲストスピーカーを招いて現地を知る
第5回： 海外調査法2 ～共に学びあうために～	第13回： 救急救命法体験 ～海外活動において自分の身をどう守るのか～
第6回： インドネシア・バリ島の歴史	第14回： ボランティア体験 (回不明、現在検討中)
第7回： NGO 活動事例の紹介 (日本)	第15回： 海外ボランティアとは (まとめ)
第8回： 社会派映画に観るバリ島	

※基本は、講義と参加型学習(ワークショップ)。
 時によりフィールドワークやボランティア体験への積極的参加を必要とする。

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			30
受講者の発表					○		20
演 習							
授業への参加度							30
その他							

履修上の注意： 本プログラムの履修に合わせて、海外ボランティア演習も同時履修であるとよい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
日本国憲法 (Japanese Constitutional Law)		仲宗根 京子

授業の到達目標及びテーマ

そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。

授業の概要

まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。

授 業 計 画

第1回： ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ	第9回： その他の人権、まとめ
第2回： 日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）	第10回： 統治総論（三権分立とは？）
第3回： 人権総論（新しい人権、外国人、子供）	第11回： 国会
第4回： 法の下での平等	第12回： 内閣
第5回： 精神的自由 ①内心の自由	第13回： 裁判所
第6回： ②表現の自由（教科書検定他）	第14回： 平和主義
第7回： 経済的自由	第15回： 授業内試験
第8回： 社会権（自由権との違いは？）	

テキスト： 初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマシリーズ（有斐閣）

参考書： 初宿正典他著『目で見える憲法 第4版』（有斐閣）

評価方法・評価基準： 期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			15
受講者の発表		○	○		○		15
演習							
授業への参加度			○				20
その他							

履修上の注意： 受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
アクションリサーチ		玉城 直美

授業の到達目標及びテーマ:開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ
 知識理解:調査の有効性、方法の知識を得る 関心意欲:アクションリサーチや調査活動に関心を持つ
 思考判断:課題を見つけ、深める 態度:アクションリサーチの活動への参加

授業の概要

アクションリサーチという研究方法を用いて、物事を深く調査する手続きを学ぶ。授業の流れは①問題の発掘、②調査、③課題の絞込み、④取り組み方針の設定、⑤手立ての明確化、⑥評価、⑦改善案の設定、という取り組み方法を学ぶ。調査方法、ワークショップ、ファシリテーションも併せて学び、様々な場面で有効活用可能な技術の習得も目指す。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回: イントロダクション	第8回: アクションリサーチ デモ(校内リサーチ2)
第2回: アクションリサーチとは	第9回: 校外学習に備えてデータ分析 その1
第3回: ワークショップ、ファシリテーションと は その1	第10回: 校内学習に備えて インタビュー訓練
第4回: ワークショップ、ファシリテーションと は その2	第11回: アクションリサーチ 地域を実際にデモウォーク(校外学 習)
第5回: マインドマップ 私の頭の整理	第12回: アクションリサーチ 地域を実際にデモウォーク(校外学 習)
第6回: SWOT 分析 私の強み・弱み・機会・脅威分析	第13回: 校外学習振り返り その1
第7回: アクションリサーチ デモ(校内リサーチ1)	第14回: 校外学習振り返り その2
	第15回: アクションリサーチの手法まとめ

※基本は、講義と参加型学習(WS=ワークショップ)。
 演習としてアクションリサーチへの積極的参加を必要とする。

テキスト: 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書: 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準:

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					20
授業態度 授業への参加度	○		○	○			30
受講者の発表		○			○		20
演 習							
その他 校外学習 アクションリサーチ参加	○		○			○	30

履修上の注意: アクションリサーチ活動への参加は授業外、校外活動となります

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
ジェンダー論		玉城直美

授業の到達目標及びテーマ: ジェンダーそのものの意味を理解しながら、社会をジェンダーの視点で見ていく。

知識理解: ジェンダーの持つ意味の理解

関心意欲: 社会の起きている事象をジェンダーの視点から見つめることができる

思考判断: ジェンダーの歴史的な流れおよび新しい示唆を持つことができる

態度: 授業への積極的な参加および自主学习への取り組み

授業の概要

ジェンダーとは、語源はラテン語: "genus" (産む、種族、起源) である。「生まれつきの種類」という意味から転じて、性別のことを指すようになった。しかし、ジェンダー研究が進むにつれて、家族・政治・軍隊などこれまで自明とされてきた事柄へのジェンダーの関与が明らかになり、ジェンダーを男女という2つの項目と捉えるのではなく、2つの区分を作り上げるものである。

メディアリテラシーからジェンダー捉えていく意味でも、アニメや様々なメディア情報を通して学んでいく。また沖縄の中での戦後復帰以降の女性運動にも触れていく。

授業の中で学んだトピックを学生自らが(グループ可)一つ取り上げ・掘り下げ、新たなジェンダー思想または価値観について発表を行ってもらう。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回: イントロダクション、導入	第8回: ワークシェアリング 家庭、家族、 個としてどう生きるのか
第2回: 女性学・ジェンダーとは何か	第9回: 女性と貧困の課題
第3回: 家父長制、日本における女性運動	第10回: 沖縄のジェンダー研究
第4回: メディアリテラシーとジェンダー	第11回: 社会派映画にみるジェンダー問題
第5回: アニメにみるジェンダーその1	第12回: 男性性について考える
第6回: アニメにみるジェンダーその2	第13回: 新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション その1
第7回: グローバリゼーションとジェン ダー	第14回: 新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション その2
	第15回: 講義まとめ、振り返り

テキスト: 適宜プリントを配布

参 考 書: 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準:

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30
受講者の発表		○			○		20
演 習							
その他 プレゼンテーション	○		○	○			30

履修上の注意：第 13, 14 回は学生自らによるプレゼンテーションです。グループ、個人、どちらでもよい

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際ボランティア論		玉城直美

授業の到達目標及びテーマ：国際ボランティア活動の意味と意義を理解しながら、社会活動への参加を促す
 知識理解：国際ボランティア活動の中身や流れを理解する
 関心意欲：地域社会で行われている活動に関心を寄せることができる
 思考判断：国際ボランティア活動の抱える課題や取り組みに対し個人的な判断を持つことができる
 態度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み

授業の概要

国内のボランティアに加え、なぜ人は国境を超えて活動するのだろうか？
 ボランティアの意義、特性、これまでの歴史や活動内容を分野ごとに整理して学んでいく。国境を越えて、または国内の中で行えるボランティア活動について学び合い、人と人が出会い、様々な価値観が触れ合い、互いに学び合う豊かな経験の可能性を持つことについて学ぶ。

本授業では、沖縄県内に暮らす在住外国人に対する多文化共生の実態調査を行う、県内 NGO への調査活動へボランティア参加を行うボランティア活動も予定している。

授業計画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第 1 回： イントロダクション、導入	第 8 回： 医療と国際ボランティア活動
第 2 回： ボランティアとは何か	第 9 回： 青年海外協力活動にみるボランティア活動
第 3 回： マザーテレサにみるボランティア活動	第 10 回： 社会派映画にみる国際ボランティア
第 4 回： 多文化共生とは その 1 ～日本および沖縄県の実態～	第 11 回： 福祉、循環型社会にみるボランティア活動
第 5 回： 多文化共生とは その 2 ～日本および沖縄県の実態～	第 12 回： 高齢化時代の国際ボランティア
第 6 回： 東日本大震災にみる国際ボランティア活動	第 13 回： 国際ボランティア体験 未定ではあるが、校外学習の予定
第 7 回： 教育と国際ボランティア活動	第 14 回： 国際ボランティア体験 未定ではあるが、校外学習の予定
	第 15 回： 講義まとめ、振り返り

テキスト：適宜プリントを配布

参考書：講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○		○			30
授業態度・ 授業への参加度			○	○			20
受講者の発表	○				○		20
演習							
その他 校外学習等への参加度			○	○			30

履修上の注意：第 13, 14 回は学生自らによるプレゼンテーションです。グループ、個人、どちらでもよい

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
NGO・NPO 論 (NGO・NPO)		玉城 直美

授業の到達目標及びテーマ

- ・ NGO・NPO の活動および取り巻く環境を学ぶ
- ・ NGO・NPO 活動に何らかの形で直接触れる
- ・ 本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで調査研究を行い発表・共有する

授業の概要

NGO（非政府組織）そしてNPO（非営利組織）と呼ばれる市民グループの社会的役割が現在注目されています。社会のひずみの中で、小さな穴に落ちてしまう弱者、もしくは私だってその一人かもしれない。活動内容、分野、経済的な効果や影響等、新しい分野でありよく分からない点もあります。その一つひとつ、授業者と皆さんとの協働でこの疑問を解決していく予定です。

特に、私たち沖縄県内に存在するNGO・NPOをケーススタディとしてライフスタイルのあり方を見つめる時間とします。

授 業 計 画

第1回： イントロダクション	第9回： 社会派映画にみるNGO・NPO活動
第2回： 地域を見る 私の町の課題発見	第10回： NPO/NGO ケーススタディ 国際協力・交流
第3回： 地域を見る 私の町の課題共有	第11回： NPO/NGO ケーススタディ 女性・子ども・福祉
第4回： NGO・NPO・ボランティア 行政、企業、NGO・NPOの役割	第12回： NPO/NGO ケーススタディ 学生NGO・NPO
第5回： 地域の課題、NPOの活動	第13回： NPO/NGO 調査結果1 学生自らの発表
第6回： 調査方法	第14回： NPO/NGO 調査結果2 学生自らの発表
第7回： NPO/NGO 団体調査書作成1	第15回： まとめ
第8回： NPO/NGO 団体調査書作成2	

※計画の変更の可能性あり。その都度連絡します

テキスト： 特になし

参考書等： 日々の新聞およびニュース等

評価方法・評価基準： レポート、期末テスト、グループ研究発表、授業への積極的参加

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○						20
授業態度 授業への参加度				○			20
受講者の発表		○					30
演習							
その他 課題への取り組み							20

履修上の注意： ディスカッションへの積極的な準備・参加・発言を評価します。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
経営学総論 (Introduction to Management)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ：経営学全般にわたる基礎知識を習得し、企業活動に対する理解を深める。

授業の概要

現代社会において、我々は企業との関わりなしに生活することはできない。我々の多くは、企業を通じて生計を立てている。企業の打ち出す方針によって生活が左右されることもある。

本講義は、我々と切っても切れない存在である企業について論じる。具体的には、企業活動は誰によって決定され、実行されているのか、企業の組織はどのようにして組み立てられているのか、組織の各構成部分はどうな機能を果しているのか等、経営学全般にわたって総論し、企業に対する理解度を強めていく。

講義は、36年間にわたって国内外の企業に勤務した実務体験と事例を織り込みながら、わかりやすく解説する。

授業計画

第1回： 講義の概要・進め方、評価方法等の説	第9回： 経営資源の獲得、利用、配分と経営戦略
第2回： 経営学を学ぶ意義	第10回： 企業の組織作りとは
第3回： 自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅰ	第11回： 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているか
第4回： 自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅱ	第12回： 企業はどのようにして製品やサービスを販売しているか（マーケティングという考え方について）
第5回： 企業は誰が動かしているのか	第13回： 企業はどのようにして人材を活用しているか
第6回： 企業は何を目指して活動しているのか	第14回： 企業はどのようにして資金を調達し、運用しているか
第7回： 経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅰ	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： 経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅱ	

テキスト： 片岡信之他 『初めて学ぶ人のための経営学 (Ver. 2)』 文真堂

参考書： 坂下昭宣 『経営学への招待』 白桃書房
 斉藤毅憲 『経営学を楽しく学ぶ』 中央経済社
 加護忠男・吉村典久 『1からの経営学』 碩学社

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。

配付資料は必ずファイルしておくこと

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
経済学 (Economics)		David Ulvog

授業の到達目標

知識理解：基本的な経済実態を把握する考え方を理解する。
 関心意欲：経済社会の現状・課題について関心を持つ
 思考判断：経済主体別・経済行動等に関する分析を通じて体系的・総合的な分析視点を持つ
 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

本講義では、具体的な事例を挙げながら経済学の基本的な考え方を理解し、その実態を的確に把握する基本的な視点・考え方を学ぶことを目的とする。併せて背景の経済理論も易しく説明する。

授 業 計 画

第 1 回： はじめに、経済学とは？	第 9 回： ケーススタディー
第 2 回： 市場取引の働き	第 10 回： 雇用市場の変貌
第 3 回： ケーススタディー	第 11 回： ケーススタディー
第 4 回： 市場均衡への道	第 12 回： 個人発表（個人評価とグループ評価）
第 5 回： ケーススタディー	第 13 回： 個人発表（個人評価とグループ評価）
第 6 回： 非競争市場	第 14 回： 個人発表（個人評価とグループ評価）
第 7 回： ケーススタディー	第 15 回： まとめ
第 8 回： 不揃いの情報	

テキスト： なし

参考書： なし

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- ・ 授業の目的をきちんと理解し、知的な好奇心、探究心をもって積極的に授業にかかわること。
- ・ 教室外の活動もあるので、各自責任をもって授業の進行・過程を確認すること。
- ・ 個人作業の責任を果たすとともに、他者との協働を怠らないこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
ビジネス実務総論 I (Theory of Business Practice I)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける

関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ

思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

今日、ビジネスを取り巻く環境は、社会・経済のグローバル化・IT化を背景として急速に変化している。そして、従来型に代わって新しいシステムの構築が求められ動き出している。本講義は、ビジネス環境の変化を的確に捉えながら、まず、ビジネスとは何かについて学ぶ。続いて、ビジネスの現場で起こっているオフィス環境やワークスタイルの変化に検討を加え、ビジネス実務の基本的知識・技能と心構えについて理解を深めていく。

授業計画

第 1 回： 講義の概要、進め方、 評価方法の説明等	第 9 回： 少子高齢化問題
第 2 回： ビジネスの目的、事業活動	第 10 回： 日本的経営システム
第 3 回： 営利組織と非営利組織	第 11 回： ワークスタイルの変化
第 4 回： ビジネスの定義	第 12 回： ワーカーの心構え
第 5 回： 経営とグローバル化	第 13 回： ビジネスと法律 I
第 6 回： 高度情報化	第 14 回： ビジネスと法律 I
第 7 回： 地球環境問題 I	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 地球環境問題 II	

テキスト： 全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店

参考書： 逐次紹介する。

評価方法・評価基準： テスト結果(期末)70点、授業態度(参加度・質問)30点を基準とし、総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○	○	○		30
授業態度								
受講者の発表								
演習								
授業への参加度				○	○			20
その他								

履修上の注意：

本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。

配付資料は必ずファイルしておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
ビジネス実務総論Ⅱ (Theory of Business PracticeⅡ)		湧川 華江

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける
 関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ
 思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

本講義は、「ビジネス実務総論Ⅰ」で学んだことを基礎において、具体化的な実務学習を行う。前半は、仕事の進め方、サービス活動、表現活動、組織活動について検討を加える。
 後半は、オペレーション活動、マーケティング活動、コストパフォーマンスの基本活動からビジネス実務を捉え、ビジネスの効率的な進め方と課題について解説する。
 講義にあたっては、具体的な事例紹介を行い、理解を深めていく。

授 業 計 画

第 1 回：	講義の概要、進め方、 評価方法の説明等	第 9 回：	マーケティング活動 (1)
第 2 回、3 回	仕事の進め方 (1)、(2)	第 10 回：	〃 (2)
第 4 回	サービス活動	第 11 回：	〃 (3)
第 5 回：	表現活動	第 12 回：	コストパフォーマンス (1)
第 6 回：	情報活動	第 13 回：	〃 (2)
第 7 回：	組織活動 (1)	第 14 回：	〃 (3)
第 8 回：	オペレーション活動	第 15 回：	まとめ・授業内試験

テキスト： 全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店

参 考 書： 逐次紹介する。

評価方法・評価基準：

テスト結果（期末）70点、授業態度（参加度・質問）30点を基準とし、総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		25
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			25
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
簿記論 (Bookkeeping)		本永 敬三

授業の到達目標及びテーマ

- ・決算書が作成できるようになること。
- ・決算書から経営状況がわかるようになること。

授業の概要

社会人になってどのような業務（経理は当然ですが、社長、営業、販売、製造、その他すべての業務）に就いたとしても、切っても切り離せないのが「会計」です。

本講義では、「活動あるところに会計あり」をテーマに簿記の基礎概念、日々の取引の仕訳から決算書の作成までの方法などを学び、その背景にある簿記・会計の理論を学習します。

授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります。

第1回： オリエンテーション	第9回： 固定資産
第2回： 貸借対照表	第10回： 借入金・資本金など
第3回： 損益計算書	第11回： 販売費及び一般管理費 営業外収入・営業外費用など
第4回： 売上高・売上原価	第12回： 仕訳・元帳
第5回： 現金・預金	第13回： 決算整理
第6回： 棚卸資産	第14回： まとめ（その2）
第7回： 売上債権・仕入債務	第15回： テスト
第8回： まとめ（その1）	

テキスト： 講義で配付する資料（配布資料のすべてがテスト範囲です！！）

参 考 書：TACの教室シリーズ 簿記の教科書日商3級 商業簿記 第2版（本体800円）
TACの教室シリーズ 簿記の問題集日商3級 商業簿記 第2版（本体800円）

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		70%
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20%
その他							

履修上の注意：出席は、講義終了後のアンケート提出で確認します。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
沖縄経済学 (Okinawan Economy)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：沖縄経済社会の実態把握の考え方・分析視点等を身につける
 関心意欲：沖縄経済社会の在り方について常に関心を持つ（経済紙を読む）
 思考判断：日本経済との比較分析することで総合的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

日本経済は長年のデフレから抜け出し、回復基調にあると報道や政府の見解が発表されている。沖縄も、観光産業が順調で回復基調が続くと見方がなされている。しかしながら沖縄の一人当たりの県民所得、完全失業率は依然厳しい状況にある事に変わりはない。

本講義では基礎的な経済学の知識と用語を習得し、日本経済新聞や地元新聞を読みこなすことによって、現在日本・沖縄経済が直面する状況を把握することに重点を置く。講義では地元新聞および日本経済新聞の記事、経済雑誌の記事を多用し、理解を深めていく。

授 業 計 画

第 1 回： 講義の内容・進め方等	第 9 回： 観光産業
第 2 回： 沖縄の全体像（Ⅰ）	第 10 回： 交通産業
第 3 回： 沖縄の全体像（Ⅱ）	第 11 回： 沖縄文化の産業化
第 4 回： 県民経済計算	第 12 回： 沖縄の特区（Ⅰ）（金融）
第 5 回： 県民の意識調査	第 13 回： 沖縄の特区（Ⅱ）（IT・物流）
第 6 回： 雇用	第 14 回： 沖縄地場産業の未来
第 7 回： 家計と金融	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 財政	

テキスト： 毎講義ごとに講義資料を配布する。

参 考 書： 講義ごとに提示する。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
キャリア・ガイダンス (Career Guidance)		松堂 美和子

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：自己を知るための分析方法を知るとともに将来就職する対象である業界・企業について包括的に理解を深める。
 関心意欲：自己のライフプラン及び就業に対する関心を持つ。
 思考判断：中長期視点をもって自分のライフスタイルを考え行動する。
 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

本講義は、社会人への移行をスムーズに行うために、さらに社会人としてのキャリアを活かしながら自分のライフプランを設計していくためのガイダンスを目的としている。
 具体的には、自分を知るための自己分析・適職興味検査・多様な職業理解・キャリアプランの設計について講義を行う。

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション キャリアデザインってなあに？	第 9 回： VRT 職業興味検査
第 2 回： 大学生のキャリア観	第 10 回： 現代社会の理解 I
第 3 回： 現在の自分を知る①	第 11 回： 一般常識模擬テスト
第 4 回： 現在の自分を知る②	第 12 回： 多様な職業の理解
第 5 回： 理想の未来に必要な能力①	第 13 回： 目標の「選択」と「分割」
第 6 回： 理想の未来に必要な能力②	第 14 回： キャリアプランの設計
第 7 回： あなたの金銭感覚は？	第 15 回： キャリアプランの発表
第 8 回： あこがれの人に学ぶ	

テキスト： 「職業とは何か」梅澤 正、オリジナル資料

参 考 書： 「キャリアデザイン」 岩井 洋、他

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		30
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度			○	○			10
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○			20
授業への参加度			○	○		○	20
その他							

履修上の注意：

毎回小レポート(意見・質問等)を課す。講義以外の各種セミナーへの参加あり。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
ビジネス実務演習 I (Applied Business Practice I)		湧川 華江

授業の到達目標及びテーマ

ビジネスの基本的な要素とその流れを理解し、効率的かつ効果的な実務処理能力の養成を目標とし、ビジネス実務を実際に行うために必要な知識や技術を習得する。

授業の概要

ビジネス現場で活躍するために必要なビジネスマナーを学習する。Microsoft Word を利用したビジネス文書作成演習を通して、ビジネス実務に必要な知識や技術を学ぶ。
文書作成のスピードアップの為に授業の始め5分～10分間を「美佳タイプ」でTouch typing の練習をする。

授 業 計 画

第 1 回： 「美佳タイプ」を使用したの touch typing の練習	第 9 回： ビジネス文書作成 (1)
第 2 回： あいさつのマナー	第 10 回： " (2)
第 3 回： 職場生活のマナー	第 11 回： " (3)
第 4 回： 実務のマナー	第 12 回： " (4)
第 5 回： 来客対応のマナー	第 13 回： " (5)
第 6 回： 他社訪問のマナー	第 14 回： " (6)
第 7 回： ビジネス文書のマナー	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： その他ビジネス実務に必要な知識・技術など	

テキスト：『BUSINESS MANNER PASSPORT』 ビジネスマナー向上研究委員会 株式会社 創育社

参 考 書：

評価方法・評価基準：

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
期末試験	○	○		○	○		45
小テスト・ 授業内課題(演習)	○	○	○	○	○		30
授業態度			○	○			} 25
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○				}
その他							

履修上の注意： 各自USBメモリを準備すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
ビジネス実務演習Ⅱ (Applied Business PracticeⅡ)		湧川 華江

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：ビジネス実務への総括的な理解を深める
- 思考判断：自分で考えて行動する思考判断能力を身につける
- 関心意欲：コミュニケーションスキルやビジネスマナー等へ関心をもつ
- 態度：真摯に取り組む態度で望む

授業の概要

本授業では、「ビジネス実務演習Ⅰ」に続き、ビジネス実務に必要な実務的な知識や技術の向上を目指す。日々、めまぐるしく変化するビジネス環境に対応できる能力やプレゼンテーション、コミュニケーション能力の重要性を重視し、修得をめざす。具体的な内容として、就職面接攻略法、ビジネスマナー、コミュニケーション実務、ビジネス文書作成、主要ビジネスソフトの紹介と練習を行い、就職に不可欠な技術を習得する。

授 業 計 画

第 1 回：	Introduction
第 2 回：	ビジネスマナーの基本
第 3 回：	名刺交換／来客応対
第 4 回：	電話応対
第 5 回：	飲食・慶弔
第 6 回：	仕事への基本姿勢
第 7 回、8 回：	ビジネス文書の基本と社内文書
第 9 回：	社外文書の特徴と基本構成

第 10 回：	Word の基礎
第 11 回、12 回：	PowerPoint の基礎
第 13 回、14 回：	Excel の基礎
第 15 回：	まとめ・授業内試験

テキスト： 適宜、プリントや資料を配布

参 考 書：

評価方法・評価基準： 授業への参加度、定期テスト、課題提出状況、受講態度などを総合的に判断して評価。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					45
小テスト・ 授業内レポート		○	○					30
授業態度				○	○			25
受講者の発表								
演習								}
授業への参加度				○	○			
その他								

履修上の注意： 各自 USB メモリを準備する事。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
会計学 (Accounting Principles)		本永 敬三

授業の到達目標及びテーマ

- ・財務会計と管理会計の役割、必要性が分かるようになること。
- ・社会的活動に必要な意思決定をするための「情報」の重要性が分かるようになること。

授業の概要

本講義では、「活動あるところに会計あり」をテーマに会計学の基礎概念のほか以下のことを学び、意思決定するための「情報」の重要性を学習します。

- ・株式会社の仕組みを理解した上で、財務会計、管理会計の必要性を学ぶ
- ・株式会社が営んでいる事業の仕組みと、財務諸表の読み方を学ぶ
- ・実際にある会社の財務分析をすることで、経営者の意思決定の難しさを学ぶ

授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります

第1回： オリエンテーション	第9回： 管理会計（原価計算）
第2回： 株式会社の仕組み	第10回： 管理計算（投資意思決定）
第3回： 財務会計	第11回： あの会社の財務分析を やってみよう！（その1）
第4回： ビジネスモデルと財務諸表	第12回： あの会社の財務分析を やってみよう！（その2）
第5回： 貸借対照表 （借金で困ってない？）	第13回： 公認会計士って何者？
第6回： 損益計算書 （儲かっている？）	第14回： まとめ（その2）
第7回： キャッシュ・フロー計算書 （お金回りはいい？）	第15回： テスト
第8回： まとめ（その1）	

テキスト：講義で配付する資料（配布資料のすべてがテスト範囲です！！）

参 考 書：キチンとわかる！簿記から始める会計入門（買わなくても大丈夫です）

評価方法・評価基準：

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○	○	○		70%
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度				○	○			20%
その他								

履修上の注意：出席は、講義終了後のアンケート提出で確認します。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際経済論 (International Economics)		

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：グローバリゼーションの本質を体系的に理解する。

関心意欲：国際経済の現状・課題について関心を持つ

思考判断：他国との比較分析を通じて客観的な分析視点を持つ 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

現在のグローバリゼーションの本質を経済の構造要因と循環要因により理解する。その実際の動向・仕組み等について各国の価格比較（内外価格差）、貿易実務者から説明等を通じて、国際経済における各国経済の実態等を理解する。また、世界経済白書・通商白書（政府の報告書）における国際経済の具体的な実態・課題について補足する視点等を体得する。併せて背景の経済理論等についても分かりやすく説明する。

授 業 計 画

第 1 回： 講義の内容・進め方・成績評価方法等の説明	第 9 回： 世界経済白書等を読む③
第 2 回： 地球規模で動く経済社会①	第 10 回： 通商白書等を読む①
第 3 回： 地球規模で動く経済社会②	第 11 回： 通商白書等を読む②
第 4 回： 世界規模で動く経済社会③	第 12 回： 日本と外国の価格比較から①
第 5 回： 世界規模で動く経済社会④	第 13 回： 日本と外国の価格比較から②
第 6 回： 世界規模で動く経済社会⑤	第 14 回： 日本と外国の価格比較から③
第 7 回： 世界経済白書等を読む①	第 15 回： まとめ
第 8 回： 世界経済白書等を読む②	

テキスト： 毎講義ごとに講義資料を配布する。

参 考 書： 講義ごとに提示する。通商白書（経済産業省）、世界白書（内閣府）

評価方法・評価基準：授業への参加度（50点：講義毎の小レポート）、期末テスト（50点）

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意： 毎講義ごとに小レポート（質問・意見）を提出。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
国際金融論 (International Finance)		高崎正名・David Ulvog

授業の到達目標及びテーマ

金融の基礎知識から国際金融市場の動向まで学び、国際金融のメカニズムを修得する。

授業の概要

国際金融論は、世界の経済情勢・金融動向を常に把握していく、極めて現実的かつチャレンジングな分野です。本講義は、金融基礎知識の理解・国際金融取引・外国為替・国際金融市場等を学び、国際金融の理論・分析手法の習得を目指します。

講義では、長年国際ビジネスに携わってきた実務経験を活かし、具体的な事例を中心に分かりやすく解説します。また、日々報道されている国際金融関連のトピックスについての解説も行います。

授 業 計 画

第1回： 講義の概要・進め方、評価方法等の説明	第9回： 外国為替市場と為替レート
第2回： 金融とは	第10回： グローバル化と金融新時代
第3回： 金融市場の仕組み	第11回： 主要な国際金融市場の特色
第4回： 金融機関の種類と業務	第12回： グローバル化と金融リスク
第5回： 金融商品の特徴Ⅰ	第13回： 事例研究～アイルランドの国際金融センター
第6回： 金融商品の特徴Ⅱ	第14回： 事例研究～沖縄金融特区
第7回： 国際金融の基礎知識	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： 国際金融取引の構造	

テキスト： 逐次プリント資料を配布する。

参 考 書： 1. 上川孝夫 『現代国際金融論』 有斐閣アルマ 2003年
 2. 有吉章編 『図説国際金融論』 財経詳報社 2003年
 3. 小川英治 『国際金融入門』 日本経済新聞社 2002年

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意： 本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。
 配布資料は必ずファイルしておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際経営 (International Management)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ

国際経営環境、国際的リスク、国際的経営戦略、組織構築、マーケティング等を学び、国際経営のあり方を修得する。

授業の概要

「国際経営論」が研究対象としている国際経営は、国内経営の単なる延長線上にあるのではない。国際経営は、複雑な国際経済情勢・国際経営環境・国際的リスク等の把握、そして国際的視野に立った経営資源（人・物・金）の最適配分、意思決定や組織の戦略的構築等が不可欠である。本講義では、国際的な経営戦略、組織の構築、情報システム、財務管理、人材活用、能力開発、マーケティング、リスク管理、そして異文化コミュニケーション等を学び、国際経営のあり方について理解を深める。なお、講義と並行して、国際経営論に関連したトピックスを逐次取り上げ、国際経営の最新情報を紹介していく。

授業計画

第1回： 講義の概要・進め方、評価方法等の説明	第9回： 国際経営組織の要諦
第2回： 国際経営と国内経営の違い	第10回： 海外生産活動の実際 (事例研究；トヨタ自動車)
第3回： 企業はなぜ国際ビジネス活動をおこなうか (事例研究；スズキ)	第11回： 海外子会社の組織づくり (事例研究；大和証券)
第4回： 国際経営のチャンスとリスク	第12回： 国際的な企業提携・事業買収（I）
第5回： 国際経営戦略の策定	第13回： 国際的な企業提携・事業買収（II）
第6回： 国際化と経営理念	第14回： 日本型多国籍企業
第7回： 人事管理とリーダーシップ	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： 国際マーケティングの進め方 (事例研究；タイ花王)	

テキスト： 逐次プリント資料を配布する。

参考書：吉原英樹 『国際経営論への招待』 有斐閣ブックス
 中村久人 『最新国際経営論』 中央経済社
 淵本康方 『国際経営学入門』 創成社

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
マーケティング (Introduction to Marketing)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ

ビジネス活動において必要とされるマーケティングの基礎知識を体系的に学び、実際の場面において応用できるマーケティング力の修得を目指す。

授業の概要

まず、始めにマーケティングの全体像を把握し、続いて企業を取り巻く環境・市場のとらえ方を把握し、商品づくりから顧客に届くまでのチャンネルや販売促進方法について学ぶ。こうした流れが身近に理解できるよう企業の実際の事例を紹介していく。

授 業 計 画

第1回： 講義の概要、進め方、留意点。	第9回： 事例研究：マクドナルド、吉野家
第2回： 業績が好調な企業のポイント	第10回： どこで売るか（流通チャンネル戦略）
第3回： マーケティングの全体像	第11回： 事例研究：ヤマト運輸（クロネコヤマト）
第4回： 企業を取り巻くマーケティング環境	第12回： どのように買ってもらうか（販売促進戦略）
第5回： マーケティング戦略を考える	第13回： 事例研究：ファミリーマート
第6回： 何を売るか（商品戦略）	第14回： これからのマーケティングを考える
第7回： 事例研究：ヒット商品紹介	第15回： まとめ、テスト
第8回： いくらで売るか（価格戦略）	

テキスト：逐次プリント資料を配布する。

参 考 書：大山秀一郎(著)「マーケティングの基本と常識」フォレスト出版 2005年
安田貴志(著)「マーケティングのしくみ」日本能率協会 2007年

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度			○				10
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
キャリア開発演習		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ

キャリア開発に必要な実践的知識・技能を講義と演習を通して修得する。

授業の概要

本講義は、前期の「キャリア・ガイダンス」で学んだことを基礎として、より実践的なキャリア開発について学んでいく。

具体的には、講義は演習を中心に進め、内容は必要書類の作成・筆記試験対策・業界、企業分析・面接対策等とする。

授 業 計 画

第 1 回： 就活の心構え	第 9 回： 新聞の読み方
第 2 回： 企業研究の進め方	第 10 回： 先輩の講話
第 3 回： 沖縄企業の研究	第 11 回： 面接の受け方
第 4 回： エントリーシートの書き方（Ⅰ）	第 12 回： 企業実務家の講話（Ⅰ）
第 5 回： エントリーシートの書き方・（Ⅱ）	第 13 回： 企業実務家の講話（Ⅱ）
第 6 回： 履歴書の書き方（Ⅰ）	第 14 回： ビジネスマナー
第 7 回： 履歴書の書き方（Ⅱ）	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 筆記試験のポイント	

テキスト： 逐次プリント資料を配布する。

参 考 書： 『JOB HUNTING GUID BOOK』 沖縄キリスト教学院大学

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				30
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				10
授業態度							
受講者の発表							
演 習	○	○	○		○		40
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意：本講義に関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
インターンシップ (Internship Program)		高崎正名・近藤功行

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：職業・業務に関する情報を把握・研究するとともに就業体験により見識を高め就職等に寄与する。
 関心意欲：就業に対する関心を強く持つ
 思考判断：仕事の概要・内容等に関する意味・働きを理解する 態度：積極的な勉学姿勢

授業の概要

インターンシップの目的は、「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと（平成9年、教育改革プログラム）」となっており、「正規の教育課程とする」もの、「学校行事とする」もの、「大学と無関係に行うもの」に分別される。

本講義は、「正規の教育課程」であり、基準を満たした者に対しては単位が与えられる。夏期休暇中の2週間程度、企業において就業体験を積む。事前指導では、テキスト、学外から講師を招いての講演を予定している。インターンシップの実施にあたっては、学生の仕事に対する意識向上だけでなく、配属先の活性化にも大きな効果をもたらすことを目標とする。なお、受け入れ先は自ら決めることを基本とする。

授 業 計 画

第 1 回： 講義の概要、心得、評価方法	第 9 回： 希望先企業の研究レポート完成
第 2 回： 事前指導、行動日程、希望先選定	第 10 回： 希望先企業の研究レポート発表
第 3 回： 先輩の話	第 11 回： 企業実習の心得
第 4 回： 希望先企業の選定	第 12 回： 職場とは
第 5 回： 履歴書の作成	第 13 回： 職場のマナー（1）
第 6 回： 履歴書の作成	第 14 回： 職場のマナー（2）
第 7 回： 履歴書の完成	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 希望先企業の調査・研究	

テキスト： プリント資料を逐次配布する

参 考 書： JOB HUNTING GUIDE BOOK 2015/ 沖縄キリスト教学院大学

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他(外部)	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度	○	○	○	○	○	○	50
その他			○	○			20

履修上の注意：

事後研修レポート（A4サイズ1枚以内）は、必ず提出すること。また、派遣先での実習風景を撮った写真も提出すること。なお、本学のインターンシップは、自分が働きたい分野での企業や機関に自ら研修を依頼する方式をとっているため、自主性と独立心が求められることを強調したい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
体育理論 (Physical Education Theory)		音野 太志

授業の到達目標

現代社会に生きる人々や自分自身の「からだの内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。

授業の概要

授業前半では、現代社会における身体的健康問題や、運動の効果について解説します。

授業後半では、スポーツメンタルトレーニングの方法を援用し、自分自身の内面について自己分析を試みます。

自分のライフスタイルを認識し、ふりかえることを目的に「生活習慣ダイアリー」を記録してもらいます。

授 業 計 画

- 第 1 回： コースオリエンテーション
- 第 2 回： 健康って？
- 第 3 回： ヒトという視点から見た現代人
- 第 4 回： 運動不足の影響
- 第 5 回： 運動の身体的効果
- 第 6 回： 生活習慣病、メタボリックシンドローム
- 第 7 回： 健康づくりのための運動、有酸素運動
- 第 8 回： ダイエットに関する誤解と正しい知識
- 第 9 回： 栄養摂取とカロリー摂取
- 第 10 回： 中間試験
- 第 11 回： こころの健康・スポーツメンタルトレーニングの目的と方法
- 第 12 回： スポーツメンタルトレーニングの効果
- 第 13 回： 心理テスト
- 第 14 回： 目標設定
- 第 15 回： まとめ・授業内試験

テキスト： 使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書： 九州大学健康科学センター編 『健康と運動の科学』 大修館書店

評価方法・評価基準：レポート60点（30点×2回）、テスト40点、による。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					40
小テスト・ 授業内レポート		○	○				60
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
体育実技 (Physical Education Practice)		音野 太志

授業の到達目標及びテーマ

実践を通し、「身体を動かすこと」への興味や関心を高め、自ら主体的に身体についての課題を発見し、解決していくための方法を身につける。また受講生同士のグループワークを通して、コミュニケーションを深めるとともに、自身のコミュニケーション能力についても考える機会とする。

授業の概要

正しいウォーキング・ジョギングのフォームを体得しつつ、身体的効果を得られる運動を実践する。また適宜、運動の効果や、運動強度などをミニ講義を通して学びながら、必要な運動量、運動強度を認識していく。

授 業 計 画

- 第 1 回： コースオリエンテーション（授業概要、目標、成績評価方法、等）
- 第 2 回： ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチング
- 第 3 回： ウォーキング 体慣らし
- 第 4 回： " 正しいフォームの獲得
- 第 5 回： " "
- 第 6 回： " 運動効果を上げるエクササイズウォーキング
- 第 7 回： " "
- 第 8 回： " "
- 第 9 回： " "
- 第 10 回： ジョギング 体慣らし
- 第 11 回： " 正しいフォームの獲得
- 第 12 回： " "
- 第 13 回： " 快適自己ペース走
- 第 14 回： " "
- 第 15 回： " " および まとめ

テキスト： 使用しない。

参考書： 特になし。

評価方法・評価基準： 授業への参加度 60 点 レポート 40 点 計 100 点による。実技試験は実施しない。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート		○		○			40
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度		○		○	○		60
その他							

履修上の注意：

- 1) 運動に適したシューズ、ウェアを準備すること。
- 2) 初回授業時は体育館に集合すること。
- 3) 活動量計 (2, 000~3, 000 円) を購入すること。詳しくは初回授業時に伝達する。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
生命の科学と倫理 (Life Science and Life Ethics)		近藤 功行

授業の到達目標

2004年度から実施となった本講義において、この時期から数年間は、BSE問題が、本講義におけるキーワードとして浮上した。逆に、2010年度においてはこのキーワードはベスト10から外れた。この年度、COP10が開催されたこともあり、生物多様性などに関連したもの、宇宙関連の内容も増えた。こうした本講義に関連した新聞記事収集を図りつつ、単年度でみれば合計件数はこの順位だが、トータルするとまだBSE問題は上位に来るため、目線をどこに置くかでこうした内容は違ってくる。基礎的知識に基づき、多層的な思考を養いつつ、既存概念に疑いを持ちつつ、生物系の内容に興味を持たせる取り組みを行う。

授業の概要

近年の科学技術の進歩は将来、長い目で見れば、人間の進化にもその影響を及ぼすと考えられる。講義当初の年度は当該科目に関するキーワード内容として、新聞記事に着目するとBSE問題などが突出した年度であった。その後、クローン、遺伝子治療、代理出産、など様々な内容が出ている。こういった講義を実施している中においても、どのようなキーワード(小見出しとなる関連事象)が現在、社会でおこっているのかに目を向け、概説して行くこととする。本講義は臓器移植や安楽死問題などよりも、より生物学(一部、地学内容含む)的な内容を重視し、その講義関連内容の最新情報の収集を図り、教示してゆく。

授業計画

第1回： 生命の科学と倫理を学ぶ意義を考える視点	<table border="1"> <tr> <td>第9回： 生物を考える視点② -固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石</td> </tr> <tr> <td>第10回： 地球環境と地球温暖化-森林から海への本来の必要な環境-</td> </tr> <tr> <td>第11回： 地球資源とバイオ燃料-代替エネルギー、バイオマスとは-</td> </tr> <tr> <td>第12回： 食を考える視点-遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全-</td> </tr> <tr> <td>第13回： BSE問題を考える視点-プリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説-</td> </tr> <tr> <td>第14回： 命を考える視点 -代理出産、無国籍児、体外受精-</td> </tr> <tr> <td>第15回： まとめ(試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出)</td> </tr> </table>	第9回： 生物を考える視点② -固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石	第10回： 地球環境と地球温暖化-森林から海への本来の必要な環境-	第11回： 地球資源とバイオ燃料-代替エネルギー、バイオマスとは-	第12回： 食を考える視点-遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全-	第13回： BSE問題を考える視点-プリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説-	第14回： 命を考える視点 -代理出産、無国籍児、体外受精-	第15回： まとめ(試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出)
第9回： 生物を考える視点② -固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石								
第10回： 地球環境と地球温暖化-森林から海への本来の必要な環境-								
第11回： 地球資源とバイオ燃料-代替エネルギー、バイオマスとは-								
第12回： 食を考える視点-遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全-								
第13回： BSE問題を考える視点-プリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説-								
第14回： 命を考える視点 -代理出産、無国籍児、体外受精-								
第15回： まとめ(試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出)								
第2回： 遺伝子組み換えと遺伝子組み換え技術								
第3回： 遺伝子組み換えと現在の農業 -自給率4割の国、日本-								
第4回： 種、BT菌、ES細胞(黄教授の功罪)、ヒトES細胞とiPS細胞(万能細胞)								
第5回： クローンネコ、クローン犬の誕生からクローン奄美の黒ウサギ、マンモスへ								
第6回： 進化を考える視点 -小笠原諸島、ガラパゴス諸島と1000年後のヒト-								
第7回： DNA技術とミトコンドリアDNA鑑定-この用語のもつ意味-								
第8回： 生物を考える視点① -雑種交配、絶滅危惧種、新種、希少(貴重)種、外来種-								

テキスト：毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります。

評価方法・評価基準：毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかかわるレポート課題(B5のレポート用紙で作成)を出します。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			70
小テスト・ 授業内レポート	○						10
授業態度							評価せず
受講者の発表							評価せず
演習							評価せず
授業への参加度				○			20
その他							なし

履修上の注意：予備知識は、不要です。生物・地学系の内容が中心となるなかで、現在起っている社会事象が学べます。県内企業のエントリーシートで、バイオマス・環境問題を書くようなことも、皆さんの中には起こるはずですが、教示している内容を自分のものにして、有効に使うことが大学で学ぶこと、大学生らしさにつながることでしょう。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
健康の科学 (Health Science)		近藤 功行

授業の到達目標及びテーマ

医療・保健・福祉系の分野で担当者は、継続した研究を行っている。そのため、こうした経緯を学生に教示する中で、学生も研究手法や当該分野に興味をもつことができればと考えている。沖縄に潜む内容なども盛り込みながら、現代社会における健康をテーマにした内容を取り扱うが、学生の習熟度や基礎的知識の違いもあることから、なるべく幅広いテーマ設定を行うことを心がけつつ、与えたテーマについては熟考できるだけの力を付けてもらいたいと考えている。つまり、ある事実に対しての意見・感想をより深く書けるだけの力量を身に付けてもらいたい。

授業の概要

沖縄の長寿、特に男性の平均寿命の低落が危惧されている。がん、脳血管疾患、心疾患などの発症には、個人の生活習慣が大きく影響している。このことは、生活習慣病という用語で、予防対策が叫ばれている。ライフスタイルの変遷、また、長寿要因を考究する上では、心理・精神面における健康現象も加味する必要がある。平均寿命が世界有数のものとなったわが国において、長寿の中味を考える必要がある。そこではQOL また QOD (Quality of Death) の側面も考究する必要がある。再生医学に至る近代科学の発展までを含め、講義する。

授 業 計 画

第 1 回：	人間にとっての健康とは。病気とは	第 9 回：	高齢女性の社会的役割 (第 2 回講義に連動)
第 2 回：	健康幻想。高齢女性の一過性の徘徊行動を探る視点。	第 10 回：	QOL また QOD について (死生学と健康科学の連関性)
第 3 回：	医療圏と救急搬送—沖縄、奄美群島内での調査研究から—	第 11 回：	生活習慣病・メタボ・大宜味村内の健康調査からの紹介
第 4 回：	缶飲料にみるカロリー表記 (ゼロキロカロリーの存在)	第 12 回：	再生医学を学ぶ、形成外科学の側面 (エンバーミング含む)
第 5 回：	百歳老人 (センテナリアン) を探る。秋田県と沖縄県の比較から	第 13 回：	沖縄の長寿は守れるのか、長寿科学の側面から
第 6 回：	身体の恒常性 (こころと精神のバランス)、心身医学・精神衛生学から	第 14 回：	厚生科学研究 (厚生省長寿科学研究事業) から得られた視点
第 7 回：	高齢者の生きがいを探る。よい老人ホームとは?	第 15 回：	まとめ (保健・医療・福祉を学ぶ視点; 試験にかわる課題説明)
第 8 回：	適寿 (appropriate age) 論、衛生学公衆衛生学の側面から		

テキスト： (毎回、担当者が作成したプリントを配布しての講義です)

参 考 書：購入の必要はありません。

近藤功行 (分担執筆) 『幸福祈願』 筑摩書房 (ちくま新書 196)、1999

近藤功行 (分担執筆) 『長寿の要因』 九州大学出版会、2000

近藤功行 (編集) 『死の儀法』 ミネルヴァ書房、2008

評価方法・評価基準：毎時間、B4 の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この用紙は欠席した場合は後で出して下さい (毎時間、担当者が作成したプリントを配布します)。これは成績に直接影響はしません。毎回学生の理解度を知る上で、また学生を救済する上で用います。講義終盤で、試験にかわるレポート課題 (B5 のレポート用紙で作成) を出します。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			70
小テスト・ 授業内レポート	○						10
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○				20
その他							なし

履修上の注意：特に前知識は (自然科学の知識) は問わない。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介やマスコミ報道などにも注意を払いながら進めていく。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
死生学 (Thanatology)		近藤 功行

授業の到達目標

本講義は、医療と結びついている内容でもあり、また教育の現場とも連動している内容となります。こうしたことから、この講義を受講している皆さんには社会的にどのような事象が現在、起きているのか、こうした予備知識を理解しつつ、担当者も解説に努めます。医療医学の知識が身に付くことを期待します。そうした中で、何故、こうした講義が本学で開講されているのか理解できることが、1つの到達点であるように考えています。教職課程の学習とも連動していると考えます。生と死を学ぶ教育、こうした視点を医学的観点から解説してゆきます。

授業の概要

各宗教(宗派)には、生と死に対する考え方がある。加齢(エージング)と共に、生きることの質が問われると同時に、死の質(Quality of Death)も考察しなければならない時代となってきている。終末期医療、ターミナルケアのあり方やホスピスケアの意義、死への科学(サナトロジー)を学生・社会教育の上で取り扱う時代が到来してきているその本質を教示する。実りある豊かな老いを考えるために、医学史におけるトピック、病理解剖面での知見、医療技術の変遷、再生医療等の現状を紹介し、現代社会における医療の役割を学びながら考究してみる。

授 業 計 画

第1回:	生と死を学ぶ学問
第2回:	よりよい生と死を考える視点
第3回:	ホスピスは我が国に定着するのか
第4回:	在宅死を考える視点-鹿児島県大島郡与論町の事例から-
第5回:	在宅ターミナルケアを学ぶ ビデオ学習(担当者; テレビ出演番組(60分))
第6回:	病院ケア、病院死を考える視点-鹿児島県大島郡与論町の事例から-
第7回:	エンバーミング、遺体観、身体観そして剖検(病理解剖)の側面を学ぶ
第8回:	ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(1)

第9回:	ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(2)
第10回:	各地にみられる死生観の側面を学ぶ
第11回:	若者~高齢者の持つ死生観
第12回:	死の人類学(1) ビデオ学習(30分) (担当者; テレビ出演番組)
第13回:	死の人類学(2) 生から死への途次、 死後・死者儀礼と文化
第14回:	エージング(加齢)、老い、終(つい) の場所、死、死者儀礼を探る
第15回:	まとめ(試験に代わる課題提出の説明、解説)

テキスト:

参 考 書:(映像資料)

塩月亮子(制作ビデオ):『死生観の人類学』第1巻「死をみつめる」、第2巻「死を体験する」、(株)新宿スタジオ 第1巻に担当者の協力資料の紹介あり。その他、担当者出演テレビ番組
2本のビデオテープを用いた教材を使用。(毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります)。受講者の状況を見て、こうした教材を避けて配付資料で説明の場合もあります。

評価方法・評価基準:

毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄を設けています。「ここで一言」のコーナーには何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は、成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかわるレポート提出の課題(B5版のレポート用紙で作成)を明示します。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○	○				70
小テスト・ 授業内レポート		○						10
授業態度								評価に加えず
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
授業への参加度				○				20
その他								なし

履修上の注意:

特に前知識(死生学に関連した)は必要としません。専門的な知識の修得を狙うのではなく、生と死を地域や担当者のフィールドワークから投げかける視点を通して、学んで欲しいと思っています。視覚教材を用いて講義を行う予定ですが、上述したように変更もあります。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
生活環境論 (Human Environmental Science)		近藤 功行

授業の到達目標

本講義では、医療・保健・福祉分野において、予防医学的な視点を中心に、離島医療における高齢者の終（つひ）の問題など、担当者の調査研究に基づいたフィールドワークから得られた視点を教示します。直接、受講者の卒業論文に影響を及ぼさないかも分かりませんが、本講義を通して、研究手法、研究に関する一連の内容を教示することに心がけます。4年生の受講となる講義のため、研究目線を中心とした内容で本講義を展開します。深い洞察力を身に付け、社会事象を理解し、より深い知識が身に付けられることを目指したいと考えています。

授業の概要

寝たきり予防は、自己管理で可能か。超高齢社会に突入した現在、疾病予防と介護予防の2つの行政サービスが展開されている。「転ばぬ先の杖」という言葉は昔からの言い伝えだ。ただ、杖1つとっても、ステッキ、T字型、フィッシャー形、C字型、ロフトランド・クラッチと目的用途は多数である。歩行器や車椅子も、多種多様。家庭内事故、転倒、骨折、寝たきり。「高齢者が病院に行くわけ」を考えること、住宅改造のイロハ、福祉器具などを考えることで、先の命題が解決できないだろうか。介護に関連する内容も加味し、このテーマを考究する。

授業計画

第1回：	人類働態学 (Human Ergology)、人類生態学 (Human Ecology) 的健康観
第2回：	疾病予防と介護予防
第3回：	寝たきり予防は自己管理で可能か — 与論 島での調査研究から—
第4回：	元気な高齢者であることの意義
第5回：	3障害 (障碍) の中で、精神障害者、回復者を考える視点
第6回：	バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
第7回：	ノーマライゼーションの発想と障害者雇用、その職種、職場環境を探る

第8回：	雪国における車椅子の使い方について
第9回：	3障害こみる手厚さの違い — 交通バリアフリー法 補助犬法、ジョブコーチ制度など—
第10回：	福祉船の就航する島 — 岡山県笠岡市の島々—
第11回：	寝たきりにかわる用語を探る
第12回：	百寿者が生活する家庭環境
第13回：	ケアサイエンスとフィールドワーク (1)
第14回：	ケアサイエンスとフィールドワーク (2)
第15回：	まとめ (試験に代わる課題の解説、説明を実施)

テキスト：こちらで講義資料を印刷して、準備します。

参考書：近藤功行 (共著) 『高齢者教育論』 東信堂 1997 (講義資料は毎回プリント配布します。購入は不要です。)

評価方法・評価基準：毎時間、B4 の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想を書く余白、そしてその下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方的になりがちな講義の解消に努めます。講義終盤で、試験にかわるレポート課題 (B5 のレポート用紙で作成) を明示します。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			70
小テスト・授業内レポート	○						評価に加えず
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価にく
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：特に、前知識は問いません。講義計画は、1~15まで記載していますが、講義の進行状況や学生の興味関心などで、順位の変動や内容が変わる場合も想定されます。授業への積極的な取り組みを希望します。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介などを含めて、講義を進めて行きます。なお、感想用紙などを毎回用いる理由には、これまで4年制大学で卒論ゼミを持った学生が、2次3次の就職試験で落ちてくるのは簡単な作文です。日頃から書くことをしておきたい担当者の老婆心から始まっている内容です。

授業科目名	2単位	担当教員																																																																
自主研究 (Independent Research)																																																																		
授業の到達目標及びテーマ																																																																		
<p>授業の概要</p> <p>カリキュラムに設置されていない科目（分野）について研究を深めたい学生、または設置されている科目について更に高度の知識・技能を身につけたい学生、を対象にした科目である。個々の学生が、適切な指導教員のもとで自主的に学習・研究し、その成果に対して単位が与えられる。</p>																																																																		
<p>授 業 計 画</p> <p>1. 学生は、指導を希望する専任教員に対して下記の事項を含む提案書を提出し相談する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日英両語による研究テーマ名 2) 研究の目的 3) 自主研究を行う理由 4) 指導教諭との面談日ならびに面談回数・時間 5) 学習・研究活動計画書／リーディング・リスト 6) 学習・研究の評価方法について <p>2. 下記の者の承認が得られた場合にかぎり、自由研究による履修が受理される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導教諭 2) 学部長 3) 教学支援部長 																																																																		
テキスト：																																																																		
参 考 書：																																																																		
<p>評価方法・評価基準：</p> <p>学習・研究内容による評価が決定される。</p> <p>成績簿には、「自主研究 (...テーマ...)」と記される。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">到達目標等</th> <th style="text-align: center;">知識・理解</th> <th style="text-align: center;">思考・判断</th> <th style="text-align: center;">関心・意欲</th> <th style="text-align: center;">態度</th> <th style="text-align: center;">技能・表現</th> <th style="text-align: center;">その他</th> <th style="text-align: center;">評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">授業態度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">受講者の発表</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">演 習</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">授業への参加度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：																																																																		

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
フレッシュマン・セミナー I		近藤功行 伊佐雅子 金永秀 照屋信治 浜川仁 武村朝吉 糸洲理子

授業の到達目標及びテーマ：アドバイザーや学友との豊かな関係の中で、本学の理念やカリキュラムを理解し、大学生に必要な最低限のアカデミックスキルを獲得する。

授業の概要

- 1) 自校教育。キリ学に学ぶ意義を理解し、本学学生としての自覚を高める。図書館利用案内・カリキュラム解説・大学生活での目標の相談・渡嘉敷キャンプに向けての平和教育。
- 2) アカデミックスキルズ（読み・書き・調査・発表・議論など）。テキストで目標とされている「精読」「要約文」「論評文」「ブックリポート」まで。引用・注釈・参考文献一覧などを備えたレポートが書けるようにする。
- 3) 少人数のアドバイザーグループでの授業の中で、充実した学びの基礎となる人間関係を形成する。

授業計画

第1回： 講義の概要説明。図書館利用説明。	第8回： 要約文の作成③（同上）
第2回： 精読①（渡嘉敷キャンプ概要、金城重明氏の著作、平和教育）	第9回： 論評文の作成③（同上）
第3回： 要約文の作成①（同上）	第10回： ブックリポートの作成①
第4回： 論評文の作成①（同上）	第11回： ブックリポートの作成②
第5回： 議論①（同上）	第12回： ブックリポートの作成③
第6回： 要約文の作成②（各講師設定課題）	第13回： ディベート①
第7回： 論評文の作成②（同上）	第14回： ディベート②
	第15回： ブックリポートの提出、まとめ

テキスト： 沖縄キリスト教学院大学著『論述・作文』2011年

参考書： 授業中に提示、あるいは提供する。

評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度	○	○	○	○	○		20
受講者の発表	○	○	○	○	○		20
演習							
授業への参加度	○	○	○	○	○		20
その他	○	○	○	○	○		20

履修上の注意：

- 1 初年次の必修科目である。
- 2 積極的に発言すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員																																																																
フレッシュマン・セミナーⅡ		Chris Valvona, Daniel Broudy, David Ulvog, Geoffrey Shinha, 新垣 誠、新垣 友子、玉城 直美																																																																
授業の到達目標及びテーマ フレッシュマン・セミナーⅠ で学んだ「読む・書く」などのアカデミックなスキルに加え、フレッシュマン・セミナーⅡ では、ディベートやプレゼンテーション、グループ・プロジェクトなどを通して、社会に対応し適応する力としてのコンピテンシーを身につける。 また、これらの社会適応能力を英語を通して取得することを目的とする。																																																																		
授業の概要 個人よりもグループでの作業を中心とする。グループ・ディスカッションやプロジェクト、プレゼンテーションを通して、表現力、理論的思考力、主体性／積極性、社会への関心や、他者と協働するためのスキルを身につける。																																																																		
授 業 計 画 <table border="1" data-bbox="199 678 1380 1164"> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 678 770 757">第 1 回： 批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション</td> <td data-bbox="810 678 1380 757">第 8 回： 調査研究結果①に関するディスカッションとディベート</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 757 770 835">第 2 回： ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備</td> <td data-bbox="810 757 1380 835">第 9 回： ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 835 770 913">第 3 回： ディスカッションと評価(個人とグループ)</td> <td data-bbox="810 835 1380 913">第 10 回： テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 913 770 969">第 4 回： 調査研究①のテーマ設定と研究計画</td> <td data-bbox="810 913 1380 969">第 11 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 969 770 1025">第 5 回： 調査研究①の実施</td> <td data-bbox="810 969 1380 1025">第 12 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1025 770 1081">第 6 回： 調査研究①の結果発表準備</td> <td data-bbox="810 1025 1380 1081">第 13 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="199 1081 770 1160">第 7 回： 調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価)</td> <td data-bbox="810 1081 1380 1160">第 14 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="810 1160 1380 1164"></td> <td data-bbox="810 1160 1380 1164">第 15 回： まとめ</td> </tr> </tbody> </table>			第 1 回： 批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション	第 8 回： 調査研究結果①に関するディスカッションとディベート	第 2 回： ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備	第 9 回： ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画	第 3 回： ディスカッションと評価(個人とグループ)	第 10 回： テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ)	第 4 回： 調査研究①のテーマ設定と研究計画	第 11 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)	第 5 回： 調査研究①の実施	第 12 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)	第 6 回： 調査研究①の結果発表準備	第 13 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)	第 7 回： 調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価)	第 14 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)		第 15 回： まとめ																																																
第 1 回： 批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション	第 8 回： 調査研究結果①に関するディスカッションとディベート																																																																	
第 2 回： ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備	第 9 回： ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画																																																																	
第 3 回： ディスカッションと評価(個人とグループ)	第 10 回： テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ)																																																																	
第 4 回： 調査研究①のテーマ設定と研究計画	第 11 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)																																																																	
第 5 回： 調査研究①の実施	第 12 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)																																																																	
第 6 回： 調査研究①の結果発表準備	第 13 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)																																																																	
第 7 回： 調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価)	第 14 回： 個人発表 (個人評価とグループ評価)																																																																	
	第 15 回： まとめ																																																																	
テキスト： 担当教員が逐次配付する																																																																		
参 考 書： なし																																																																		
評価方法・評価基準： <table border="1" data-bbox="284 1429 1348 1731"> <thead> <tr> <th data-bbox="284 1429 475 1462">到達目標等</th> <th data-bbox="475 1429 587 1462">知識・理解</th> <th data-bbox="587 1429 715 1462">思考・判断</th> <th data-bbox="715 1429 842 1462">関心・意欲</th> <th data-bbox="842 1429 962 1462">態度</th> <th data-bbox="962 1429 1090 1462">技能・表現</th> <th data-bbox="1090 1429 1209 1462">その他</th> <th data-bbox="1209 1429 1348 1462">評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="284 1462 475 1507">成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1507 475 1552">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1552 475 1597">授業態度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1597 475 1641">受講者の発表</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1641 475 1686">演 習</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1686 475 1731">授業への参加度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1731 475 1776">その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意： <ul style="list-style-type: none"> 授業の目的をきちんと理解し、知的的好奇心、探究心をもって積極的に授業にかかわること。 教室外の活動もあるので、各自責任をもって授業の進行・過程を確認すること。 個人作業の責任を果たすとともに、他者との協働を怠らないこと。 																																																																		

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員																																																																
キリスト教平和学 (Christian Peace Studies)		金永秀・神山繁實・中原俊明・大城実																																																																
授業の到達目標及びテーマ 「キリスト教」「沖縄」から平和に関する 이슈、思想、歴史を考える																																																																		
授業の概要 聖書における平和理解をはじめ、特にキリスト教の歴史の中にみられる主要な平和論又は反暴力運動を概観し、いわゆる「ポスト冷戦」時代における平和運動、特に沖縄における平和運動の重要性に目覚め、 「平和の島・沖縄」建設への道を模索すると共にグローバルな視点での平和を考える。																																																																		
授 業 計 画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 第1回： コース・オリエンテーション 第2回： 聖書における平和（シャロームとエイレーネ） 第3回： 聖書における国家権力と宗教 第4回： アウグスチヌスにおける「地上の国」と「神の国」 第5回： 宗教改革者（特にアナバプテスト）の戦争と平和理解をめぐって 第6回： 「大交易時代」の琉球の夢と理想 第7回： ガンジーの非暴力運動と思想 第8回： 「15年戦争」の結末としての沖縄戦 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> 第9回： ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」における平和の理念 第10回： 「第二次大戦かにおける日本基督教団の責任についての告白」における平和 第11回： フィールド 第12回： 戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質 第13回： 戦争と女性 第14回： マーティン・ルーサー・キング牧師 第15回： まとめ </td> </tr> </table>			第1回： コース・オリエンテーション 第2回： 聖書における平和（シャロームとエイレーネ） 第3回： 聖書における国家権力と宗教 第4回： アウグスチヌスにおける「地上の国」と「神の国」 第5回： 宗教改革者（特にアナバプテスト）の戦争と平和理解をめぐって 第6回： 「大交易時代」の琉球の夢と理想 第7回： ガンジーの非暴力運動と思想 第8回： 「15年戦争」の結末としての沖縄戦	第9回： ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」における平和の理念 第10回： 「第二次大戦かにおける日本基督教団の責任についての告白」における平和 第11回： フィールド 第12回： 戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質 第13回： 戦争と女性 第14回： マーティン・ルーサー・キング牧師 第15回： まとめ																																																														
第1回： コース・オリエンテーション 第2回： 聖書における平和（シャロームとエイレーネ） 第3回： 聖書における国家権力と宗教 第4回： アウグスチヌスにおける「地上の国」と「神の国」 第5回： 宗教改革者（特にアナバプテスト）の戦争と平和理解をめぐって 第6回： 「大交易時代」の琉球の夢と理想 第7回： ガンジーの非暴力運動と思想 第8回： 「15年戦争」の結末としての沖縄戦	第9回： ナチスの台頭と教会闘争「バルメン宣言」における平和の理念 第10回： 「第二次大戦かにおける日本基督教団の責任についての告白」における平和 第11回： フィールド 第12回： 戦争沖縄における土地闘争と平和論の特質 第13回： 戦争と女性 第14回： マーティン・ルーサー・キング牧師 第15回： まとめ																																																																	
テキスト： 『聖書』																																																																		
参 考 書： 『非暴力思想の研究』、『バルメン宣言研究』等																																																																		
評価方法・評価基準： レポート 1) ブック・レポート 2) フィールドのレポート 3) 口頭及び文章によるリサーチのレポート																																																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：																																																																		

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
卒業基礎研究 (演習) I・II		

授業の到達目標及びテーマ

「卒業基礎研究 I」「卒業基礎研究 II」は 3 年次の学生が履修する科目である。4 年次に卒業論文を作成する前段階として、学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得する。各ゼミ担当者の方針により具体的な達成目標に違いはあるものの、例えば、自主的にテーマを定め、先行研究の検討などを行い、ゼミ内で発表・ディスカッションを行う。卒業論文のコアとなるレポートを作成することを達成目標としたい。

テーマの選定に関しては、学生の主体性に任せる。ただし、担当教員の指導可能なテーマにすること。

授業の概要

卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、卒業論文を作成するための基礎的な能力を習得する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として 10 名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。また授業は隔週で行われ、各学期 8 回である。

ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文のコアとなるレポートを作成することを目標としたい。

卒業基礎研究 (演習) の流れ

〔2 年次後期〕

- ① 1 月中旬・・・所属ゼミに関する希望調査
- ② 3 月中旬・・・所属ゼミの決定

〔3 年次前期〕

ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。

基本文献を輪読しつつ、全学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。

〔3 年次後期〕

3 年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。

テキスト・参考書： 各担当教員が提示する。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○	○	○	○	30
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	20
演習	○	○	○	○	○	○	20
授業への参加度	○	○	○	○	○	○	30
その他							

履修上の注意：

本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究(演習)Ⅰ・Ⅱ		

授業の到達目標及びテーマ

学術的なレポート・論文を作成する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。

授業の概要

卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。

ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール形式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。

卒業論文作成までの流れ

〔1年時前・後期〕

「フレッシュマンセミナーⅠ」「フレッシュマンセミナーⅡ」を受講。大学に必要なアカデミックスキル(読み・書き・調査・発表・議論など)を身につけると同時に、本学のカリキュラムについての理解を深め、4年次の卒業研究をにらみつつ、様々な科目を学んでゆく。

〔2年次後期〕

1月中旬に、所属ゼミに関する希望調査を行う。そして、3月中旬には所属ゼミを決定する。

〔3年次前期〕

「卒業基礎研究Ⅰ」を履修。ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。基本文献を輪読しつつ、学学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。

〔3年次後期〕

「卒業基礎研究Ⅱ」を履修。3年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。

〔4年次前期〕

「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。

〔4年次後期〕

「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い。卒業論文を完成させる。12月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2月上旬には卒業論文の提出。

テキスト・参考書： 各担当教員が提示する。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○	○	○	○	30
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	20
演習	○	○	○	○	○	○	20
授業への参加度	○	○	○	○	○	○	30
その他							

履修上の注意：

本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		近藤 功行
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>担当者のところでは、第4章構成で終えるため、規定枚数の心配はない。この章立てで書き終わるとそこはすでにクリアしているからだ。大学院進学にあたり、通用する論文指導を実施している。学部レベルにおける当該論文指導の手法は、[はじめに]+[第1章 各節立て+小括～第4章 各節立て+小括]+[おわりに（課題）]+[文献]の構成である。各章の始まり部分で、各章でこれから何を論じるのか明記させる。また、各章ごとに小括でまとめることとし、そのことは、各章立てがどこでどう有機的に連動するのかを説明することともつながる。第4章構成の章だてを行うことで、当該論文で犯人が捜し出しているのか、ここを一緒にみてトレーニングすることとなる。文献は10冊程度の挿入を図る。これらの作業を一緒に行うことで、就活と連動したこうした諸作業から、自己の研究を対外的にも口述できる力が養われ、どんどん伸びてゆくことが期待される。学術的内容と社会的視座の両方を学生は、この1年間で学ぶこととなる。</p>		
<p>授業の概要</p> <p>学際的領域の担当として、1期生では、日米両文化の食、アロマセラピーとハーブを通じた癒やし、自己のジム通いを通してのスポーツの重要性、沖縄に移住してくる人の意識面、日本人の宗教観、絵本、三味線を通してのウチナンチュの心、といった内容の7名の卒論提出があった。2期生では、ロハス・エコ・環境問題、ダンスセラピー、バスケットボール、食の安全性、沖縄のリゾートウエディングと観光、沖縄の人と音楽の繋がり、ギャンブル依存症（パチンコ依存症）、美容・ブライダル、ペットと生きる質の変化、ヨーロッパ文化とサッカー、沖縄の祖先崇拝の精神、愛国心と道徳教育、青年会活動とエイサー・非行撲滅、肥満と健康、ステレオタイプ、子供の出産・幸せな結婚、現代人の健康と運動、ハワイのフラ・エステ、をめぐる18名の研究があった。3期生11名は、これ以外の内容を取り組んでおり、自己の興味・関心を発展させることを優先しているため、テーマ設定に関してのいわゆる縛りを設けず、自己の研究を発展させることを目指している。4期生は、17名が終了した。</p>		
<p>卒業研究（演習）の流れ</p> <p>各自の卒論を進める中で、論文の書き方を習得させることを目標に置く。そのため、1期生から全員、本論に関しては第1章から第4章までの構成で書く指導を実施（「はじめに」「終わりに（課題）」「文献」）。各章各節と各章の最後に「小括」（章のまとめ）を挿入して、論文を展開する技法を指導している。当初抱いていた自分の興味・関心は、絶対に盛り込むが鉄則である。指導者側がみれば、絶対にどこかにその内容は盛り込めるため、自己の関心を引き出す努力を学生と指導者側で探求・追求していく。</p>		
4月～ 6月	<ol style="list-style-type: none"> ① テーマ設定の仕方についての指導。 ② 先行研究の文献検索の仕方の指導。 ③ 研究方法の検討。 ④ 文献挿入に際して有効なインターネット検索とそうでない場合の説明。 ⑤ 章だて節だて（各章ごとの最後に「小括」を挿入）に向けた学習（1期生から、これまで第1章～第4章構成で卒論指導実施）。 ⑥ アンケート調査の手法を学ぶ（実施者を想定し）&予備（プレ）調査実施、分析・検討。 ⑦ 論文構成の確認（「はじめに」「本論（第1章～第4章）」「おわりに（課題）」「文献」）。 ⑧ [中間発表会（6月期予定：3年次ゼミ学生も同席）]。 	
7月～ 9月	<ol style="list-style-type: none"> ① アンケート調査（実施者のみ）票の作成（アンケートをつくり聞き取り調査にまわす場合もあり）。 ② アンケートを実施する学生は7月期迄に終える指導。 ③ 卒業論文指導（夏休み、各自での実施体制をつくる）。 	
10月～12月	<ol style="list-style-type: none"> ① 本調査の実施。 ② データ整理と分析。 ③ 各章節の文章化（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。 ④ 引用と参考文献の用い方実践（各自の卒論を通して、文献と本文記載内容を実際に全件チェック）。 ⑤ [卒論進展状況の発表（卒後の進路方向性などを含む）：4年次のみで実施]。 	
12月（冬休み）	<ol style="list-style-type: none"> ① 全体文章のチェック（本論：第1章～第4章迄の入力中の文章） ② 各章の[小括]文章の挿入。「要約」を書く作業。「キーワード」の抽出。「目次」（図表がある場合これらも該当）をつくる作業。 ③ 文献が10冊以上挿入されているか。必要な場合は「謝辞」挿入。 	
1月～ 2月	<ol style="list-style-type: none"> ① 研究結果のまとめ（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。 ② 提出に向けた指導教員との最終の詰めの作業。 ③ 本論あとの「終わりに」の中で、今回解明出来なかった内容&将来に持ち越すこ 	

ととなる「課題」文章作成&「要約・キーワード」「目次(本文&図表)」「表紙」作成。
 ④ 挿入された全文献記載の整合性を指導教員と最終チェック&完成。

テキスト・参考書：
 指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。

評価方法・評価基準：
 卒業論文指導は、上記の流れのように章・節立ての手助け含めて、マンツーマンでのやりとりを実施している。そのため、最終提出があった評価に関して『秀』以外は存在しない。それ以外の評価でなければ困る学生に関しては相談に応じる。ただし、過去にその事例はない。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							水塊に加え
小テスト・ 授業内レポート							評価に加え
授業態度							評価に加え
受講者の発表							評価に加え
演習							評価に加え
授業への参加度			○	○			評価に加え
その他	○	○	○		○	○	100

履修上の注意：
 1) 「何でかねえー」と当初疑問を持ったことを、科学的に説明する力が必要だと考える。「第○章第○節と第○章第○節のここを見て下さい」「ここで類似あるいは相違があるでしょう。だから、最後に出てくる犯人を決める材料はここにあるんです。」、といった裏付けが実施出来るかどうか。また、自分が作ったオリジナルな図・表(ここでは、欄外に「2010年: ××××作成」記載をする。××××は卒論提出者の氏名である)で勝負出来れば、この論文はある意味、新知見(New Finding)が得られたことにつながる。
 2) 卒業論文は、他の講義課題の提出と違って、後輩に残してゆくものとなります。そのため、教員と一緒に二人三脚となり、「何でかねえ〜」と考えたテーマを熟考し、犯人となる手がかりを求め、最後に犯人を突き止めることとなる論述をしてゆくこととなりますが、前述しているように、最後につく評価は1つしかありません。1期生から、卒論を仕上げ出すことは、最高レベルの成績評価であり、後輩が、他の人が読んで恥ずかしくない論文が仕上がっていることを意味します。最後に記載された文献が、本文でちゃんと書かれているのか、そうしたこと、全てのチェックをして終えることとなります。
 [担当教員メールアドレス(質問・レポート等の受付)]
 noriyuki@oejc.ac.jp メールやりとり及び、随時、下記研究室来研で指導を実施している。
 [研究室] 北研4-4

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員																																																																													
卒業研究(演習) I・II (Senior Thesis I・II)		伊佐 雅子																																																																													
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：論文の書き方やリサーチの仕方を学び、実際に卒業論文が書けること。 テーマ：異文化コミュニケーションに関するテーマ、グローバル化の問題、沖縄文化、日米文化比較、地域文化研究																																																																															
授業の概要 3年次のアカデミック・アドバイザーアワーでは、「グローバル化」のなかの異文化理解、異文化理解に求められる姿勢と視点、文献を通じて学ぶ方法を勉強してきた。 この授業では、異文化コミュニケーション I, II、コミュニケーション入門、比較文化、異文化交渉などの授業で扱ったトピックスを中心に研究テーマを選択し、論文を執筆する。具体的には、国内で起きる摩擦(日本在住の外国人、帰国日本人、共文化コミュニケーション)、海外で起きる摩擦(海外留学、海外赴任、海外旅行)、国際舞台で起きる摩擦(国際交渉、国際協力、マスメディアとパーセプション・ギャップ)、グローバル化の問題(言語の死、「地球都市」の出現)、異文化接触とコミュニケーション(日本人の美人観の変遷、混血児のアイデンティティ研究、国際結婚、沖縄文化の変容、沖縄観光)、日米広告の比較、特定文化研究(トイレの文化史、泣女の研究)、情報化社会のコミュニケーションの問題(ケータイネット)などがある。 異文化コミュニケーションの分野は学際的であり、言語学、文化人類学、社会学、教育学、哲学などの研究が土台となっている。授業では、卒論執筆の手順と調査方法を学ぶ。 これと並行して、論文の「考察」のところに役立つ、異文化コミュニケーションの理論、特に哲学的理論を学習しながら、異文化に対する理解を深める。各自のテーマは異なるが、授業での学習を通じて、卒業研究を仕上げることを目標とする。																																																																															
卒業研究(演習)の流れ 4月 テーマ設定のための事前調査、テーマ選択の指導、 5月 研究テーマの決定、リサーチの方法、研究計画書の提出、先行研究調査 6月 論文書き方の指導、引用の方法、先行研究調査 7月 中間発表会(自分のテーマに関する先行研究のまとめ) 8~9月 文献調査、インタビュー調査、アンケート調査、 10~12月 論文執筆開始、データ整理と分析、卒論発表会(リサーチ結果の発表) 1月 論文作成、個別指導 2月 論文作成、卒論提出																																																																															
テキスト・参考書： ① 池田理知子・E.M.クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣。 ② 住原則也『異文化の学び方・描きかた—なぜどのように研究するのか』世界思想社。																																																																															
評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題、研究計画書、先行研究のまとめなどの提出状況と内容をもとに評価します。																																																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																								
成績評価																																																																															
試験 (中間・期末試験)																																																																															
小テスト・ 授業内レポート																																																																															
授業態度																																																																															
受講者の発表																																																																															
演習																																																																															
授業への参加度																																																																															
その他																																																																															
履修上の注意： 作業を進行させる各段階において、綿密な打ち合わせと指導・相談が必要となります。 アンケート調査をする学生は「統計処理(SPSS)」の授業を履修済みであること。																																																																															

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究(演習) I・II (Senior Thesis I・II)		高崎 正名

授業の到達目標及びテーマ
企業のビジネス活動における様々な動向・課題について研究・分析を行い提言をおこなう。

授業の概要

私たちは国際・ビジネス領域における様々な課題を取り上げ、研究を行っています。この領域は世界の経済・経営・金融の動向を常にウォッチしていく分野であり、身近な沖縄企業の活動状況から世界の金融市場まで幅広く、極めてチャレンジングな分野です。5期生から8期生の研究テーマを参考までに、例を挙げて紹介します。

5期生(2012年3月卒業)

- ① ネット社会における新たな広告戦略
- ② ウチナンチュよ オキナワの可能性を広げるのだ
- ② ハローキティから学ぶマーケティング戦略
- ③ 沖縄農業ビジネスの発展性 等

6期生(2013年3月卒業)

- ① 女性を伸ばし、日本を伸ばす
- ② 路面電車と創る沖縄の未来
- ③ メディカルツーリズム沖縄観光等

7期生(2014年3月卒業)

- ① 「アーティストが恋人」の恋人戦略
- ② ココ・チャンネルに学ぶ自立と責任
- ③ 主夫始めました 等

8期生(2015年3月卒業)

- ① 日本マクドナルドの利用者拡大に向けて
- ② 沖縄の模合～地域金融のあり方～
- ③ ランドセル革命 等

卒業研究(演習)の流れ

- 4月～6月 卒論作成のための基本学習
・ テーマの選定・卒論のきまり・卒論の書き進め方・文献の集め方・研究の進め方
- 7月～9月 論文作成、第1回発表会・意見交換
- 10月～12月 論文作成、論文の中間案提出、第2回発表会・意見交換
- 1月～2月 論文の最終詰め(個別指導中心)

テキスト・参考書： 逐次紹介します。

評価方法・評価基準： 卒論の評価は下記項目を総合的に判断して決定します。

- ① 十分な基礎知識・研究に基づいて書く。 ② 先行研究との比較をする。
- ③ 自分の主張や根拠を明確にする。 ④ 予想される批判やそれに対する反論を用意する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 (定期試験 (中間・期末試験))							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○				10
受講者の発表	○	○	○		○		80
演習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意：

[受講生への要望]

卒論作成は担当教員と二人三脚で進む協同作業です。そして、卒論に取り組むに際に必要な姿勢は、卒論にかける意気込みと情熱です。卒論作成を通じ様々なものを吸収していこうとする意欲を持って参加してください。

[担当教員メールアドレス(質問・レポート等の受付)] mtakasaki@ocjc.ac.jp

[研究室] 西研4-7

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：物事の内容を説明できる。
 思考判断：論理的思考ができる。

関心意欲：社会に興味を持てる。
 態度：計画的な研究計画を立てる。

授業の概要

卒業研究Ⅰでは、知的財産権や論文の形式・構成など、学術論文執筆における基礎を学ぶ。また、卒業研究における様々な調査方法、統計処理、先行研究調査、理論的枠組の活用方法を学ぶ。卒業研究Ⅱでは、実際の執筆作業を通して、理論展開、議論の整合性、文章構成のテクニックなど、学術論文における技術を習得する。卒業研究・卒業論文作成の作業を通して、豊かな観察力、言語力、コミュニケーション能力、批判的思考力、論理的思考力を身につけることが、主な目的である。

国際平和学や国際関係論、国際ボランティア論など、インターナショナル・サービス関連科目、また異文化理解やカルチュラル・スタディーズ、文化人類学などの講義で扱ったトピックを中心に研究テーマを選択し、データ収集をおこない、論文を執筆する。学際研究であるため、理論的アプローチや調査方法などに関して特に規定はないが、綿密な相談の上、研究テーマを決定することが望ましい。

卒業研究（演習）の流れ

卒業研究Ⅰ（4月～7月）：テーマ設定のための事前調査、テーマ選択の指導、テーマ決定。先行研究調査。学術論文の基本的考え方、データ収集方法、質的・量的リサーチ、統計処理方法などに加え、引用の方法、文章の体裁・構成、論文執筆の手順などを学ぶ。研究計画書の最終バージョン、アウトラインの完成、先行研究のまとめをおこなう。

夏休み（8月～9月）：インタビュー、聞き取り調査、参与観察、アンケートなどの実施。

卒業研究Ⅱ（9月～2月）：執筆開始。データ処理作業、個別相談、グループでの読み合わせ作業、中間報告、体裁整え・仕上げの作業。

テキスト・参考書： 必要な資料等は、講義担当者が準備します。

評価方法・評価基準：

卒業研究Ⅰ：出席、各週に課される課題、研究計画書、先行研究のまとめなどの提出状況と、内容をもとに評価します。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度			○	○				10
受講者の発表								
演習								
授業への参加度					○			10
その他							○	80

履修上の注意：

作業を進行させる各ステップにおいて、綿密な打ち合わせと指導・相談が必要です。設定された時間には必ず出席し、課された作業を確実にこなすことが重要となります。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員																																																																
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		浜川 仁																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ 卒業論文を完成させる。テーマは、文学テキスト及び動画などこれに類するものを批判・分析するのが望ましい。</p>																																																																		
<p>授業の概要 リサーチの方法に始まり、読みやすく説得力のある表現方法を身につけ、参照・引用のルールにきちんと従って論文を書く能力を養う。</p>																																																																		
<p>卒業研究（演習）の流れ</p> <p>4月～ リサーチの方法を学びつつ、先行研究や関連情報を収集する。 5月～7月 資料収集と、進捗状況の報告 8月～9月 経過説明とアウトラインの作成 10月～11月 研究経過を口頭で説明し、アドバイザーと他の受講生と意見交換を行なう。 12月～1月 執筆作業 2月 最終調整</p>																																																																		
<p>テキスト・参考書： 特になし</p>																																																																		
<p>評価方法・評価基準：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等 成績評価</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80	小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○	○			20	受講者の発表								演習								授業への参加度								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		80																																																											
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度			○	○			20																																																											
受講者の発表																																																																		
演習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
<p>履修上の注意： ミーティングは毎週出席し、調査、執筆、校正に責任感をもって取り組んでもらいたい。</p>																																																																		

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究(演習) I・II (Senior Thesis I・II)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

大学における学習の最終的な仕上げを目指す。各学生が、それぞれ主体的に研究課題を設定し、適正な手順に則って研究し、その成果を卒業論文・レポート等の適切な方法によって発表する。

授業の概要

担当者の専門は、近代沖縄教育史・思想史である。現代の教育、近現代教育史、近現代沖縄史に関連する卒業研究の指導を行う。主に歴史学の学問的な手法に依拠する。先行研究を収集・精読し、史料を読み・考え、論文の構想を練り、口頭発表、論文完成という手順を踏む。

卒業研究(演習)の流れ

前期においては、研究テーマ検討、講読、テーマ決定をおこなう。各学生に4月に漠然とでもテーマを発表してもらい、その後、講読において、学問的な手法を確認してもらい、その後、各学生はテーマと主な分析史料を決定する。

今年度の講読に関しては、教育・歴史・沖縄の三点が交錯するという点から、1940年の「沖縄方言論争」を取り上げる予定である。ただし、参加者の興味関心を確認の上で、別のテーマに変更する可能性もある。

後期においては、中間発表、章立て検討、執筆、口頭発表、論文完成という流れである。各参加者、2回ほどの発表を行う。

概ね以上を予定しているが、参加者の人数により、指導形態が変わる可能性がある。

テキスト・参考書： 教場において随時提示する。

評価方法・評価基準： 卒業論文の水準によって評価する。出席状況も加味する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習	○	○	○	○	○	○	20
授業への参加度							
その他	○	○	○	○	○	○	80(卒論)

履修上の注意：

卒業論文の作成には、莫大な時間と労力を要する。よく考えたうえで、担当教員・研究テーマをきめること。どのような手法・分野を選ぼうとも、卒業研究をしっかりと行った経験は、卒業後に何らかの形で役立つものであるから、しっかりとがんばってもらいたい。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ (Senior Thesis I・II)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ

授業の概要

音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などあらゆる側面から言語に関する研究を行なう。研究の対象となる言語は主に日本語、英語、沖縄語(ウチナーグチ)で、身近にある言語現象を細かく調査・分析し、何故そのような言語現象が起こるのか追求する。コーパスを用いて談話分析を行なったり、必要に応じてフィールドワークを実施し、データの収集・分析法を学ぶ。

卒業研究（演習）の流れ

4月～6月	卒論の書き進め方、研究の方法を学ぶ。 先行研究を収集し、テーマ設定のための演習を行なう。
7月	中間報告会を行なう。(研究の目的、方法、章立て、先行研究など。)
8～10月	先行研究の読み込み、論文構成、調査研究。
10～11月	調査結果の分析と考察。
12～1月	研究結果のまとめ
2月	推敲

テキスト・参考書： 未定。開講時に提示する。

評価方法・評価基準：

卒業論文(80%) 授業態度(発表、参加度など)(20%)を基準とし、総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- ・卒業研究は学生主体であるため、一方的な講義は期待せず、積極的に授業に参加すること。
- ・毎回、授業では発表・発言を求められるため、かなりの時間を割いて準備をすることが要求される。予習を怠らないこと。
- ・学生同士のフィードバックもとても大切である。みんなで作る授業であるという意識を持って、積極的にピア・レビューを心がけること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
卒業研究(演習) I・II (Senior Thesis I・II)		金 永秀 他

授業の到達目標及びテーマ

自ら問題を設定し、資料を収集して文献を読み解く。思考を整理し、研究内容を口頭発表する。論文規定に従って、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の概要

学生自ら研究テーマを設定する。情報収集、文献研究の方法、論文の書き方を学び、口頭発表を経て、論文を仕上げる。

卒業研究(演習)の流れ

- 第1回：オリエンテーション「卒業論文とは」
- 第3～4回：研究課題の設定，研究の進め方，資料収集
- 第5～6回：論文の読み方と書き方
- 第7～13回：ディスカッション，口頭発表
- 第14回：卒業研究中間報告会
- 第15回：前期まとめ
- 第16～20回：論文の書き方
- 第21～25回：個人指導
- 第26回：卒業研究発表
- 第26～29回：個人指導
- 第30回：まとめ 卒業論文提出

テキスト・参考書：

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○				30
受講者の発表	○	○					50
演習							
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意：

学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。

Oral Communication

There are two things you must do to communicate orally. You must be able to understand what you hear and be able to put into understandable English what you want to say. In these classes you will get a large dose of listening. The way to understand spoken English is to listen, listen, and then listen some more. The instructor will speak to you in English and, each week, you will also listen to recorded material (both audio and video) in the language laboratory or on the internet.

You will also be given many opportunities to speak English with your classmates, and you will be expected to speak to your instructor in English. Although the focus of these classes is oral communication, we will also use the written word to assist you in understanding what you hear, help you develop accuracy by giving you the chance to rehearse what you want to say in English, and provide you with the opportunity to increase your vocabulary.

The key to success in oral communication is to USE English. It is not enough to passively sit in the classes, you must be prepared to open your mouth and speak.

Oral Communication is divided into 6 levels. Similar formats are used in each level but both the difficulty and amount of material covered increase with each level. As students progress through the levels, they will be expected to be able to use English more and more, and should not need to be pushed by the teacher to do so.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員
Oral Communication I		Christopher Valvona

授業の到達目標

The goal of this class is to help students whose English is not yet developed enough. It will help improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. Students will be shown the very basics of English communication, starting with basic communication and pronunciation skills. Students in this class are expected to progress quickly, with an aim to catching the other OC classes as fast as possible.

授業の概要

This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. In addition to attending class, students must improve their ability in spoken English through CALL systems.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Meeting people on the internet: a good idea?
第 2 回 : First impressions	第 10 回 : Do young people need to slow down?
第 3 回 : Shoplifting: moral dilemmas	第 11 回 : What's your pet peeve?
第 4 回 : Technology: addicted to the internet?	第 12 回 : Understanding disabilities
第 5 回 : Dating: who should pay, the man or the woman?	第 13 回 : The environment
第 6 回 : Should you say "I love you" all the time?	第 14 回 : Follow your dream, no matter what?
第 7 回 : Review and mid-term assessment	第 15 回 : Review and final assessment and interviews
第 8 回 : Must we always tell the truth?	

テキスト :

To be confirmed. Please check for the required text for your teacher at the bookstore.

参 考 書 :

A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.

評価方法・評価基準 :

Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.

NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意 : Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員
Oral Communication II		Christopher Valvona

授業の到達目標

The goal of these classes is to improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. The teacher will provide students with chances to speak, and will also support students in terms of vocabulary, grammar, and pronunciation, where necessary. It may take time to build up the necessary confidence, so these classes will provide a framework for students to develop their communicative skills.

授業の概要

This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. In addition to attending class, students must improve their ability in spoken English through CALL systems.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Meeting people on the internet: a good idea?
第 2 回 : First impressions	第 10 回 : Do young people need to slow down?
第 3 回 : Shoplifting: moral dilemmas	第 11 回 : What's your pet peeve?
第 4 回 : Technology: addicted to the internet?	第 12 回 : Understanding disabilities
第 5 回 : Dating: who should pay, the man or the woman?	第 13 回 : The environment
第 6 回 : Should you say "I love you" all the time?	第 14 回 : Follow your dream, no matter what?
第 7 回 : Review and mid-term assessment	第 15 回 : Review and final assessment and interviews
第 8 回 : Must we always tell the truth?	

テキスト :

To be confirmed. Please check for the required text for your teacher at the bookstore.

参 考 書 :

A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.

評価方法・評価基準 :

Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.

NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)		○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート		○		○	○	○		20
授業態度			○		○			20
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								20
その他								

履修上の注意 : Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員
Oral Communication III		Geoffrey Glyn Sinha

授業の到達目標

The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students in this class will already have displayed a sound knowledge or development in their communication skills. By continuing to practice speaking, listening and pronunciation as much as possible, students should feel more comfortable communicating smoothly in life-like situations by the end of the course.

授業の概要 :

This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students must improve their ability in spoken English through CALL systems.

授 業 計 This will change

第 1 回 :	Module One- Building awareness of situational conventions	第 9 回 :	Module Four- Speaking professionally
第 2 回 :	Module One- Building awareness of appropriateness of questions	第 10 回 :	Module Three- Four assessment
第 3 回 :	Module wo- Developing prblem-soving skills	第 11 回 :	Module Five- Creative problem solving
第 4 回 :	Module Two- Building awareness of politeness	第 12 回 :	Module Five- Presenting to an audience
第 5 回 :	Module One- Two assessment	第 13 回 :	Module Six- Reflecting on acquired skills
第 6 回 :	Module Three- Agreeing, disagreeing and stating opinions	第 14 回 :	Module Six- Interviewing
第 7 回 :	Module Three- Practicing presentation skills	第 15 回 :	Assessment
第 8 回 :	Module Four- Professional presentation skills		

テキスト : To be confirmed

参 考 書 : A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.

評価方法・評価基準 :

Class participation, groups discussions, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意 : All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員
Oral Communication IV		Geoffrey Glyn Sinha

授業の到達目標

The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students should be starting to show considerable skill and confidence in their English communication skills. They will now be looking to take their communication to the next level, which will involve a lot more speaking without preparation, without reference to notes, in a smooth and confident manner. Students will also find the content of the class to be more practical, requiring students to communicate in meaningful ways to achieve various goals and tasks. This more closely mirrors real-life communication.

授業の概要：

This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students must improve their ability in spoken English through CALL systems.

授 業 計 This will change

第 1 回：	Module One- Building awareness of situational conventions	第 9 回：	Module Four- Speaking professionally
第 2 回：	Module One- Building awareness of appropriateness of questions	第 10 回：	Module Three- Four assessment
第 3 回：	Module Two- Developing problem-solving skills	第 11 回：	Module Five- Creative problem solving
第 4 回：	Module Two- Building awareness of politeness	第 12 回：	Module Five- Presenting to an audience
第 5 回：	Module One- Two assessment	第 13 回：	Module Six- Reflecting on acquired skills
第 6 回：	Module Three- Agreeing, disagreeing and stating opinions	第 14 回：	Module Six- Interviewing
第 7 回：	Module Three- Practicing presentation skills	第 15 回：	Assessment
第 8 回：	Module Four- Professional presentation skills		

テキスト：To be confirmed

参考書： A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.

評価方法・評価基準：

Class participation, groups discussions, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意： All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.

授業科目名	4 単位 (0-8)	担当教員
Oral Communication V		Christopher Valvona

授業の到達目標

Because this is the second-highest level of oral communication, students will be expected to perform at a suitably high level. This means that throughout the course, students should be aiming to communicate solely in English, using language that is well-pronounced, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. Grammar mistakes should be avoided, although the principal aim is, as with all other levels of Oral Communication, to actually USE English and communicate a message. Students should also aim to have found their own 'right way' to study in the future.

授業の概要：

This class will provide a bridge to higher level courses including Advanced Communication, Public Speaking & Oral Presentation, as well as Debate & Discussion. Students will focus on developing the ability to accurately understand lectures, reports or announcements, and then properly express their opinions based on such information. Through numerous activities including role-playing, debate and discussion, presentation and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and apologizing. In addition to attending class, students must improve their ability in spoken English through CALL systems.

授 業 計 画 : Subject to change

第 1 回 : Module Eight- Review Countries and Cultures	第 9 回 : Module Twelve- Must Have It
第 2 回 : Module Nine- Old and New	第 10 回 : Module Thirteen- The Right Kind of Person
第 3 回 : Module Nine- Exciting New Competition	第 11 回 : Module Thirteen- Discussion
第 4 回 : Open Discussion	第 12 回 : Module Fourteen- Building Your Dreams
第 5 回 : Module Ten- Health Problems	第 13 回 : Module Fifteen- Money, Money, Money
第 6 回 : Module Eleven- The Best things in Life	第 14 回 : Module Sixteen- Imagine
第 7 回 : Module Eleven- Discussion	第 15 回 : Assessment
第 8 回 : Midterm assessment	

テキスト： Dependent on the teacher. Please check for the required text for your teacher at the bookstore.

参 考 書：

評価方法・評価基準：

Class participation, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意： All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
多読 (Extensive Reading I)		浜川仁・武村朝吉

授業の到達目標及びテーマ

The goal of this class is to provide students with a designated time to sit and read English books. Students will read graded readers appropriate for their own individual level. Through this process students can progress in three key areas:

1. Students' reading speed will increase.
2. Students' vocabulary will increase.
3. Students will develop an appreciation for the joy of reading.

Of course, by reading a lot students will also learn a lot. They might learn about classic literature, about other cultures, or indeed about any of the great many themes within the graded reader literature.

授業の概要

At the beginning of the course, students will be shown the extensive reading library, and the graded reader grading system will be explained to them. Students will look at the different books and decide for themselves what level is appropriate. This is not rigid, and students can later choose books of a lower or higher level (in fact, students should later move up a level or two as they become more comfortable with the concept of reading for pleasure.)

After that, students will simply begin reading. When they finish a book, they will log the details of the book, including the number of words. They will also write a short report about the book. When they have finished the report, they choose another book and begin reading.

They will keep a log throughout the course, which will include a running total of the words they have read. This is submitted with their book reports at the end of the semester for the purposes of assessment.

Rules:

1. The process should be enjoyable. If the book is not interesting, choose another one.
2. Students should read at their own pace.
3. Dictionaries are not to be used.
4. Any parts students don't understand should be skipped over.

For points 3 and 4, if a student finds that they don't understand many words or phrases, then that book's level is too high. Choose another book at a lower level.

授 業 計 画

第 1 回 : Introduction
第 2 回 : Reading
第 3 回 : Reading
第 4 回 : Reading
第 5 回 : Reading
第 6 回 : Reading
第 7 回 : Reading
第 8 回 : Reading

第 9 回 : Reading
第 10 回 : Reading
第 11 回 : Reading
第 12 回 : Reading
第 13 回 : Reading
第 14 回 : Reading
第 15 回 : Reading

テキスト : iKnow! (語彙力強化 e ラーニング)

参 考 書 :

評価方法・評価基準 :

Attendance – 50%

Reading log/iKnow – 20% (students may be called upon at any stage of the semester to come and talk with the teacher about a book they claim to have read.)

Number of words read – 1% for every 1,000 words read, to a maximum of 30% (30,000 words)

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度	○			○	○			
受講者の発表								
演 習	○			○	○			20
授業への参加度	○							50
その他								30

履修上の注意 :

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 I (English Reading I)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ
 テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要
 使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。
 英語検定試験 (STEP) 準 2 級、TOEIC ~290

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

- 第 1 回 : イントロダクション / Unit 1
 - 第 2 回 :
 - 第 3 回 :
 - 第 4 回 :
 - 第 5 回 :
 - 第 6 回 :
 - 第 7 回 :
 - 第 8 回 : まとめ (中間)
 - 第 9 回 :
 - 第 10 回 :
 - 第 11 回 :
 - 第 12 回 :
 - 第 13 回 :
 - 第 14 回 :
 - 第 15 回 : まとめ (期末)
- Unit 1 ~ Unit 6
- Unit 7 ~ Unit 12

テキスト : *Reading Explorer Foundations Second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 : 講読の中ではもっともベーシックな内容なので、しっかり理解に努めよう。

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 II (English Reading II)		レイフィールド典子・渡久山幸功・ 崎原千尋

授業の到達目標及びテーマ：

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 準 2 級～2 級、TOEIC 290～380

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

第 1 回： イントロダクション／Unit 1

第 2 回：

第 3 回：

第 4 回：

第 5 回：

第 6 回：

第 7 回：

第 8 回：

第 9 回：

第 10 回：

第 11 回：

第 12 回：

第 13 回：

第 14 回：

第 15 回：

Unit 1 ～ Unit 6

まとめ (中間)

Unit 7 ～ Unit 12

まとめ (期末)

テキスト： *Reading Explorer 1 Second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書： 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準： 以下を目安とする。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)		○	○					60
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○		○		30
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度				○	○			10
その他								

履修上の注意： 講読の中では基本的な内容なので、しっかり理解に努めよう。

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 Ⅲ (English Reading Ⅲ)		浜川仁・山内淳・レイフィールド典子

授業の到達目標及びテーマ

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 準 2 級~2 級、TOEIC 380~460

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

- 第 1 回 : イントロダクション / Unit 1
 - 第 2 回 :
 - 第 3 回 :
 - 第 4 回 :
 - 第 5 回 :
 - 第 6 回 :
 - 第 7 回 :
 - 第 8 回 :
 - 第 9 回 :
 - 第 10 回 :
 - 第 11 回 :
 - 第 12 回 :
 - 第 13 回 :
 - 第 14 回 :
 - 第 15 回 :
- Unit 1 ~ Unit 6
- まとめ (中間)
- Unit 7 ~ Unit 12
- まとめ (期末)

テキスト : *Reading Explorer 2 Second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 : 初めての単語やすこし長めのセンテンスなど、繰り返し学習し定着を図ろう。

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 IV (English Reading IV)		大城直人・山内淳・ スミス陽子・高橋日向子

授業の到達目標及びテーマ

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 2 級～準 1 級、TOEIC 460～530

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

第 1 回 : イントロダクション / Unit 1

第 2 回 :

第 3 回 :

第 4 回 :

第 5 回 :

第 6 回 :

第 7 回 :

第 8 回 :

第 9 回 :

第 10 回 :

第 11 回 :

第 12 回 :

第 13 回 :

第 14 回 :

第 15 回 :

Unit 1 ~ Unit 6

まとめ (中間)

Unit 7 ~ Unit 12

まとめ (期末)

テキスト : Reading and Vocabulary Focus 2 (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					60
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○		○		30
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度				○	○			10
その他								

履修上の注意 : 耳慣れない単語や複雑なセンテンスなど、あきらめず学習し定着を図ろう。

授業科目名	4単位 (0-4)	担当教員
英文法・英作文Ⅰ (English Grammar and Composition I)		村田 典枝

授業の到達目標及びテーマ
文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。

授業の概要
英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み、書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。

授業計画：

第1回： Introduction&時制（現在） Unit 1-9	第9回： 代名詞、所有、冠詞 Unit60-74
第2回： 時制（過去、現在完了） Unit10-21	第10回： 限定詞、代名詞 Unit75-85
第3回： 受動態、動詞、時制（未来） Unit22-29	第11回： 形容詞、副詞 Unit86-93
第4回： 助動詞、命令系 Unit30-37	第12回： 語順、前置詞 Unit94-103
第5回： There, it, 助動詞 Unit38-44	第13回： 前置詞、群動詞 Unit104-111
第6回： 疑問、話法 Unit45-51	第14回： 接続詞、句 Unit111-116
第7回： 準動詞 Go, get, do, make and have, Unit52-59	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： まとめ〈中間〉	

テキスト： 『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）』 Cambridge

参考書： 『総合英語 Forest』 石黒昭博（監） 桐原書店

評価方法・評価基準： 中間・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○				10
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							遅刻・欠席はマイナス
その他							

履修上の注意：

- ・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。
- ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。
- ・積極的に授業に参加して質問すること。
- ・遅刻・欠席はマイナスになるので注意すること。

授業科目名	4単位 (0-4)	担当教員																																																																
英文法・英作文Ⅱ (English Grammar and Composition Ⅱ)		村田典枝・赤嶺ゆかり・山内淳																																																																
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>身につけた能力を活用して、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝言、報告、依頼、指示等の実際的な場面に必要とされる英文が書けるようになることを目標とする。</p>																																																																		
<p>授業の概要</p> <p>中学校・高等学校で学んだ事を基礎にして、英文法の基本的事項全般を復習し、正しい英文を書く能力を養う。徹底した文法演習を行い、各文法項目に対する総合的な理解を深める。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。</p>																																																																		
<p>授業計画：</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回：</td> <td>Introduction & Tense (Present), Unit 1-9</td> <td>第9回：</td> <td>Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74</td> </tr> <tr> <td>第2回：</td> <td>Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21</td> <td>第10回：</td> <td>Determiners and Pronouns, Unit 75-85</td> </tr> <tr> <td>第3回：</td> <td>Passive, Verb Forms & Tense (Future), Unit 22-29</td> <td>第11回：</td> <td>Adjective & Adverbs, Unit 86-93</td> </tr> <tr> <td>第4回：</td> <td>Modals & Imperatives, Unit 30-37</td> <td>第12回：</td> <td>Word Order & Prepositions, Unit 94-103</td> </tr> <tr> <td>第5回：</td> <td>There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44</td> <td>第13回：</td> <td>Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-11</td> </tr> <tr> <td>第6回：</td> <td>Questions & Reported Speech, Unit 45-51</td> <td>第14回：</td> <td>Conjunctions & Clauses, Unit 111-116</td> </tr> <tr> <td>第7回：</td> <td>-ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59</td> <td>第15回：</td> <td>まとめ・授業内試験</td> </tr> <tr> <td>第8回：</td> <td>まとめ(中間)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			第1回：	Introduction & Tense (Present), Unit 1-9	第9回：	Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74	第2回：	Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21	第10回：	Determiners and Pronouns, Unit 75-85	第3回：	Passive, Verb Forms & Tense (Future), Unit 22-29	第11回：	Adjective & Adverbs, Unit 86-93	第4回：	Modals & Imperatives, Unit 30-37	第12回：	Word Order & Prepositions, Unit 94-103	第5回：	There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44	第13回：	Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-11	第6回：	Questions & Reported Speech, Unit 45-51	第14回：	Conjunctions & Clauses, Unit 111-116	第7回：	-ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59	第15回：	まとめ・授業内試験	第8回：	まとめ(中間)																																		
第1回：	Introduction & Tense (Present), Unit 1-9	第9回：	Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74																																																															
第2回：	Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21	第10回：	Determiners and Pronouns, Unit 75-85																																																															
第3回：	Passive, Verb Forms & Tense (Future), Unit 22-29	第11回：	Adjective & Adverbs, Unit 86-93																																																															
第4回：	Modals & Imperatives, Unit 30-37	第12回：	Word Order & Prepositions, Unit 94-103																																																															
第5回：	There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44	第13回：	Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-11																																																															
第6回：	Questions & Reported Speech, Unit 45-51	第14回：	Conjunctions & Clauses, Unit 111-116																																																															
第7回：	-ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59	第15回：	まとめ・授業内試験																																																															
第8回：	まとめ(中間)																																																																	
<p>テキスト： Raymond Murphy, Basic Grammar in Use, Cambridge University Press</p>																																																																		
<p>参考書： 未定</p>																																																																		
<p>評価方法・評価基準： ・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>遅刻・欠席はマイナス</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70	小テスト・ 授業内レポート	○						20	授業態度			○				10	受講者の発表								演習								授業への参加度							遅刻・欠席はマイナス	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70																																																											
小テスト・ 授業内レポート	○						20																																																											
授業態度			○				10																																																											
受講者の発表																																																																		
演習																																																																		
授業への参加度							遅刻・欠席はマイナス																																																											
その他																																																																		
<p>履修上の注意：</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 																																																																		

授業科目名	4単位 (0-4)	担当教員
英文法・英作文Ⅲ (English Grammar and Composition Ⅲ)		新垣友子・ 赤嶺ゆかり・山内淳

授業の到達目標及びテーマ
短い叙述文、説明文、要約等が書けるようになることを目標とする。

授業の概要
英文法・英作文Ⅱで学んだことを基礎にして、文法事項の再確認および徹底した作文演習を通して、正しい英文を書く能力を定着させる。作文能力の向上に加え、書くスピードも養う。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。

授 業 計 画：

第 1 回： イントロダクション、Determiners	第 8 回： Tenses: perfect and past
第 2 回： Pronouns and nouns	第 9 回： Passives
第 3 回： Adjectives and adverbs	第 10 回： Conjunctions
第 4 回： Comparison, degree	第 11 回： Indirect speech
第 5 回： Modal auxiliary verbs	第 12 回： Structures with if, unless, in case etc.
第 6 回： Tenses: future	第 13 回： Relative clauses
第 7 回： Tenses: present	第 14 回： Prepositions
	第 15 回 まとめ、期末試験

テキスト：“How English Works” Michael Swan, Catherine Walter Oxford

参 考 書： 未定

評価方法・評価基準：・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度 授業への参加度			○				10
受講者の発表							
演 習							
その他							遅刻・欠席は 減点

履修上の注意：

- ・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。
- ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。

授業科目名	4単位 (0-4)	担当教員
英文法・英作文Ⅳ (English Grammar and Composition Ⅳ)		新垣友子・玉城要・ スミス陽子・赤嶺ゆかり

授業の到達目標及びテーマ
文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。

授業の概要
英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み、書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。

授業計画：

第 1 回： イントロダクション、Unit1 動詞	第 9 回： Unit10 受動態
第 2 回： Unit2 進行形・未来形・助動詞	第 10 回： Unit11 完了形
第 3 回： Unit3 名詞・冠詞・代名詞	第 11 回： Unit12 接続詞（Ⅱ）
第 4 回： Unit4 前置詞・接続詞（Ⅰ）	第 12 回： Unit13 5つの基本文型
第 5 回： Unit5 形容詞・副詞と比較	第 13 回： Unit14 仮定法
第 6 回： Unit6 命令文・感嘆文	第 14 回： Unit15 関係代名詞
第 7 回： Unit7 不定詞、Unit8 動詞と分詞	第 15 回： まとめ・期末試験
第 8 回： Unit9 各種疑問文・It の特別用法	

テキスト：“Primer for English Writing” Tetsuzo Sato, Yukari Aiko, Teruo Shindo NAN'UN-DO

参考書：未定

評価方法・評価基準：中間・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○				10
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							遅刻・欠席はマイナス
その他							

履修上の注意：

- ・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。
- ・大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。
- ・積極的に授業に参加して質問すること。
- ・出席はプラス点にはならず、遅刻・欠席はマイナスになるので注意すること。

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
English Composition I		Daniel Broudy ・ Jason Arbogast ・ Christopher Daniel Melley

授業の到達目標及びテーマ

This is an elementary course providing an introduction to the basic principles of developing meaning in sentences and longer passages. Students are introduced to techniques for generating and arranging phrases or other grammatical structures to create sentence-level meaning. Students may be required to practice in class with various structures to develop skills in sentence-level drafting. Students will develop the necessary knowledge and skills in revising and editing which they can use in more advanced writing courses.

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Found Poetry Exercises
第 2 回 : Review Meaning & Grammar	第 10 回 : Midterm
第 3 回 : Generating Ideas	第 11 回 : Expanding Meaning with Modifiers
第 4 回 : Phrase Exercises	第 12 回 : Editing Exercises
第 5 回 : Workshop	第 13 回 : Editing Exercises
第 6 回 : Poetry Exercise	第 14 回 : Semester Review
第 7 回 : Quiz	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Phrase Identification Exercises	第 16 回 :

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○			○		10
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	4 単位 (0-4)	担当教員
English Composition II		Peter Wodarz・高橋 日向子

授業の到達目標

This course expands on composition skills gained in Paragraph Writing I. Students practice exercises in finding and narrowing subjects, generating and organizing ideas as well as drafting, editing and revising essays. Students are introduced to a range of expository styles and the principles of argumentation. They practice developing thesis sentences and communicating their positions on certain topics discussed in class and in the text. Students are also introduced to methods in researching and citing sources in essays.

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Cleft Constructions
第 2 回 : Persuasion	第 10 回 : Quiz
第 3 回 : Brainstorming & Outlining	第 11 回 : Passive & Active Voice
第 4 回 : Theses	第 12 回 : Quiz
第 5 回 : Workshop	第 13 回 : Workshop
第 6 回 : Pronoun Problems	第 14 回 : Workshop
第 7 回 : Quiz	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Workshop	第 16 回 :

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○			○		10
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Accessing Digital Media I		Daniel Broudy

授業の到達目標

本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions
第 2 回 : Performance Poetry
第 3 回 : Commercial Advertising
第 4 回 : Song (Themes of Love)
第 5 回 : Political Speeches (Antiwar)
第 6 回 : Song (Politics & Antiwar)
第 7 回 : Film (Political themes)
第 8 回 : Midterm Exam

第 9 回 : Film (Social themes)
第 10 回 : Commercial Advertising
第 11 回 : Song (Popular Culture)
第 12 回 : Film (Fantasy & Science Fiction)
第 13 回 : Performance Poetry
第 14 回 : Political Speeches (Social Justice)
第 15 回 : Final Exam

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Accessing Digital Media II		Daniel Broudy

授業の到達目標

本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Film (Social themes)
第 2 回 : Performance Poetry	第 10 回 : Commercial Advertising
第 3 回 : Commercial Advertising	第 11 回 : Song (Popular Culture)
第 4 回 : Song (Themes of Love)	第 12 回 : Film (Fantasy & Science Fiction)
第 5 回 : Political Speeches (Antiwar)	第 13 回 : Performance Poetry
第 6 回 : Song (Politics & Antiwar)	第 14 回 : Political Speeches (Social Justice)
第 7 回 : Film (Political themes)	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Midterm Exam	

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Public Speaking I		Simon Robinson

授業の到達目標及びテーマ

Allowing the students to learn to make engaging presentations in English

授業の概要

This course will introduce the key elements of public speaking through practical experience: students will make presentations on a topic of their choice, and after each presentation we will have a feedback session to assess both the good points and what could be better next time. Over the semester these points will gradually build up a clear picture of how to make an effective presentation in English - this will form a checklist that we will use to assess the final exam presentations. As necessary throughout the semester we will also do group practice activities focusing on particular aspects of presentation.

授 業 計 画

第 1 回 : Class orientation, students make basic self-introductions	第 9 回 : Free presentations Round 1 (3)
第 2 回 : Basic self-introductions with pictures + show past presentation example	第 10 回 : Free presentations Round 2 (1)
第 3 回 : Introduction to Powerpoint, students begin preparing their 'past' presentations	第 11 回 : Free presentations Round 2 (2)
第 4 回 : 'Past' presentations (1)	第 12 回 : Free presentations Round 2 (3)
第 5 回 : 'Past' presentations (2)	第 13 回 : Exam presentations (1)
第 6 回 : 'Past' presentations 3	第 14 回 : Exam presentations (2)
第 7 回 : Free presentations Round 1 (1)	第 15 回 : Exam presentations (3)
第 8 回 : Free presentations Round 1 (2)	

テキスト :

This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.

参 考 書 : Preparing for the presentations is an important part of this course, and will mostly be done outside of class.

評価方法・評価基準 : Participation25%、Free Presentations25%、Exam Presentations50%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意 :

My aim for this course is for students to gain as much practical experience of presenting as is possible, so that they go into the exam presentation feeling confident of their ability to make a presentation in English.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Public Speaking II		Simon Robinson

授業の到達目標及びテーマ
 Allowing the students to further develop their ability to make engaging presentations in English

授業の概要
 This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses.

授 業 計 画 ※講義内容は、変更することがあります。

第 1 回 : Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A	第 8 回 : Free Presentations Round 2 (2)
第 2 回 : Self-introductions with Q&A	第 9 回 : Free Presentations Round 2 (3)
第 3 回 : Free Presentations Round 1 (1)	第 10 回 : Free Presentations Round 3 (1)
第 4 回 : Free Presentations Round 1 (2)	第 11 回 : Free Presentations Round 3 (2)
第 5 回 : Free Presentations Round 1 (3)	第 12 回 : Free Presentations Round 3 (3)
第 6 回 : Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)	第 13 回 : Exam Presentation (1)
第 7 回 : Free Presentations Round 2 (1)	第 14 回 : Exam Presentation (2)
	第 15 回 : Exam Presentation (3)

テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher - students will need to buy this from kyoumuka

参 考 書 : Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.

評価方法・評価基準 : Participation30%、Free Presentations20%、Exam Presentations40%

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意 :
Public Speaking & Oral Presentation I (2 単位) を履修済みのこと。
 My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Discussion & Debate I		Simon Robinson

授業の到達目標及びテーマ

Allowing the students to engage in strong debate in English

授業の概要

This course will provide an introduction to strong debate on a given opinion. Each opinion will be related to the students' daily lives in order to spark interest, and in each topic students will engage in several preparation activities that lead up to the final debate task: a ten-minute debate between two pairs, where one pair is the 'agree' side and the other is the 'disagree' side of the debate. The course will then repeat this cycle of "preparation then debate" to give the students as much practice as possible prior to the final exam, where they will debate with the teacher for ten minutes on a topic of their choosing.

授 業 計 画

第 1 回 :	Orientation, introduction to "The 'Why?' Game", choose topics, begin the first topic with an introductory debate with the teacher.	第 8 回 :	Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion
第 2 回 :	Topic 1 : Introduction to the "Hot Seat" activity	第 9 回 :	Topic 4: Debate preparation and debate
第 3 回 :	Topic 1: Introduction to debate preparation and debate	第 10 回 :	Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion
第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion	第 11 回 :	Topic 5: Debate preparation and debate
第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate	第 12 回 :	Exam Preparation (1)
第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion	第 13 回 :	Exam Preparation (2)
第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate	第 14 回 :	Exam (1)
		第 15 回 :	Exam (2)

テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka.

参 考 書 :

評価方法・評価基準 : 1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30%
2. Final exam 70%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意 :

Students will need to actively participate in all practice activities in order to get as much debate practice as possible prior to the final exam.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Discussion & Debate II		Simon Robinson

授業の到達目標及びテーマ
Further developing the students ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.

授業の概要
In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI

授 業 計 画

第 1 回 :	Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester
第 2 回 :	Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion
第 3 回 :	Topic 1: Debate preparation and debate
第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion
第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate
第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion
第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate

第 8 回 :	Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion
第 9 回 :	Topic 4: Debate preparation and debate
第 10 回 :	Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion
第 11 回 :	Topic 5: Debate preparation and debate
第 12 回 :	Exam Preparation (1)
第 13 回 :	Exam Preparation (2)
第 14 回 :	Exam (1)
第 15 回 :	Exam (2)

テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka

参 考 書 :

評価方法・評価基準 : 1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30%
2. Final Exam 70%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意 :

Discussion and Debate I (2 単位) を履修済みのこと。
Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
Tourism English I		Michelle Higaonna

授業の到達目標
 After students have some experience studying English in college, it is important for them to understand the requirement of teacher.

授業の概要
 To enable students to develop their listening and speaking skills
 To improve the ability of students to communicate in English in situations specific to the tourism industry: in airports, hotels and restaurants, making reservations and describing a variety of travel services
 To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English

授 業 計 画
First Class Service 1
 第 1 回 : Class Orientation
 第 2 回 : Units 1, 2
 第 3 回 : Dialogue test
 第 4 回 : Units 3, 4
 第 5 回 : Units 5, 6
 第 6 回 : Dialogue test
 第 7 回 : Units 7, 8
 第 8 回 : Units 9, 10
 第 9 回 : Oral presentation
 第 10 回 : Units 11, 12
 第 11 回 : Listening test
 第 12 回 : Oral presentation
 第 13 回 : Units 13, 14
 第 14 回 : Units 15, 16
 第 15 回 : Final test preparation

テキスト :
 ① Hall & Blappert, *First Classe Srvicel*, CENGAGE Learning

参 考 書 : It is good to keep a special notebook for this class.

評価方法・評価基準 :
 Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester test, Other methods as determined by the instructors.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意 : Students should try to use as much English as possible in the classroom.

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
Tourism English II		Michelle Higaonna

授業の到達目標

After students have some experience studying English in college, it is important for them to understand the requirement of teacher.

授業の概要

To enable students to develop their listening and speaking skills
 To improve the ability of students to communicate in English, particularly to advance communication skills used in the tourism industry and in service businesses. In addition to standard business English, there will be an introductory explanation of Western business and management principles
 To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English

授 業 計 画

First class, Book 2

- 第 1回 : Class Orientation
- 第 2回 : Units 1, 2
- 第 3回 : Dialogue test
- 第 4回 : Units 3, 4
- 第 5回 : Units 5, 6
- 第 6回 : Dialogue test
- 第 7回 : Units 7, 8
- 第 8回 : Units 9, 10
- 第 9回 : Oral presentation
- 第10回 : Units 11, 12
- 第11回 : Listening test
- 第12回 : Oral presentation
- 第13回 : Units 13, 14
- 第14回 : Units 15, 16
- 第15回 : Final test preparation

テキスト :

- ① Hall & Blappert, *First Classe Srvic2*, CENGAGE Learning

評価方法・評価基準 :

Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester test, Other methods as determined by the instructors

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意 : Students should try to use as much English as possible in the classroom.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Advanced Communication I		Simon Robinson

授業の到達目標:

The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at intermediate level, or higher. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.

授業の概要:

This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-4. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who opt to take this class, and students who are not yet quite comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class.

The classes will focus on specific advanced communication skills. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.

Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic (see below for details)

授 業 計 画:

- 第 1 週 : Friends
- 第 2 週 : Free Time
- 第 3 週 : The Past
- 第 4 週 : The Family
- 第 5 週 : Work
- 第 6 週 : City Life
- 第 7 週 : Beliefs
- 第 8 週 : The Future

- 第 9 週 : Transportation
- 第 10 週 : Vices
- 第 11 週 : Marriage
- 第 12 週 : Animals
- 第 13 週 : Computers
- 第 14 週 : The Generation Gap
- 第 15 週 : Travel

テキスト : Communication Strategies 1 (TBC)

参 考 書 : A good monolingual paper dictionary is recommended

評価方法・評価基準:

Class participation, presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							20
その他							

履修上の注意:

This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員																																																																													
Advanced Communication II		Christopher Valvona																																																																													
<p>授業の到達目標</p> <p>This class will follow on from the skills learned and practiced in Advanced Communication I. The fundamentals of communication will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.</p>																																																																															
<p>授業の概要：</p> <p>This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-4, and Advanced Communication I. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class.</p> <p>The classes will focus on specific advanced communication skills. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.</p> <p>Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic (see below for details)</p>																																																																															
<p>授 業 計 画：</p> <p>第 1 週： Attitudes</p> <p>第 2 週： Money</p> <p>第 3 週： Health</p> <p>第 4 週： Education</p> <p>第 5 週： Crime</p> <p>第 6 週： The Environment</p> <p>第 7 週： Aliens</p> <p>第 8 週： History</p>				<p>第 9 週： Women in Society</p> <p>第 10 週： The Developing World</p> <p>第 11 週： Violence</p> <p>第 12 週： Politics</p> <p>第 13 週： Economics</p> <p>第 14 週： Happiness</p> <p>第 15 週： Globalization</p>																																																																											
<p>テキスト： Communication Strategies 2 (TBC)</p>																																																																															
<p>参 考 書： A good monolingual paper dictionary is recommended</p>																																																																															
<p>評価方法・評価基準：</p> <p>Class participation, presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">成績評価</th> <th style="text-align: center;">到達目標等</th> <th style="text-align: center;">知識・理解</th> <th style="text-align: center;">思考・判断</th> <th style="text-align: center;">関心・意欲</th> <th style="text-align: center;">態度</th> <th style="text-align: center;">技能・表現</th> <th style="text-align: center;">その他</th> <th style="text-align: center;">評価割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">定期試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	定期試験 (中間・期末試験)		○		○		○		40	小テスト・ 授業内レポート		○		○	○	○		20	授業態度				○	○			20	受講者の発表									演 習									授業への参加度								20	その他								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																																							
定期試験 (中間・期末試験)		○		○		○		40																																																																							
小テスト・ 授業内レポート		○		○	○	○		20																																																																							
授業態度				○	○			20																																																																							
受講者の発表																																																																															
演 習																																																																															
授業への参加度								20																																																																							
その他																																																																															
<p>履修上の注意：</p> <p>This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.</p>																																																																															

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員																																																																
Advanced Communication III		Simon Robinson																																																																
授業の到達目標 This class is the second-highest level of English communication at this university. The goal is to provide opportunities for students to reach as close as possible to communicative fluency. Students not confident in English, nor willing to speak it, should not take this class.																																																																		
授業の概要： This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-4, and Advanced Communication I and II (or who otherwise display sufficient proficiency to be accepted into the class). A high level of communicative ability will be assumed of all students who opt to take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English on complex topics should not consider taking this class. As well as students putting into practice the wealth of English skills they have learned in their O.C., Discussion and Debate, and Presentation classes, the classes will focus on specific advanced communication skills, taking the skills of Advanced Communication I to a higher level. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course. Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic (see below for details)																																																																		
授 業 計 画： <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第 1 週： Dress Code 第 2 週： Video Games 第 3 週： Advertising 第 4 週： International competitions 第 5 週： Mobile Phones 第 6 週： Manners and Etiquette 第 7 週： Volunteering 第 8 週： Health and Nature </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第 9 週： Extreme Sports 第 10 週： Free Education 第 11 週： Multiple Intelligences 第 12 週： Gender Roles 第 13 週： Dating 第 14 週： Parenting 第 15 週： Natural Disasters </td> </tr> </table>			第 1 週： Dress Code 第 2 週： Video Games 第 3 週： Advertising 第 4 週： International competitions 第 5 週： Mobile Phones 第 6 週： Manners and Etiquette 第 7 週： Volunteering 第 8 週： Health and Nature	第 9 週： Extreme Sports 第 10 週： Free Education 第 11 週： Multiple Intelligences 第 12 週： Gender Roles 第 13 週： Dating 第 14 週： Parenting 第 15 週： Natural Disasters																																																														
第 1 週： Dress Code 第 2 週： Video Games 第 3 週： Advertising 第 4 週： International competitions 第 5 週： Mobile Phones 第 6 週： Manners and Etiquette 第 7 週： Volunteering 第 8 週： Health and Nature	第 9 週： Extreme Sports 第 10 週： Free Education 第 11 週： Multiple Intelligences 第 12 週： Gender Roles 第 13 週： Dating 第 14 週： Parenting 第 15 週： Natural Disasters																																																																	
テキスト： Communication Strategies 3 (TBC)																																																																		
参 考 書： A good monolingual paper dictionary is recommended																																																																		
評価方法・評価基準： Class participation, presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy																																																																		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40	小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20	授業態度			○	○			20	受講者の発表								演 習								授業への参加度							20	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40																																																											
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20																																																											
授業態度			○	○			20																																																											
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度							20																																																											
その他																																																																		
履修上の注意： This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.																																																																		

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員																																																																
Advanced Communication IV		Geoffrey Sinha																																																																
<p>授業の到達目標</p> <p>This class is the highest level of English communication at this university. The goal is for students to become fluent in English.</p>																																																																		
<p>授業の概要：</p> <p>This class is only for students who have already passed (with good grades) other Advanced Communication classes, and higher level English classes. Students must be close to communicative fluency to take this class.</p> <p>As well as students putting into practice the wealth of English skills they have learned in their O.C., Discussion and Debate, and Presentation classes, the classes will focus on specific advanced communication skills, taking the skills of Advanced Communication I to a higher level. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.</p> <p>Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic (see below for details)</p>																																																																		
<p>授 業 計 画：</p> <p>第 1 週： Neighbours</p> <p>第 2 週： Tourism</p> <p>第 3 週： Media Violence</p> <p>第 4 週： Body Image</p> <p>第 5 週： Cybersafe?</p> <p>第 6 週： Modern Families</p> <p>第 7 週： Medicine</p> <p>第 8 週： Phobias</p>	<p>第 9 週： Life's Luxuries</p> <p>第 10 週： Good service</p> <p>第 11 週： Fans</p> <p>第 12 週： Strange Weather</p> <p>第 13 週： Getting Older</p> <p>第 14 週： Bullying</p> <p>第 15 週： Working 9 to 5</p>																																																																	
<p>テキスト： Communication Strategies 4 (TBC)</p>																																																																		
<p>参 考 書： A good monolingual paper dictionary is recommended</p>																																																																		
<p>評価方法・評価基準：</p> <p>Class participation, presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy</p> <table border="1" data-bbox="284 1361 1348 1659"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40	小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20	授業態度			○	○			20	受講者の発表								演 習								授業への参加度							20	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40																																																											
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20																																																											
授業態度			○	○			20																																																											
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度							20																																																											
その他																																																																		
<p>履修上の注意：</p> <p>This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.</p>																																																																		

授業科目名	2 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 V (English Reading V)		浜川仁・前原直子・崎原千尋

授業の到達目標及びテーマ
テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 2 級～準 1 級、TOEIC 530～590

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

- 第 1 回 : イントロダクション / Unit 1
 - 第 2 回 :
 - 第 3 回 :
 - 第 4 回 :
 - 第 5 回 :
 - 第 6 回 :
 - 第 7 回 :
 - 第 8 回 : まとめ (中間)
 - 第 9 回 :
 - 第 10 回 :
 - 第 11 回 :
 - 第 12 回 :
 - 第 13 回 :
 - 第 14 回 :
 - 第 15 回 : まとめ (期末)
- Unit 1 ~ Unit 6
- Unit 7 ~ Unit 12

テキスト : Paul MacIntyre 著 *Reading Explorer 3 second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 : 文章の難易度が高く、学習量も多い。予習を心がけよう。

授業科目名	2 単位 (0-4)	担当教員
英語講読演習 VI (English Reading VI)		レイフィールド典子

授業の到達目標及びテーマ

テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。

授業の概要

使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。

英語検定試験 (STEP) 準 1 級以上、TOEIC 640～

授 業 計 画 ※クラス及び使用テキストに合わせて、変更・調整が加えられます。

第 1 回 : イントロダクション / Unit 1

第 2 回 :

第 3 回 :

第 4 回 :

第 5 回 :

第 6 回 :

第 7 回 :

第 8 回 :

第 9 回 :

第 10 回 :

第 11 回 :

第 12 回 :

第 13 回 :

第 14 回 :

第 15 回 :

Unit 1 ~ Unit 6

まとめ (中間)

Unit 7 ~ Unit 12

まとめ (期末)

テキスト : *Reading Explorer 4 second Edition* (HEINLE, CENGAGE Learning)

参 考 書 : 参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意 : 文章の難易度はかなり高く、学習量も非常に多い。予習を心がけよう。

授業科目名	2 単位 (0-2)	担当教員
Current Issues in English		Michael Bradley

授業の到達目標及びテーマ：授業の概要を参照のこと。

授業の概要

現在ニュースとして取り上げられているトピックについて、英文の新聞、雑誌等を正確に、かつ批判的に読む能力を育成する。学生の時事問題に対する意識の向上を図り、世界の直面する問題について自分の意見を持てるようにする。速く正確に読む能力を高めるため、語彙力の増強も図る。日本語のニュースも適宜参照するので、将来マスコミを目指す学生の受講を大いに歓迎する。

授 業 計 画

第1回： ニュースメディアの英語について	第9回： トピック⑤（教育・環境）
第2回： 英字新聞の読み方①	第10回： トピック⑥（スポーツ・芸能・文化）
第3回： 英字新聞の読み方②	第11回： トピック⑦（沖縄関連ニュース）
第4回： 英字新聞の読み方③	第12回： テレビニュース①
第5回： トピック①（国際政治）	第13回： テレビニュース②
第6回： トピック②（国内政治）	第14回： ラジオニュース③
第7回： トピック③（事件・事故・社会問題）	第15回： まとめ（レポート提出）
第8回： トピック④（経済）	

テキスト： *USA Today*, などの英字新聞、雑誌に掲載される記事を適宜使用する。
教科書は、授業の際に示す。

参 考 書： 授業の際に示す。

評価方法・評価基準：出席（10%）、小テスト（30%）、単語カード作成・提出（10%）、期末テスト（50%）。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：英和辞書を毎回持参すること。（電子辞書でも構わない。）

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
Current Issues Online		Michael Bradley

授業の到達目標及びテーマ

The objective of this course is to improve students' ability to use English in an online environment to do basic research and will increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally.

授業の概要

This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites software to participate in the course. By the end of this course, the student should be more comfortable working and leaning in an online environment as well as have developed a greater understanding of the issues and a greater ability in thinking, talking and writing about those issues.

授 業 計 画 [Topics may change depending on the current issues at the time of the course]

第 1 回 : Introduction and orientation to distance learning and course	第 9 回 : Drug Abuse
第 2 回 : Reproduction issues	第 10 回 : Bosozone
第 3 回 : Bullying in schools and the workplac	第 11 回 : Pollution issues
第 4 回 : Hikikomori	第 12 回 : Explaining the exam
第 5 回 : Drinking and drivin	第 13 回 : Deceiding then researhing
第 6 回 : Creating jobs	第 14 回 : North Korea
第 7 回 : Globalization	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Poverty issues	

テキスト : None

参 考 書 : Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.

評価方法・評価基準 :

Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	Knowledge through basic research		Important	Important	Ability to express oneself in English		7 5
受講者の発表	同上		同上	同上	同上		1 5
演 習							
授業への参加度							1 5
その他							

履修上の注意 :

Students are expected to respond at least three times per week to discussions taken up over weekly topics. Students should have completed Paragraph Writing I and II.

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
高等英文法 (Advanced English Grammar)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う

授業の概要

英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本人の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。自分の書いた英文を口頭で発表する機会を出来るだけ多くする。

授 業 計 画

第 1 回：	Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 6	第 9 回：	Pronouns & Determiners, Unit 79 - 88
第 2 回：	Tense (Present Perfect & Past), Unit 7 - 20	第 10 回：	Relatives Clauses, Unit 89 - 94
第 3 回：	Tense (Future) & Modals, Unit 21 - 34	第 11 回：	Review 2
第 4 回：	Conditionals, Passive & Reported Speech, Unit 35 - 45	第 12 回：	Adjectives & Adverbs, Unit 95 - 08
第 5 回：	Questions & Auxiliary Verbs, Unit 46 - 56	第 13 回：	Conjunctions & Prepositions, Unit 109 - 120
第 6 回：	Review 1	第 14 回：	Prepositions, Unit 121 - 133
第 7 回：	-ing & the infinitive, Unit 56 -65	第 15 回：	Review (2)
第 8 回：	Articles & Nouns, Unit 66 - 78	第 16 回：	まとめ・授業内試験

テキスト： Raymond Murphy, *Grammar in Use Intermediate*, Cambridge

参考書： なし

評価方法・評価基準：

講義出席率、Quiz、中間テスト、期末テスト、等を総合的に判断して評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						80%
小テスト・ 授業内レポート		○						10%
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								
演習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意：

- ・ 頻繁に Quiz を行うが、文法学習を英作文・口頭発表に役立てるものとして取り組むこと。
- ・ 英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当の実力がある学生が受講すること。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
Investigative Reporting		Christopher Daniel Melley

授業の到達目標

Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalism.

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Local Economic Issues
第 2 回 : Environmental Contamination	第 10 回 : Workshop
第 3 回 : Local Social Issues	第 11 回 : Global Economic Issues
第 4 回 : Workshop	第 12 回 : Global Economic Issues
第 5 回 : National/Global Social Issues	第 13 回 : Workshop
第 6 回 : National/Global Social Issues	第 14 回 : Workshop
第 7 回 : Workshop	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Midterm Exam	

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
授業への参加度			○	○			
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員																																																																
Advanced Writing		Daniel Broudy																																																																
授業の到達目標及びテーマ																																																																		
授業の概要 種々のトピックについて、Paragraph Writing I、II のそれより、更に長いエッセイを書く。特に、論旨の展開における統一性・一貫性に留意する。更に、内容に相応しい語彙と表現を選択し、より洗練された文章が書けるよう指導する。添削・推敲の過程においてプロセス・アプローチを採用する。書き上げたエッセイに基づいて、オーラル・プレゼンテーションを行ない、担当教師や他の学生の質疑やコメントに英語で応答する。																																																																		
授 業 計 画 第 1 回 student introductions/course introduction / handout course materials Homework: taking a stand on issues 第 2 回 : discussion of readings Exercises “topics / assertions / theses” Homework: induction and deduction 第 3 回 : discussion of readings. Exercises “syllogism” Homework: study for qui 第 4 回 : quiz Homework: “toulmin’s approach” 第 5 回 : discussion of readings Exercises: “designing an outline” Homework: draft outline of an argumentative paper 第 6 回 : discussion of homework Exercises “managing information from sources” Homework: draft paper for workshop on meeting 第 7 回 : discussion of detecting plagiarism Homework: finish paper for workshop 第 8 回 : workshop for first draft Homework: read remaining papers 第 9 回 : finish workshop Homework: read remaining papers 第 10 回 : quiz Homework: “schema” 第 11 回 : discussion of stylistic scheme 第 12 回 : workshop for second draft 第 13 回 : finish workshop 第 14 回 : semester review 第 15 回 : まとめ																																																																		
テキスト： 指定しない																																																																		
評価方法・評価基準/comprehensive : Paper =40%、Participation = 20% Quizzes = 20%、Exam=20%																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																											
成績評価 試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：																																																																		

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
Creative Writing		Peter Wodarz

授業の到達目標及びテーマ

Prerequisite: Composition 1 & 2. A survey of key areas of creative writing: poetry, short story, and drama. Emphasis is on reading and thinking critically from a writer's perspective as a way to better understand the art. This course asks you to use your imagination and to express yourself creatively. We will examine prose and poetry, discuss the elements of creative writing and put new knowledge into practice.

授業の概要

Participation is a major part of this course. This means that coming to class – on time – and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score. Exams will test your ability to understand tone, register and meaning. The exercises and short readings you do will develop your awareness of tone, register and meaning.

授 業 計 画

第 1 回 : Introductions	第 9 回 : Workshop for Second Story
第 2 回 : Theme & Setting	第 10 回 : Dialogue
第 3 回 : Discussion of Readings	第 11 回 : Workshop for First Poem
第 4 回 : Workshop for First Story	第 12 回 : Time
第 5 回 : Plot & Point of View	第 13 回 : Found Poetry Exercise
第 6 回 : Tone & Style	第 14 回 : Workshop for Second Poem
第 7 回 : Workshop for Second Story	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Midterm Exam	

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
授業への参加度			○	○			
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
Visual Rhetoric		Daniel Broudy

授業の到達目標及びテーマ

This is an upper-level course in critical analysis that fulfills part of the writing requirements. This course examines social and political media and the visual aspects of mass persuasion. Students are introduced to modern and contemporary methods of persuasion used in commercial and military media. The principal aim of the course is to develop critical perspectives on visual messages.

授業の概要

Emphasis will be on critical reflection and writing.

授 業 計 画 : These are subject to change, but as a general guide the weekly themes are:

第 1 回 : What is "visual rhetoric"?	第 9 回 : Context and persuasion
第 2 回 : Color in mass persuasion	第 10 回 : Reinforcing racial stereotypes
第 3 回 : Reinforcing gender roles	第 11 回 : Subliminal techniques
第 4 回 : Hyper-sexualizing products	第 12 回 : Shock advertising
第 5 回 : Green-washing techniques	第 13 回 : Manufacturing military actions
第 6 回 : Framing the powerful	第 14 回 : Anti-advertising
第 7 回 : Political destruction	第 15 回 : Final Exam
第 8 回 : Midterm Exam	

テキスト : Handouts.

参 考 書 : Students need to keep a notebook.

評価方法・評価基準 :

NOTE: Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
授業への参加度			○	○			
その他							

履修上の注意 :

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
英語音声学 (The Sounds of English)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。

授業の概要

英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び。更に、音声記号の読み・書きを練習することにより、英語音により近い音が発せられるようになることを授業の目標とする。

授業計画

第1回： Introduction	第9回： 子音④ Unit 20-22
第2回： 母音① Unit 2-4	第10回： 子音⑤ Unit 23、子音まとめ
第3回： 母音② Unit 4-6	第11回： 音節 Unit 28-30
第4回： 母音③ Unit 7-9	第12回： 強勢 Unit 31-33
第5回： 母音④ Unit 10、母音まとめ	第13回： 同化・リズム Unit 34-36
第6回： 子音① Unit 11-13	第14回： 強弱 Unit 37-40
第7回： 子音② Unit 14-16	第15回： イントネーション Unit 44-46
第8回： 子音③ Unit 17-19	第16回： まとめ・授業内試験

テキスト：Jonathan Marks *English Pronunciation in Use* (Cambridge University Press)

参考書：1. 今井邦彦『ファンダメンタル音声学』ひつじ書房
2. 牧野武彦『日本人のための英語音声学レッスン』大修館書店

評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業への積極的参加、テスト

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						70%
小テスト・ 授業内レポート	○		○				10%
授業態度			○	○	○		20%
受講者の発表			○	○	○		10%
演習			○	○	○		
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- ・ テキスト・参考書の変更がないか各自確認すること。
- ・ 英語発音の仕組み（メカニズム）を捉えること。発音記号の読みと表記に慣れること。指摘された発音上の弱点を克服すること。遅刻しないこと。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英語学概論 I (Introduction to the Study of English I)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。

授業の概要

英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、応用問題やクイズで理解の確認を図る。

授 業 計 画

第 1 回： ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究	第 9 回： ことばの意味にみられる主観性、ことばの意味とコンテキスト
第 2 回： 英語の発音とスペリング	第 10 回： まとまりのある文章、文中の情報構造
第 3 回： 英語の語彙と多様性、標準英語の成立	第 11 回： ことばのやりとりにおけるルール
第 4 回： 英語のバリエーション、ことばの変化	第 12 回： コミュニケーションの民俗誌、英語と文化
第 5 回： ことばと音声、音の組合せとアクセント	第 13 回： ことばと社会、ことばと国家
第 6 回： 単語ができる仕組み、文ができる仕組み	第 14 回： 日本の英語教育と教授法
第 7 回： 文の内部構造、ことばの意味	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 語の間の意味関係、意味の拡張	

テキスト：長谷川瑞穂 編 『はじめての英語学』 研究社 (2006)

参 考 書：未定

評価方法・評価基準：

毎回の出席、授業態度や授業への参加度、課題やクイズ、期末テストの結果を総合的に判断する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						60%
小テスト・ 授業内レポート	○						20%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表				○	○		10%
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。また、クイズも成績に反映されるので欠席しないよう心がけること。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英語の社会言語学的研究		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ

英語を社会との関連の中で多面的に理解する。社会に実際に存在する具体的な問題やその背景を把握し、矛盾や問題を認識・解決する姿勢を養う。

授業の概要

言語構造としての英語ではなく、英語をとりまく地域、世代、性別、職業、民族性など様々な背景と英語との相関関係を社会言語学的な観点から概観する。国際化とともに変移する英語の社会的立場や他の言語との関係など、英語に特化したテーマに加えて、言語の多様性や言語権など言語と社会をどう捉えるか学際的研究の動向を学ぶ。

授 業 計 画：

第 1 回： 社会言語学とは何か	第 8 回： 年齢と言語
第 2 回： 多言語社会、ダイグロッシア	第 9 回： オーディエンス・デザイン
第 3 回： コードスイッチング	第 10 回： スピーチ・アコモデーション
第 4 回： 言語の死と誕生	第 11 回： ポライトネス・ストラテジー
第 5 回： 地域方言、社会方言	第 12 回： 法律と言葉、精神療法の英語
第 6 回： 黒人英語	第 13 回： 異文化コミュニケーション
第 7 回： ジェンダーと言語	第 14 回： 言語政策：米国での公用語運動
	第 15 回： まとめ、期末テスト

テキスト： 『社会言語学入門』（改訂版） 東照二 著 研究社

参 考 書： 未定

評価方法・評価基準：中間・期末試験、小テスト、授業態度などを総合して評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	60						50
小テスト・ 授業内レポート	20			10			40
授業態度							10
受講者の発表	10						
演 習							
授業への参加度							遅刻・欠席はマ イナス
その他							

履修上の注意：

- ・ 居眠りや私語は減点の対象となるので気をつけること。
- ・ 必ず宿題を済ませて授業にのぞむこと。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英語学概論 II (Introduction to the Study of English II)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：英語の構造と機能について理解を深める。

授業の概要

英語学概論 I で学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。

授 業 計 画

第 1 回 : Why Study English Linguistics	第 9 回 : How to Communicate with Other People: Pragmatics
第 2 回 : How Words Are Made: Morphology	第 10 回 : The Sounds of English: Phonetics and Phonology
第 3 回 : How Words Mean: Semantics I	第 11 回 : Regional Varieties of English: Sociolinguistics I
第 4 回 : How English Phrases Are Formed: Syntax I	第 12 回 : English in Society: Sociolinguistics II
第 5 回 : How English Sentences Are Formed: Syntax II	第 13 回 : How English is Acquired: Psycholinguistics
第 6 回 : How Sentences Mean: Semantics II	第 14 回 : Review (2)
第 7 回 : Review (1)	第 15 回 : Discussion & Final Examination
第 8 回 : Why Study English Linguistics	

テキスト：未定

参 考 書：影山太郎他(2004) Introduction to English Linguistics 2nd ed. くろしお出版

評価方法・評価基準：

毎回の出席、授業態度や授業への参加度、課題やクイズ、期末テストの結果を総合的に判断する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○						50%
小テスト・ 授業内レポート	○						30%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表				○	○		10%
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- ・ 英語学概論 I を履修しておくこと。
- ・ 予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。
- ・ 教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
英語教育法 (English Teaching Methods)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。 思考・判断・判断：教育の問題を批判的に考察できる。関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。

授業の概要

教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション・英語教育の目的	第9回： 4技能の指導
第2回： 日本の英語教育の歴史	第10回： 文法・語彙指導
第3回： 英語学習者論と英語教師論	第11回： 教科書・教材研究
第4回： 第二言語習得研究	第12回： 測定と評価
第5回： 英語教授法	第13回： 国際理解教育
第6回： 学習指導要領	第14回： 早期英語教育
第7回： コミュニケーション能力の育成	第15回： まとめ
第8回： 授業計画・教案・授業運営	

テキスト： 未定

参考書： 課題図書、参考文献は開講時に提示する。

評価方法・評価基準： 1 授業への参加度 2 発表、授業への参加姿勢 3 レポート・クイズ・定期テスト
4 上記、1、2、3をもって総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					70
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○				10
受講者の発表				○			評価に加えず
演習	○				○		評価に加えず
授業への参加度				○			欠点減点対象
その他							

履修上の注意： 1 テキストとともに課題図書が指定される。
2 予習を前提として講義を行う。
3 2回以上の遅刻を認めない。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英文学史 (History of British Literature)		浜川 仁

授業の到達目標及びテーマ
英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。

授業の概要
古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20 世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： ロマン派 (2)
第 2 回： チョーサー	第 10 回： まとめ
第 3 回： シェイクスピア (1)	第 11 回： ビクトリア朝 (1)
第 4 回： 17 世紀文学	第 12 回： ビクトリア朝 (2)
第 5 回： ミルトン	第 13 回： モダニズム
第 6 回： 18 世紀文学	第 14 回： 現代
第 7 回： プレロマン	第 15 回： 期末レポートの提出/テスト/ まとめ
第 8 回： ロマン派 (1)	

テキスト： 講義で配布するシラバスを参照。

参 考 書：

評価方法・評価基準： 授業への参加度 (10%)、課題 (40%)、小論文 (50%)

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		90
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			10
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
米文学史 (History of American Literature)		喜納 育江

授業の到達目標及びテーマ

講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。

授業の概要

この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテキストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て大恐慌、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。

授 業 計 画

第 1 回 : アメリカ史のアウトライン	第 9 回 : 奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学 (2)
第 2 回 : アメリカ大陸の征服と先住民とヨーロッパ人の関係の始まり	第 10 回 : リアリズムと地域主義の文学 (1)
第 3 回 : ピューリタンとアメリカ文学	第 11 回 : リアリズムと地域主義の文学 (2)
第 4 回 : 先住民とピューリタンの関係	第 12 回 : 文学とアメリカ資本主義
第 5 回 : 建国の父たち	第 13 回 : 公民権運動から多文化主義へ
第 6 回 : アメリカ文学の文学的成熟	第 14 回 : アメリカ文学の現在
第 7 回 : 19世紀アメリカ詩	第 15 回 : まとめ
第 8 回 : 奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学 (1)	

テキスト：主要なテキストは後期開始前に告示。授業で配布するハンドアウトも重要なテキストになる。

参 考 書：亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年

評価方法・評価基準：

期末テスト 50%、クイズ、レポート 30%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度 20%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度			○	○	○		20%
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○	○			1/3 以上の欠席 で不可とする
その他							

履修上の注意：

文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英国文学作品研究 I (Readings in British Literature I)		浜川 仁

授業の到達目標及びテーマ
18 世紀後半から 19 世紀初めの英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。

授業の概要

Jane Austen の *Pride and Prejudice* (1813) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。

授 業 計 画

第 1 回： イントロダクション	第 8 回： まとめ
第 2 回： Chapters 1~6	第 9 回： Chapters 35~40
第 3 回： " 7~11	第 10 回： " 41~43
第 4 回： " 12~17	第 11 回： " 44~47
第 5 回： " 18~22	第 12 回： " 48~52
第 6 回： " 23~28	第 13 回： " 53~56
第 7 回： " 29~34 / 初回論文提出	第 14 回： " 57~61 / 第二回論文提出
	第 15 回： まとめ

※第 2~6 回、第 9~14 回にサブ教材についての説明や映画鑑賞もある。

テキスト： Jane Austen 著 *Pride and Prejudice*

参 考 書： サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。

評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		20
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○	70
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度				○			10
その他							

履修上の注意：積極的にディスカッションに参加して欲しい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
英国文学作品研究 I (Readings in British Literature I)		渡久山 幸功

授業の到達目標及びテーマ：知識理解：19世紀後半から20世紀のアイランド文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：英国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。アイランド文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、詩や短編小説を批評分析する能力身に付ける。英文の読解力を付ける。

授業の概要：James Joyceの短編集 *Dubliners* (1914)の作品研究を行う。テキストを精読し、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション(討論)に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文(英文 A4版 1ページ 12フォント 20行 600英単語以上)を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。

授 業 計 画

第1回： コース・イントロダクション The Sisters	第9回： Clay
第2回： An Encounter	第10回： A Painful Case
第3回： Araby	第11回： Ivy Day in the Committee Room
第4回： Eveline & After the Race	第12回： A Mother
第5回： Two Gallants	第13回： The Dead
第6回： The Boarding House	第14回： The Dead
第7回： A Little Cloud	第15回： まとめ及び期末試験
第8回： Counterparts	

テキスト： James Joyce 著 *Dubliners* (1914)

参 考 書： サブテキストや批評論文は適宜クラスで配布する。

評価方法・評価基準： クイズ：(30%) ディスカッション貢献度：(10%)
期末試験：(30%) 英文小論文：(30%)

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							30
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		30
授業態度			○	○			10
受講者の発表				○	○		
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○				
その他(クイズ)	○		○				30

履修上の注意：欠席5回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。
英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
英国文学作品研究 II (Readings in British Literature II)		渡久山 幸功

授業の到達目標及びテーマ
19 世紀英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。

授業の概要

Charlotte Brontë の *Jane Eyre* (1857) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。

授 業 計 画

第 1 回 : イン트로ダクション	第 8 回 : Chapters 18~20 / 初回論文提出
第 2 回 : Chapters 1~3	第 9 回 : Chapters 21~23
第 3 回 : Chapters 4~7	第 10 回 : Chapters 24~26
第 4 回 : Chapters 8~11	第 11 回 : Chapters 27~28
第 5 回 : Chapters 12~15	第 12 回 : Chapters 29~32
第 6 回 : Chapters 16~17	第 13 回 : Chapters 33~34
第 7 回 : まとめ	第 14 回 : Chapters 35~38 / 第二回論文提出
	第 15 回 : まとめ

テキスト : Charlotte Brontë 著 *Jane Eyre*

参 考 書 : サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。

評価方法・評価基準 : 以下を目安とし、評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		20
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○	70
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度				○			10
その他							

履修上の注意 : 積極的にディスカッションに参加して欲しい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
米文学作品研究 I (Readings in American Literature I)		崎原 千尋

授業の到達目標及びテーマ：

(技能・表現) 文学作品を読む作業を通してtextual analysis (内容分析) の基礎を学ぶ。(思考・判断) その上で (1) 文学作品を米国の (黒人女性を主体とした) 文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせる事、(2) race, gender, sexualityの基礎概念を読み解くことに焦点をあてる。(関心・意欲) アフリカ系アメリカ人女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や文化社会に影響してきたのだろうか。また時代や空間を超えて今、沖縄に生きる私たちにどう呼応するのかを議論する。

授業の概要

テキストは Tony Morrison の *The Bluest Eyes* (1970) を使用する。グループで割り当てられたチャプターを担当して概要や感想をシェアしながら読み進める。その流れの中で①作者やアフリカ系アメリカ人女性と文学作品に関する時代背景、②race, gender, sexuality の概念と文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義を盛り込む。毎回の授業で感想ノートを書いてもらい、期末はエッセイ方式にする。

授 業 計 画

第1回： イントロダクション	第9回： //
第2回： <i>The Bluest Eyes</i>	第10回： //
第3回： //	第11回： //
第4回： //	第12回： //
第5回： //	第13回： //
第6回： //	第14回： //
第7回： //	第15回： まとめ(授業内エッセイ提出)
第8回： //	

テキスト： Tony Morrison, *The Bluest Eye* (New York: Pocket Books, 1970)

参 考 書： クラスで適宜、資料を配布します。

評価方法・評価基準：クイズ：30% 口頭発表：20% ディスカッション貢献度：10% 小論文(課題)：40%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		30
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○	○	○		20
演 習							
授業への参加度			○				3/1以上の欠席は不可
その他(課題)	○	○	○		○		40

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
米国文学作品研究 II (Readings in American Literature II)		渡久山 幸功

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：米国文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。関心意欲：米国文学に興味を持つ。思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。20世紀米国小説の特色を理解し、研究論文を作成する。

授業の概要

学期の前半は、T. S. Eliot の長編詩 *The Waste Land* (1922)、後半は *The Great Gatsby* (1925) の米国小説を学ぶ。授業前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッションに参加することを義務化する。最終的には *The Great Gatsby* の文学批評小論文（英文 A4 版 1 ページ 12 フォント 20 行 4 ページ以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。

授業計画

第1回： コース・イントロダクション	第9回： <i>The Great Gatsby</i> 5
第2回： <i>The Waste Land</i> 1	第10回： <i>The Great Gatsby</i> 6
第3回： <i>The Waste Land</i> 2	第11回： <i>The Great Gatsby</i> 7
第4回： <i>The Waste Land</i> 3	第12回： <i>The Great Gatsby</i> 8
第5回： <i>The Waste Land</i> 4 及び中間試験	第13回： <i>The Great Gatsby</i> 9
第6回： <i>The Great Gatsby</i> 2	第14回： <i>The Great Gatsby</i> 10
第7回： <i>The Great Gatsby</i> 3	第15回： まとめ及び期末試験
第8回 <i>The Great Gatsby</i> 4	第16回：

テキスト： T. S. Eliot *The Waste Land* (1922)
F. Scott Fitzgerald *The Great Gatsby* (1925)

参考書： Lois Tyson *Critical Theory Today: A User-Friendly Guide* (2006)

評価方法・評価基準： 中間試験：(10%) 期末試験：(30%) ディスカッション貢献度：(10%)
英文小論文と論文要旨：(30%) 発表：(10%) その他(課題)：(10%)

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					40
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		30
授業態度				○	○			10
受講者の発表								10
演習								
授業への参加度								
その他(課題)		○		○				10

履修上の注意：欠席5回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。
英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。
米国作品研究Ⅰの単位取得済みの方が望ましい。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
同時通訳 I (Simultaneous Interpretation I)		城間 仙子

授業の到達目標及びテーマ
 ・ 同時通訳に必要な訓練をこなすことができる
 ・ 基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する

授業の概要

同時通訳者は特別な人だけがなれると思いませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。

この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNN や NHK (日英両語) のニュースなども教材の一部として活用します。

また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。

授 業 計 画

第 1 回 : イントロダクション	第 9 回 : 日・英両語のニュース同時通訳(シャドウイングを中心に) 1
第 2 回 : シャドウイング(発音、イントネーションの練習)	第 10 回 : 日・英両語のニュース同時通訳(シャドウイングを中心に) 2
第 3 回 : 語彙(単語・固有名詞を含む)のクイック・レスポンス	第 11 回 : 通訳者としての立ち振る舞い(マナー)
第 4 回 : 予測練習	第 12 回 : メモ取り
第 5 回 : リテンション・リプロダクション	第 13 回 : 逐次通訳(日→英)
第 6 回 : サイト・トランスレーション	第 14 回 : 逐次通訳(英→日)
第 7 回 : 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1	第 15 回 : 月曜礼拝メッセージの同時通訳
第 8 回 : 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2	

上記 2~15 を 15 週適宜行う。

テキスト：授業担当教員が準備・配布します。

参 考 書：

評価方法・評価基準：ラボで毎回個人をモニターする。月曜礼拝メッセージの同時通訳。期末テスト。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○	○	○	○		20
演 習	○	○	○	○	○		30
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意：

遅刻しないこと。USBメモリを常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。

月曜礼拝のメッセージに聞きなれること。日・英両語で新聞を読むこと。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
同時通訳Ⅱ (Simultaneous InterpretationⅡ)		城間 仙子

授業の到達目標及びテーマ

- ・ 同時通訳に必要な訓練をスムーズにこなすことができる
- ・ 基礎的な同時通訳、逐次通訳ができる

授業の概要

同時通訳Ⅰで学んだものを更にステップアップし、日・英両語で同時通訳が出来るようになることを目的とします。演習の内容は同時通訳Ⅰと同様（詳しくは「同時通訳Ⅰ」をご覧ください）ですが、これらをさらに徹底し、より豊富な語彙力、安定した文法力、的確な表現を目指して同時通訳に備えます。

実践演習として、月曜礼拝の同時通訳にもチャレンジします。

授 業 計 画

第1回： シャドウイング (発音、イントネーションの練習)	第9回： 日・英両語のニュースの同時通訳練習1
第2回： 語彙(単語・固有名詞を含む)の クイック・レスポンス	第10回： 日・英両語のニュースの同時通訳練習2
第3回： 予測練習	第11回： メモ取り
第4回： リテンション・リプロダクション	第12回： 逐次通訳(日→英)
第5回： サイト・トランスレーション	第13回： 逐次通訳(英→日)
第6回： 日・英両語の原稿を用いた同時通訳 の練習	第14回： 月曜礼拝メッセージの同時通訳
第7回： スピーチの同時通訳練習	第15回： 特別講演等の同時通訳
第8回： 日・英両語の新聞記事読解	

上記1～15を15週適宜行う。

テキスト： 担当教員が準備・配布します。

評価方法・評価基準：ラポで毎回個人をモニターする。月曜礼拝メッセージ同時通訳。

特別講演同時通訳。期末テスト。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度				○	○	○		30
受講者の発表	○	○	○	○	○	○		20
演 習	○	○	○	○	○	○		30
授業への参加度				○	○			20
その他								

履修上の注意：遅刻しないこと。USBを常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。

月曜礼拝のメッセージに聞きなれること。日・英両語で新聞を読むこと。

NHK、CNNのニュースをよく聞くこと。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員																																																																								
同時通訳実践演習 I (Chapel Service) (Chapel Service Interpretation I)		城間 仙子																																																																								
授業の到達目標及びテーマ 月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。																																																																										
授業の概要 前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。																																																																										
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります																																																																										
<table border="1"> <tr><td>第 1 回 : 月曜礼拝通訳 1</td></tr> <tr><td>第 2 回 : 月曜礼拝通訳 2</td></tr> <tr><td>第 3 回 : 月曜礼拝通訳 3</td></tr> <tr><td>第 4 回 : キリスト教講演会通訳</td></tr> <tr><td>第 5 回 : 月曜礼拝通訳 4</td></tr> <tr><td>第 6 回 : 月曜礼拝通訳 5</td></tr> <tr><td>第 7 回 : 月曜礼拝通訳 6</td></tr> <tr><td>第 8 回 : 月曜礼拝通訳 7</td></tr> </table>	第 1 回 : 月曜礼拝通訳 1	第 2 回 : 月曜礼拝通訳 2	第 3 回 : 月曜礼拝通訳 3	第 4 回 : キリスト教講演会通訳	第 5 回 : 月曜礼拝通訳 4	第 6 回 : 月曜礼拝通訳 5	第 7 回 : 月曜礼拝通訳 6	第 8 回 : 月曜礼拝通訳 7	<table border="1"> <tr><td>第 9 回 : 月曜礼拝通訳 8</td></tr> <tr><td>第 10 回 : 月曜礼拝通訳 9</td></tr> <tr><td>第 11 回 : 月曜礼拝通訳 10</td></tr> <tr><td>第 12 回 : 月曜礼拝通訳 11</td></tr> <tr><td>第 13 回 : 月曜礼拝通訳 12</td></tr> <tr><td>第 14 回 : 月曜礼拝通訳 13</td></tr> <tr><td>第 15 回 : まとめとフィードバック</td></tr> </table>	第 9 回 : 月曜礼拝通訳 8	第 10 回 : 月曜礼拝通訳 9	第 11 回 : 月曜礼拝通訳 10	第 12 回 : 月曜礼拝通訳 11	第 13 回 : 月曜礼拝通訳 12	第 14 回 : 月曜礼拝通訳 13	第 15 回 : まとめとフィードバック																																																										
第 1 回 : 月曜礼拝通訳 1																																																																										
第 2 回 : 月曜礼拝通訳 2																																																																										
第 3 回 : 月曜礼拝通訳 3																																																																										
第 4 回 : キリスト教講演会通訳																																																																										
第 5 回 : 月曜礼拝通訳 4																																																																										
第 6 回 : 月曜礼拝通訳 5																																																																										
第 7 回 : 月曜礼拝通訳 6																																																																										
第 8 回 : 月曜礼拝通訳 7																																																																										
第 9 回 : 月曜礼拝通訳 8																																																																										
第 10 回 : 月曜礼拝通訳 9																																																																										
第 11 回 : 月曜礼拝通訳 10																																																																										
第 12 回 : 月曜礼拝通訳 11																																																																										
第 13 回 : 月曜礼拝通訳 12																																																																										
第 14 回 : 月曜礼拝通訳 13																																																																										
第 15 回 : まとめとフィードバック																																																																										
テキスト : 礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）																																																																										
参考書 : 聖書（日本語、英語）、その他内容に応じた資料（その都度指定します）																																																																										
評価方法・評価基準 :																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>毎回の小テスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価								毎回の小テスト								課題レポート								授業態度			○	○			30	受講者の発表	○	○			○		30	演 習	○	○		○	○		20	授業への参加度			○	○			20	その他									
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																																																																			
成績評価																																																																										
毎回の小テスト																																																																										
課題レポート																																																																										
授業態度			○	○			30																																																																			
受講者の発表	○	○			○		30																																																																			
演 習	○	○		○	○		20																																																																			
授業への参加度			○	○			20																																																																			
その他																																																																										
履修上の注意 : 「同時通訳 I」または「同時通訳 II」を履修中または履修済みであることが望ましい。																																																																										

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
同時通訳実践演習Ⅱ (Chapel Service) (Chapel Service Interpretation Ⅱ)		城間 仙子

授業の到達目標及びテーマ

月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖縄から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。

授業の概要

後期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。

授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります

第 1 回： 月曜礼拝通訳 1	第 9 回： 月曜礼拝通訳 8
第 2 回： 月曜礼拝通訳 2	第 10 回： 月曜礼拝通訳 9
第 3 回： 月曜礼拝通訳 3	第 11 回： 月曜礼拝通訳 10
第 4 回： キリスト教講演会通訳	第 12 回： 月曜礼拝通訳 11
第 5 回： 月曜礼拝通訳 4	第 13 回： 月曜礼拝通訳 12
第 6 回： 月曜礼拝通訳 5	第 14 回： 月曜礼拝通訳 13
第 7 回： 月曜礼拝通訳 6	第 15 回： まとめとフィードバック
第 8 回： 月曜礼拝通訳 7	

テキスト： 礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）

参考書： 聖書（日本語、英語）、その他内容に応じた資料（その都度指定します）

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
毎回の小テスト							
課題レポート							
授業態度			○	○			30
受講者の発表	○	○			○		30
演 習	○	○		○	○		20
授業への参加度			○	○			20
その他							

履修上の注意： 「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」を履修中または履修済みであることが望ましい。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
通訳とプレゼンテーション		城間 仙子

授業の到達目標及びテーマ
 逐次通訳とは何かを理解し、日本語⇄英語の逐次通訳に必要なプレゼンテーションの力を習得する。

授業の概要

「通訳」には大きく分けて同時通訳と逐次通訳がありますが、この授業では逐次通訳に必要なプレゼンテーションの能力を向上させるために様々な演習をします。スピーチをする人のメッセージの内容はもちろんのこと、心に届く気持ちまでも失わずに聴衆に伝えるにはどうすればよいのか。スピーチの実践練習や種々の技能の訓練に加えて、「共感力」や「信頼」といった高度なコンセプトをも学びましょう。人と人が通じ合う喜びをサポートする意義深さも感じてください。

授業計画

- | | | |
|----------|--------|---|
| 第 1 回 : | 通訳とは : | 通訳と翻訳の違い、同時通訳と逐次通訳との違い |
| 第 2 回 : | } | <ul style="list-style-type: none"> ● スピーチの実践・・・効果的なスピーチに必要なのは？ ● リテンション・・・短文を再生する練習 ● リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習 ● 発音・イントネーションを磨く ● 通訳のためのメモ取り練習 ● 他人のスピーチの逐次通訳 <p style="text-align: right;">以上の内容を第 2 回～第 13 回で適宜行う。</p> |
| 第 3 回 : | | |
| 第 4 回 : | | |
| 第 5 回 : | | |
| 第 6 回 : | | |
| 第 7 回 : | | |
| 第 8 回 : | | |
| 第 9 回 : | | |
| 第 10 回 : | | |
| 第 11 回 : | | |
| 第 12 回 : | | |
| 第 13 回 : | | |
| 第 14 回 : | | |
| 第 15 回 : | まとめ | |

テキスト： 講師作成資料を配布します。

参考書：

評価方法・評価基準： 授業への参加度、クラス内でのパフォーマンス、
 期末テスト等を総合的に判断し評価します。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート	○							20
授業態度								
受講者の発表	○	○	○	○	○	○		30
演習	○	○	○	○	○	○		20
授業への参加度			○	○				30
その他								

履修上の注意： 毎回持参するもの： 英和辞書、和英辞書、ノート、筆記用具

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英日翻訳技法 I (English—Japanese Translation I)		浜川 仁

授業の到達目標及びテーマ：英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。

授業の概要

翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。

授 業 計 画

「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」		「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」	
第1回： イントロダクション with 『翻訳の極意』		第9回： §11A/§13, §14	
第2回： §1, §2/§1, §2, §3, §6, §7, §8		第10回： §11B/§15, §16	
第3回： §3/§4A, §4B, §4C		第11回： まとめ	
第4回： §4/§5A		第12回： §12/§17A, §17B, §17C, §17 D	
第5回： §5, §6/§4D, §5B		第13回： §13/§18	
第6回： まとめ		第14回： §14/§19A, §19B, §19C, §19D	
第7回： §7, §8/§9, §9A, §9B, §9C, §10		第15回： まとめ	
第8回： §9, §10/§11, §12			

テキスト： テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。

参 考 書：

- ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス）
- ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス）、
- ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス）
- ・その他

評価方法・評価基準：以下を目安とし、評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○	○	60
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○	20
授業態度							
受講者の発表							
演 習	○	○	○		○	○	10
授業への参加度				○			10
その他							

履修上の注意：課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員																																																																
英日翻訳技法 II (English—Japanese Translation II)		浜川 仁																																																																
授業の到達目標及びテーマ																																																																		
<p>授業の概要：</p> <p>翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。</p>																																																																		
<p>授 業 計 画</p> <p>「トレーニングマニュアル」/「英文翻訳術」</p> <table border="1"> <tr> <td>第1回： イントロダクション</td> <td>第9回： §18C/§31, §32</td> </tr> <tr> <td>第2回： §15A, §15B/§20A, §20B</td> <td>第10回： まとめ</td> </tr> <tr> <td>第3回： §15C/§20C</td> <td>第11回： §19A/§33, §34, §35</td> </tr> <tr> <td>第4回： §16A, §16B/§25A, §25B</td> <td>第12回： §19B/§36, §37, §38</td> </tr> <tr> <td>第5回： §16C, §17/§25C, §26A, §26B</td> <td>第13回： §20, §21/§39, §40</td> </tr> <tr> <td>第6回： まとめ</td> <td>第14回： §22, §23/§41D, §41A, §41B</td> </tr> <tr> <td>第7回： §18A/§29</td> <td>第15回： まとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回： §18B/§30</td> <td></td> </tr> </table> <p>「トレーニングマニュアル」/「英文翻訳術」</p>			第1回： イントロダクション	第9回： §18C/§31, §32	第2回： §15A, §15B/§20A, §20B	第10回： まとめ	第3回： §15C/§20C	第11回： §19A/§33, §34, §35	第4回： §16A, §16B/§25A, §25B	第12回： §19B/§36, §37, §38	第5回： §16C, §17/§25C, §26A, §26B	第13回： §20, §21/§39, §40	第6回： まとめ	第14回： §22, §23/§41D, §41A, §41B	第7回： §18A/§29	第15回： まとめ	第8回： §18B/§30																																																	
第1回： イントロダクション	第9回： §18C/§31, §32																																																																	
第2回： §15A, §15B/§20A, §20B	第10回： まとめ																																																																	
第3回： §15C/§20C	第11回： §19A/§33, §34, §35																																																																	
第4回： §16A, §16B/§25A, §25B	第12回： §19B/§36, §37, §38																																																																	
第5回： §16C, §17/§25C, §26A, §26B	第13回： §20, §21/§39, §40																																																																	
第6回： まとめ	第14回： §22, §23/§41D, §41A, §41B																																																																	
第7回： §18A/§29	第15回： まとめ																																																																	
第8回： §18B/§30																																																																		
テキスト： テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。																																																																		
<p>参 考 書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス）、 ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス） ・その他 																																																																		
<p>評価方法・評価基準：以下を目安とし、評価する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演 習</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○	○	60	小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○	20	授業態度								受講者の発表								演 習	○	○	○		○	○	10	授業への参加度				○			10	その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○	○	60																																																											
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○	○	20																																																											
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演 習	○	○	○		○	○	10																																																											
授業への参加度				○			10																																																											
その他																																																																		
履修上の注意：課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。																																																																		

授業科目名	2単位 (1-2)	担当教員
同時通訳初級（夏期集中講座） (Simultaneous Interpretation, Elementary)		山里恵子・城間仙子・宮田耀彰

授業の到達目標及びテーマ

英語ニュースのシャドウイングや、ショート・スピーチの同時通訳が出来ることを目標とする。

授業の概要

スクリーニングテストに合格した学生を対象とする。

同時通訳が実際に行われる現場を想定し、プロ通訳者兼教育者と共同して、徹底した訓練を集中的に行う。レベルとして、各種イベントのボランティア通訳を目指す。教材として、月曜礼拝原稿、学内外での会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音テープを用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い同時通訳のスキルを養う。シャドウイング、サイト・トランスレーション、クイック・レスポンスを中心に日・英両語で徹底的に訓練する。また、逐次通訳に必要なノート・テーキングやマナーをも含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、ボランティア通訳が出来るよう、受講者のスピーチを逐次・同時通訳させる。

授 業 計 画

第1回： イントロダクション	第9回： 日・英両語のショートスピーチ
第2回： シャドウイング	第10回： メモ取り
第3回： 語彙（単語・数字・固有名詞を含む） のクイック・レスポンス	第11回： 逐次通訳（1）
第4回： サイト・トランスレーション	第12回： 逐次通訳（2）
第5回： 日・英両語の原稿を用いた同時通訳	第13回： トータル・パフォーマンス（1）
第6回： 日・英両語の新聞記事読解	第14回： トータル・パフォーマンス（2）
第7回： 日・英両語のニュース同時通訳	第15回： 同時通訳専用ブースでの同時通訳 実演（1）
第8回： 日・英両語の翻訳	第16回： 同時通訳専用ブースでの同時通訳 実演（2）

上記 2~16 を 60 時間で適宜行う

テキスト： テレビ・ラジオ番組の録音テープ・トランスクリプション
講演などの録音・録画テープ・トランスクリプション
日・英両語の新聞、ジャーナル

参 考 書：

評価方法・評価基準：ラボで毎回個人をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。
同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○					}	総合 100%
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		
授業態度			○	○	○		
受講者の発表	○	○	○	○	○		
演 習			○	○	○		
授業への参加度							
その他						1/3 欠承認	

履修上の注意： 遅刻しないこと。テープ 2 本と USB を常に持参すること。語彙を増やす努力をすること。

授業科目名	2単位 (1-2)	担当教員
同時通訳上級 (夏期集中講座) (Simultaneous Interpretation, Advanced)		山里恵子・城間仙子・宮田耀彰

授業の到達目標及びテーマ
 ニュース、講演、スピーチを英語⇄日本語で同時通訳が出来るようになることを目標とする。

授業の概要
 英検準1級、もしくは、それと同等の英語力を有する者を対象とする。
 学内外で行われる会議、講演等で同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音テープを用いる。また、今、現在報道中のニュース(日・英)を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー(特に逐次通訳)を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話(司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等)を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験させる。
 また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。

授 業 計 画

第1回： イントロダクション	第9回： 英語→日本語。新聞記事の訳
第2回： 通訳理論と背景知識	第10回： 日本語→英語。 ニュース同時通訳
第3回： シャドウィング	第11回： 英語→日本語。 ニュース同時通訳
第4回： 語彙 (単語・数字・固有名詞を含む) のクイック・レスポンス	第12回： メモ取り
第5回： サイト・トランスレーション	第13回： 逐次通訳
第6回： 日本語→英語。 原稿を用いた同時通訳	第14回： 法廷通訳
第7回： 英語→日本語。 原稿を用いた同時通訳	第15回： トータル・パフォーマンス
第8回： 日本語→英語。新聞記事の訳	第16回： 同時通訳専用ブースでの同時通訳 実演

上記2~16を60時間で適宜行う

テキスト： テレビ・ラジオ番組の録音テープ・トランスクリプション
 講演などの録音・録画テープ・トランスクリプション
 日・英両語の新聞、ジャーナル

参 考 書：

評価方法・評価基準：ラボで毎回個人をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。
 同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○				}	総合100%
小テスト・ 授業内レポート			○	○	○		
授業態度			○	○			
受講者の発表	○	○	○	○	○		
演 習	○	○	○	○	○		
授業への参加度							
その他							1/3 欠承認

履修上の注意：遅刻しないこと。テープ2本とUSBを常に持参すること。語彙を増やす努力をすること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
日英翻訳技法 I (Japanese→English Translation I)		David Ulvog

授業の到達目標及びテーマ

日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。

授業の概要

日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。

授 業 計 画

第1回： 和文英訳技法の基本 －その1	第9回： 動詞の選択－その1
第2回： 和文英訳技法の基本 －その2	第10回： 動詞の選択－その2
第3回： 日本文の主語→英文の主語 －その1	第11回： 使役動詞と態の用法－その1
第4回： 日本文の主語→英文の主語 －その2	第12回： 使役動詞と態の用法－その2
第5回： 日本文の主語→英文の主語 －その3	第13回： 和文英訳と英語の時制 －その1
第6回： 英語的な主語－その1	第14回： 和文英訳と英語の時制 －その2
第7回： 英語的な主語－その2	第15回： まとめ（期末）
第8回： まとめ（中間）	

テキスト： 演習課題（プリント）を、クラスで配布する。

参 考 書： 和英と英和辞典（例文の多いの）

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		90
Book report			○	○			10
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意： 英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。

Homework must be finished before reporting to class.

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
日英翻訳技法Ⅱ (Japanese→English Translation II)		David Ulvog

授業の到達目標及びテーマ
日英翻訳技法Ⅰの上級講義。日英翻訳の際に留意すべき応用技法を、演習を通して身につける。

授業の概要
日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。

授 業 計 画

第 1 回： 和文英訳技法の基本	第 9 回： まとめ（中間）
第 2 回： 日本文の主語→英文の主語：復習と応用	第 10 回： 名詞と名詞構文の生かし方
第 3 回： 和文英訳と英語の時制：復習と応用	第 11 回： 否定の構文
第 4 回： 動詞の選び方：復習と応用	第 12 回： 冠詞
第 5 回： 使役動詞と態の用法：復習と応用	第 13 回： 長文演習
第 6 回： 直接話法と間接話法	第 14 回： 長文演習
第 7 回： 日本語と英語の比較構文	第 15 回： まとめ（期末）
第 8 回： 上記の復習、中間試験の準備	

テキスト： 演習課題（プリント）を、クラスで配布する。

参 考 書： 和英と英和辞典（例文の多いの）

評価方法・評価基準：
授業参加レベル（参加度を含む）・課題・book report (20%)、中間テスト(40%)、期末試験(40%)を目安とし、総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○			○		90
Book report				○	○			10
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意：英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。
Homework must be finished before reporting to class.

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際関係論 (International Relations)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：グローバル化と地域社会、自己との関連を理解する。
 知識理解：時事問題を説明できる。 関心意欲：国際社会に興味を持てる。
 思考判断：国際社会と自己との関連を指摘できる。 態度：国際情勢を持つ。

授業の概要

新しい国際秩序に向けてどのような取り組みが国際社会においてなされているかを理解する。既存の理論のみならず、現状分析に基づいた新たな国際関係論を理解する。異文化間の相互理解や、世界的視野で様々な社会問題を考える重要性について認識する。複雑化する国際関係現象を的確に把握する上で国際関係論の習得は重要であり、そのためには、国際関係論の根幹を支える伝統的学問分野の諸原則を理解することが不可欠である。本講義では、学際的かつ実践的手法を採用し、国家関係および人間生活を取り巻く様々な領域に、横断的かつ総合的にアプローチする。特に第二次世界大戦以降の国際関係史の変遷と国際社会における諸原則の発展に重点をおいて本講義をすすめる。本講義では、受講生が国際関係史や国際問題をより身近に感じ、国際関係論の基本を理解することを目指す。

授 業 計 画

第1回： 近代国家と国際社会 －国際関係とは？	第9回： 平和外交、軍縮外交、人権外交、 環境外交、援助外交の現在
第2回： 国際連合、外交、サミット	国連と平和主義－日本の国際責任？
第3回： 民間外交とNGO	第10回： 国際協調とは？日本の国連常任理事国 加盟？
第4回： ナショナリズムと地域・民族紛争	第11回： テロリズムとは － 9.11 以降の世界 と国際関係
第5回： 冷戦後の国際政治、新民族主義、 新国際主義	第12回： 憲法・教育基本法改定
第6回： グローバリゼーションの功罪	第13回： 有事法制、自衛隊から自衛軍へ
第7回： WTO, IMF, WB とグローバル資本 主義、南北問題、経済格差、 投機マネーとトービン税	第14回： 環境問題と国際関係
第8回： 軍産複合体－東西冷戦と核の脅威、 軍需産業の拡大、日米同盟と武器輸出 三原則の緩和	第15回： アメリカの世界的軍事戦略と沖縄

テキスト： 講義担当者がそのつど準備する

参考書： 講義でそのつど提示

評価方法・評価基準：授業への参加度及びレポート、授業への参加度によって評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度				○			30
その他							

履修上の注意：国際平和学を履修していることが望ましい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際協力論 (International Cooperation)		玉城 直美

授業の到達目標及びテーマ：国際協力の実践的手法を学ぶ。

知識理解：国際協力を説明できる。

関心意欲：世界情勢に興味を持てる。

思考判断：援助の仕組みを指摘できる。

態度：行動できるようになる。

授業の概要

私たちの足元で起こっている出来事は、世界とつながり、世界のどこかで起こっている出来事も私たちの生活と密接に関係している。しかし何から理解していけばよいのか。よく日本はお金持ちの国だから、貧しいかわいそうな国や人びとに支援、協力しなければならない、したいということを知ることが、果たしてそうだろうか。

この授業では、国際協力、世界や足元の開発の問題を参加型学習（ワークショップ）や、フィールドワーク、実際の現場体験を通して一人ひとり考える時間としたい。一つの答えではなく、それぞれの答えや考えを重視する。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション	第9回： 貿易と貧困その1 ～社会派映画に観る～
第2回： アジアがもし100人の村だったら (WS)	第10回： 貿易と貧困その2 ～社会派映画に観る、講義～
第3回： 地球の食卓に見る世界の現状 (WS・講義)	第11回： バナナやコーヒー、紅茶を通して 世界とつながる (ワークショップ、講義)
第4回： 国際協力のアクター 国連・NGO・ボランティア	第12回： 開発援助を考えるその1 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～
第5回： 沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA 沖縄訪問予定	第13回： 開発援助を考えるその2 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～
第6回： 沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA 沖縄訪問予定	第14回： プロジェクト発案 プレゼン1
第7回： 貿易ゲーム (WS) 貧困は何故なくなるのか	第15回： プロジェクト発案 プレゼン2 最終振り返り
第8回： 貿易ゲーム (講義) 振り返り	

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度		○	○	○			30
受講者の発表	○		○		○		30
演習							
その他 校外学習への参加度			○			○	20

履修上の注意：※基本は、講義と参加型学習（ワークショップ）。時によりフィールドワークや現場体験への参加の機会提供有り。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
沖縄からみるグローバル化		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：グローバル化が沖縄にもたらす様々な影響について学ぶ
 知識理解：「グローバル化」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ
 思考判断：グローバル化に対する自己見解を持つ 態度：国際社会の事象を地域の問題として考えることが出来る

授業の概要
 概念や理論としての「グローバリゼーション」を理解するだけではなく、実際に沖縄という地域において、どのような政治的、経済的、文化的変化が生じているかについて学ぶ。経済格差に伴う人口移動など、沖縄の過去や現在に照らし合わせながら、グローバル化を理解する。島嶼であるが故の沖縄の課題について学び、地域の将来を予測し、積極的に関わるための知識と考察力を養う。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション	第8回： 島嶼経済とグローバル化その1 ～世界の島社会と沖縄の比較～
第2回： 「グローバル化」の功罪	第9回： 島嶼経済とグローバル化その2 ～アジア・ミクロネシアの島社会～
第3回： 「文化帝国主義」とグローバル化	第10回： 沖縄と食料自給率その1
第4回： 経済格差と人口移動その1 ～沖縄沖縄移民を事例として～	第11回： 沖縄と食料自給率その2
第5回： 経済格差と人口移動その2 ～戦後沖縄の出稼ぎから～	第12回： 軍事のグローバル化と沖縄その1
第6回： 経済のグローバル化と市場原理	第13回： 軍事のグローバル化と沖縄その2
第7回： 国家（政府）、市場（企業）、民間 （NGO）の役割	第14回： グローバル化と「世界のウチナーン チュ・ネットワーク」
	第15回： まとめ

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
授業への参加度							30
その他 調査			○	○			20

履修上の注意：調査活動への参加は授業外、校外活動となります

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
地域と国際開発論		玉城直美

授業の到達目標及びテーマ：開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ
 知識理解：開発とは何かという知識を持つ 関心意欲：地域社会の開発を探求する意欲をもつ
 思考判断：開発に対する自己見解を持つ 態 度：深く調査することが出来る

授業の概要

「開発」とは何であるのかを学ぶ時間であり、開発は誰のためのものか？一人ひとりの役割について考えていく時間とする。沖縄の地域開発の歴史に触れ、アジア地域の開発の歴史も併せて学んでいくなかで、沖縄とアジア地域の社会開発を併せて学ぶ。

開発の歴史から、将来の地域社会、国際社会の行方を予想し、それに対して一人ひとりの意見をもつことを大事にしていく。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション、導入	第8回： 個人史から沖縄の社会開発をみる
第2回： 沖縄戦、沖縄移民にみる沖縄の世	第9回： 地域史から沖縄の社会開発をみる
第3回： 沖縄の戦後復帰を振り返る	第10回： アジア地域開発の歴史 その1
第4回： 沖縄の本土復帰に見る開発の歴史（フィールドワーク事前学習）	第11回： アジア地域開発の歴史 その2
第5回： 沖縄の本土復帰に見る開発の歴史（フィールドワーク予定）	第12回： アジア地域開発の歴史 その3
第6回： 沖縄の本土復帰に見る開発の歴史（フィールドワーク予定）	第13回： 沖縄の開発の行方 その2 私たちの社会はどこへ向かうのか
第7回： 沖縄の本土復帰に見る開発の歴史（上記振り返り）	第14回： 沖縄とアジアとの連携 その1 協力しあう国際社会開発とは
	第15回： 沖縄とアジアとの連携 その2 協力しあう国際社会開発とは

テキスト：僕の沖縄<復帰後>史（新城和博、ボーディング社）。さらに適宜プリントを配布

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
授業内レポート		○	○		○			30
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○			30
受講者の発表		○				○		20
演 習								
その他 フィールドワーク調査				○	○			20

履修上の注意：フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際人権論		玉城直美

授業の到達目標及びテーマ：国際社会における人権の役割、現状を理解する能力を養う

知識理解：国際人権とは何かという知識を持つ

関心意欲：国際人権問題に対する基本的な理解をし、興味関心を持つ

思考判断：国際社会における人権問題に対する判断力を養う

態度：地域社会の出来事と、人権問題に対する探求心を持つ

授業の概要

国際連合憲章（1945年）は、前文において「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女……の同権とに関する信念をあらためて確認」とし、第1条で「人種、性、言語または宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励すること」を国際連合設立の目的の一つとした。しかし、私たちの日常生活では、基本的人権の尊重が行われているだろうか、世界の現状はどうだろうか、現状の把握から始まり、国際人権の果たす役割、問題となっている人権問題とは一体なんであるのか、そこに携わる人や団体はどうなっているのか学ぶ時間とする。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション、導入	第8回： 社会派映画に観る人権
第2回： 世界人権宣言に始まる、人権とは何か？	第9回： 沖縄：琉球から沖縄までの人権問題を考える1
第3回： 世界で起きている人権侵害1	第10回： 沖縄：琉球から沖縄までの人権問題を考える2
第4回： 世界で起きている人権侵害2	第11回： 人権侵害をなくすための仕組みを考える1
第5回： 世界で起きている人権侵害3	第12回： 人権侵害をなくすための仕組みを考える2
第6回： 国内課題：ワーキングプア、ブラック企業の現実1	第13回： 人権侵害をなくすための仕組みに取り組むNGO、団体（参加型プレゼンテーション）
第7回： 国内課題：ワーキングプア、ブラック企業の現実2	第14回： 人権侵害をなくすための仕組みに取り組むNGO、団体（参加型プレゼンテーション）
	第15回： まとめ～国際人権を学んだことを日常にどう役立てるのか～

テキスト：適宜プリントを配布

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30
受講者の発表				○		○	20
演 習							
その他 調査発表		○	○	○			30

履修上の注意：第13、14回目のプレゼンテーションはグループ発表を行って頂きます

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
Global Issues		David Ulvog

授業の到達目標及びテーマ：グローバル・イシューと社会責任について学ぶ

知識理解：グローバル・イシューを理解する

関心意欲：グローバル・イシューに取り組む意欲をもつ

思考判断：グローバル・イシューに対する自己見解を持つ

態度：グローバル・イシューに対する地球市民としての社会責任を認識することが出来る

授業の概要

グローバル化が進むなか、国際社会がともに取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）は、年々増加・多様化している。環境問題や紛争、難民など国境を越えて連携しなければ解決しない問題について理解を深める。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第 1 回： イントロダクション	第 8 回： 食料とエネルギー問題
第 2 回： 地球規模の課題とは	第 9 回： AIDS、パンデミックと国際保健
第 3 回： 「ミレニアム開発目標」と国連	第 10 回： 国際テロリズム
第 4 回： 人間の安全保障その 1（貧困）	第 11 回： 地球環境問題その 1
第 5 回： 人間の安全保障その 2（紛争）	第 12 回： 地球環境問題その 2
第 6 回： 途上国とキャパシティー・ディベロップメント	第 13 回： NGO と国連
第 7 回： 開発と資源、富の分配	第 14 回： 教育、人権、ジェンダーWID
	第 15 回： まとめ

テキスト： 適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演 習							
授業への参加度							30
その他 調査			○	○			20

履修上の注意：調査活動への参加は授業外、校外活動となります

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
NGO・NPO 実習 (NGO-NPO)		玉城 直美

授業の到達目標及びテーマ

- ・ NGO・NPO の活動に直接触れる
- ・ NGO・NPO の活動およびソーシャルビジネスの活動を直接訪問し、理解を深める。
- ・ NGO・NPO の活動家およびソーシャルビジネス活動に参加し、活動報告を行う

授業の概要

本授業は、NGO・NPO 論に引き続いて受講することが望ましいが、本授業と NGO・NPO 論が前後しても構わない。近年、NGO・NPO の発展の中で社会企業家という存在が注目されている。社会的な問題解決を社会的な経済活動（ソーシャルビジネス）で解決しようとする試みである。NGO・NPO と何が異なるのかを学びつつ、社会活動に取り組むもう一つの働き方、社会とのかかわり方を学んでいく。

授 業 計 画

第 1 回： イントロダクション	第 8 回： ホームレス支援の ソーシャルビジネス事例
第 2 回： NGO・NPO、社会企業の概念	第 9 回： 国際協力ソーシャルビジネス事例
第 3 回： 日本の団体・沖縄の団体	第 10 回： GP プレゼンテーション (ソーシャルビジネス事例共有)
第 4 回： 団体の抱える課題 (資金、法制度、等)	第 11 回： NPO/NGO 団体訪問 (フィールド ワーク)
第 5 回： 企業と NGO・NPO のパートナーシ ップ	第 12 回： NPO/NGO 団体訪問 (フィールド ワーク)
第 6 回： 東日本大震災の復興支援 国境を越えて助け合う	第 13 回： NPO/NGO 調査 まとめ
第 7 回： ソーシャルビジネス事例 NPO、ソーシャルビジネスの特徴	第 14 回： NGO・NPO 活動家ゲストを招いて お話を聞く
	第 15 回： まとめ

※計画の変更の可能性あり。その都度連絡します

テキスト：特になし

参 考 書 等：日々の新聞およびニュース等

評価方法・評価基準：レポート、期末テスト、グループ研究発表、出席と授業への積極的参加

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○		○	○			30
授業態度 授業への参加度				○			20
受講者の発表		○			○		20
演 習							
その他 フィールドワーク	○		○	○			30

履修上の注意：学外でのフィールドワーク参加があります。

授業科目名	2単位	担当教員
海外ボランティア実習 (Overseas Volunteer Practice)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ：ボランティアの実践を体験する。

知識理解：ボランティアのノウハウを説明できる。

関心意欲：実践に興味を持てる。

思考判断：理想的な実践手法を指摘できる。

態度：ボランティア活動に慣れる。

授業の概要

国際ボランティア論は、実学であり活学である。そうであるからこそ、この真髄は、文献ではなく、ボランティア活動の現場の中に見いだされる。本実習において、受講生は実際に海外でボランティア活動を体験し、個人やグループの経験をつうじて、ボランティア活動の意義を実感することとなる。例えば、ボランティアの現場における異文化コミュニケーション、カウンターパートとの関係構築、政府関係機関や NGO との調整といった様々な問題を受講生が認識し、その克服法を受講生自身が提唱するとともに、実行する。

授業計画 フィリピンにおいて、2週間の実習を行う。

第1回： 現地視察と観察研究	第9回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑥
第2回： 現地聞き取り調査とディスカッション	第10回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑦
第3回： 現地コミュニティ、各関係機関との協議・調整	第11回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑧
第4回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション①	第12回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑨
第5回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション②	第13回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑩
第6回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション③	第14回： 聞き取り調査とモニタリング
第7回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション④	第15回： 最終報告と総括
第8回： ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑤	

テキスト：

参考書：

評価方法・評価基準：実習日誌、実習レポート、現場評価等により総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						10
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		20
演習					○		50
授業への参加度				○			10
その他							

履修上の注意：海外ボランティア演習を履修していること。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教職の意義 (Principles of Teaching)		名嘉山 興武

授業の到達目標及びテーマ

教職の意義を理解し、教員になるための心構えをつくる。

授業の概要

現代社会における教職の意義や教員の役割、そして必然的に教師に求められる能力や資質について考察するとともに、教員養成のあり方や教員の服務規程、職務内容等について解説し、教職に関する知見や理解を深める。また、将来の進路選択に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適格性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。

授 業 計 画

第1回： 講義の概要説明	第9回： 同上 V (教育相談・学級崩壊と教員)
第2回： 教職の意義／教師の歴史と教師論	第10回： 教員の研修と服務規程 I (教員の資質能力の形成と研修)
第3回： 教職の成立と求められる教員の資質の変遷	第11回： 同上 II (教員の服務規律と身分保障)
第4回： 現代社会の教育的諸課題と教職の課題	第12回： 同上 III (学習指導要領と教員)
第5回： 教員の仕事と役割 I (教員の種類と職階)	第13回： 同上 III (学習指導要領と教員)
第6回： 同上 II (教科指導・教科外指導と教員)	第14回： 教員養成と教職課程
第7回： 同上 III (生徒指導・進路指導と教員)	第15回： まとめ
第8回： 同上 IV (学級経営・学校経営と校務分掌と教員)	

テキスト：

- 1 教職問題研究会編 『教職論 [第2版] -教員を志すすべての人へ-』 ミネルヴァ書房2010
- 2 平原春好・寺崎昌男編集代表 『新版教育小辞典』学陽書房 2011

参 考 書：

評価方法・評価基準：授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						50
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		
授業態度				○	○			50
受講者の発表								
演 習				○	○			
授業への参加度				○	○			
その他								

履修上の注意：

- 1 「教職の意義」は、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を十分加味する。
やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。
- 2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育原理 (Principles of Education)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

教育の思想と歴史を学ぶ。教育の思想・歴史といっても抽象的な事柄のみを学ぶのではなく、具体的な教育問題を考えながら、そのなかに教育の思想・原理を確認してゆく。また、それらの考え方が生まれてきた歴史的な背景を理解し、現代の教育を考える視座を確立する。

授業の概要

教育に関する思想と歴史を学ぶ。学校教育に即して、教育に関する基本的な考え方を学んでゆく。主に近代日本の学校の歴史的な展開を踏まえて、現代日本の学校で問題となっている事象を検討しながら教育の原理・思想を学んでゆく。各回の授業は具体的なテーマを定め、講師による解説と、受講者同士で小集団議論、作業、当日提出レポート作成などを行う。授業の参加者で、教育について考え、議論する場にしてゆきたい。

授 業 計 画

第1回： 講義概要説明、構成的エンカウンター体験	第9回： 学習指導要領について① (2008年の改正と学力論争)
第2回： 最近の日本の教育をめぐる議論① (「全国学力テスト」など)	第10回： 学習指導要領について②(その歴史)
第3回： 最近の日本の教育をめぐる議論②(習熟度別授業など)	第11回： 教育課程をめぐる問題 (教科書検定と歴史教育問題)
第4回： カリキュラム編成の歴史と理論 (デューイ、ブルーナー)	第12回： 新しい教育内容の創造 (「性教育裁判」を考える)
第5回： 近代日本の学校教育の歴史① (明治期)	第13回： 生徒指導の課題 (「いじめ問題」を考える)
第6回： 近代日本の学校教育の歴史② (大正自由教育)	第14回： 学級経営の課題(「学級崩壊」と「ゼロトレランス」を考える)
第7回： 近代日本の学校教育の歴史③ (戦後教育改革)	第15回： まとめ (子どもの権利条約と学校教育)
第8回： 近代日本の学校教育の歴史④ (教育内容の現代化)	

テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参 考 書： 田代直人・佐々木司編著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣アルマ、2010年

評価方法・評価基準：

期末考査(50%)、受講態度(20%)、授業への参加度(30%)の総合的評価とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度		○	○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：

教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育心理 (Educational Psychology)		大城 宜武

授業の到達目標及びテーマ：教育の営みへの知識・理解を広げる。

授業の概要

教育という営みについて、心理学的観点から探求し、精神的・身体的発達の様態について理解し、教育活動をより効果的にするための知識と技能を訓練する。特に「教授-学習」の側面からの学習の問題を取り扱い、生徒各々の発達と適応、動機づけ、学力、評価、パーソナリティ、知能、学習不適応、障がいへの対応等の諸問題について理論的・実践的な検討を行う。このことをとおして、生徒の理解、教師としての資質や条件についての理解を、深める。以上のことを学ぶ背景的知識として、人間の心や行動を心理学的に捉えるための基礎的な知識の習得を目指す。さらに日常的心理学的事象に対して心理学がどのようなアプローチを試み、知見を蓄積し、仮説を構築してきたか、その広がりや限界について理解を深め、さらに、心理テスト等を利用して自己の日常行動への関心を高める。

授 業 計 画

第1回： 講義の概要説明、教育観	第9回： 記憶のメカニズム
第2回： 発達理論① 遺伝説	第10回： 知能概念
第3回： 発達理論② 環境説	第11回： 知能と学習と学習の障がい
第4回： 発達理論③ 輻輳説・相互作用説	第12回： パーソナリティと適応
第5回： 学習理論① 連合説	第13回： 教育評価① 評価の目的
第6回： 学習理論② 認知説	第14回： 教育評価② 学力測定とテスト法
第7回： 学習理論③ 「教授-学習」 説と適性処遇交互作用	第15回： まとめとテスト
第8回： 動機づけのメカニズム	第16回：

テキスト： 前原武子（編著） 2002 『生徒支援の教育心理学』 北大路書房 ¥2,400+税

参 考 書：

評価方法・評価基準：

期末考査(50%)、「卵を立てる」に関するレポート(30%)、授業への参加度・受講態度(20%)の総合的評価

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)		○	○			○		50
小テスト・ 授業内レポート			○	○				40
授業態度		○		○				10
受講者の発表								
演習								
授業への参加度								
その他								

履修上の注意：「こころの科学」を履修していることが望ましい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育の制度 (Educational Systems)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

教育の在り方を社会的、制度的または経営的な視点から学び、教育を客観的にとらえる能力を養う。

授業の概要

学校教育の制度、学校経営の基礎、学級経営の基礎、教育内容を決定する制度、教員組織、教育行政、教育財政、社会教育、等について学ぶ。具体的には、沖縄における教育に関わる問題・課題（八重山教科書問題・アメラジアン教育権・学校選択制・学区の拡大）や全国的な問題課題（在日コリアンの教育権、大阪の教育基本条例、教科書検定制度）を検討しつつ、学んでゆく。

授業計画

第1回： オリエンテーション	第8回： アメラジアンの教育権
第2回： 八重山教科書問題	第9回： 高校授業料無償化と朝鮮学校
第3回： 教育委員会の役割	第10回： 多文化共生教育の制度的保障
第4回： 教科書検定制度	第11回： 子どもの権利条約
第5回： 学習指導要領について① (2008年の改正)	第12回： 教育基本法
第6回： 学習指導要領について② (その歴史、法的拘束力)	第13回： 公立小中学校の学校選択制度
第7回： 高校入試制度	第14回： 学区制を考える (沖縄県の公立高校再編計画)
	第15回： まとめ

テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参考書：

- 岡本徹・佐々木司(編著)『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房 2009

評価方法・評価基準：授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度		○	○	○			20
受講者の発表							
演習							
授業への参加度			○	○			30
その他							

履修上の注意：

- 「教職の基礎理論」に関する科目である。
- 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
生徒指導・進路指導 (Guidance)		新里 健

授業の到達目標及びテーマ

本講義では、生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応できる能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的な生活習慣の乱れや社会性の発達の遅れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきた。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。

本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか、また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。

授 業 計 画

第1回： 本講義の説明、紹介	第8回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ①一言語でのコミュニケーションの仕方
第2回： 生徒指導の意義	第9回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ②自尊感情を高める方法
第3回： 生徒指導の方法	第10回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ③自己主張の仕方 (アサーショントレーニング)
第4回： 問題行動の理論と実際・対応① －生徒の不適應行動－不登校と引きこもり	第11回： 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ④問題解決の仕方(ステップ&ケース)
第5回： 問題行動の理論と実際・対応② －いじめ	第12回： 進路指導の理論と指導 －進路選択と自分さがし
第6回： 問題行動の理論と実際・対応③ －学校不適應(ADHD、アスペルガー、学習障害)	第13回： 進路指導の理論と指導－キャリア教育
第7回： 問題行動の理論と実際・対応④ －基本的な生活習慣と非行	第14回： 高等学校における中途退学・不本意進学問題
	第15回： まとめ

テキスト： 授業の際にプリントを配布する。

参 考 書：

岸田元美監修 河合伊六・佐藤修策編 『改訂 生徒指導 新しい教育改革をふまえて』 2001 北大路書房
 新里健・島袋有子 『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33 学級経営に生かすSST』
 2008 グリーンキャット
 宮下一博・河野荘子編著 『生きる力を育む生徒指導』 2005 北樹出版
 平木典子 『アサーショントレーニング－さわやかに自己表現>のために』 2005 日本・精神技術研究所
 マシュー・マッケイ、ピーター・D・ロジャース、ジュディス・マッケイ著 榎原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳 『怒りのセルフコントロール－感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts- Quieting the storm within)』 2011 明石書店

評価方法・評価基準： 評価は、授業内レポート、試験、授業への参加状況、授業への意欲・関心などを総合的にみて行う。授業内レポート(小テスト)の課題は授業の際に指示する。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)		○	○					60
小テスト・ 授業内レポート		○						10
授業態度					○			10
受講者の発表						○		10
演習								評価に加えず
授業への参加度				○				10
その他								

履修上の注意： 教育心理学を履修済みであることが好ましい。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
国際理解教育		玉城直美

授業の到達目標及びテーマ：国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ
 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ
 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる
 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる
 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加

授業の概要

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。第二次世界大戦を終え、そのことから生まれた反省と教訓、その起源をまず学び、国際理解教育のテーマ、内容を学び、授業後半においては、学生自らで国際理解教育プログラムの組み立てを行い、発表する。

授 業 計 画 ※授業内容は、変更する場合があります。

第1回： イントロダクション、導入	第8回： たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性
第2回： 戦争と国際理解教育	第9回： アジアのカレーを食す（予定）調理実習
第3回： 地球の食卓、フードマイレージ	第10回： アジアのカレーを食す（予定）調理実習
第4回： 何故、飢餓は発生するのか	第11回： 社会派映画に観る国際理解
第5回： 携帯の一生 ケータイを通して知る私と世界のつながり	第12回： 自己肯定感を高めるワークショップ
第6回： 地球温暖化と私たちの暮らし	第13回： 国際理解教育学生発表 その1
フィールドワーク	第14回： 国際理解教育学生発表 その2
第7回： 未定：当該科目に関係のある場所への訪問	第15回： まとめ 振り返り

テキスト：適宜プリントを配布

参 考 書： 講義においてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			30
受講者の発表		○			○		20
演 習							
その他 フィールドワーク	○		○	○			30

履修上の注意：フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
学校カウンセリング (School Counsering)		浅野 恵美子

授業の到達目標及びテーマ

臨床心理学の基本を学び、変化する社会と学校状況における子どもたちの悩み・問題をみつめる。自分らしく生きる心・カウンセリングマインド、教師と生徒の関係、相談スキルなどを学ぶ。

授業の概要

授業では、学校カウンセリングの知識を得るだけではなく、授業集団の変化・発展にも注目し、グループワークや討論や遊び（アートやロールプレイング・心理劇）などを取り入れて行う。問題行動を個人の資質に還元するのではなく、関係的・状況的・集団的・社会的に理解できることが重要である。教師の資質としての人間関係スキル・セルフケア（自己知）・身体の知・感情の知とつながり、共に生きるセンスが育っていくように、心理劇法での実験を行い、討論し、共に探求したい。

授業計画

※授業計画は若干変更になることもあります

第1回： 授業入門～関係学的アプローチでの学び方	第9回： 学校における人間関係—非行
第2回： 社会と学校と生徒をめぐる諸問題	第10回： 学校における人間関係—不登校
第3回： 心理劇と家族療法	第11回： 発達障害、精神障害など
第4回： 論理療法、アドラー心理学	第12回： 親離れ、子離れ、引きこもり
第5回： 交流分析・精神分析	第13回： 精神的・生活的・経済的自立
第6回： 内観療法・遊戯療法・箱庭療法	第14回： 生徒と親と学校と教師の関係
第7回： カウンセリング・来談者中心療法	第15回： まとめ・テスト・研究発表
第8回： 生きる意味—生と死と魂・霊性	

テキスト： 浅野 恵美子著 「心の宇宙散策」 浅野にんげん研究所（2012年）

参考書： 日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞—気づく・学ぶ・活かす—」 不昧堂出版

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 毎回の小テスト	○	○			○		20
課題レポート	○	○					40
授業態度・ 授業への参加度	○	○	○				20
受講者の発表							0
演習							0
出席							0
その他							20

履修上の注意： 毎回テキストを使います。出席、参加、意見、考え、書く事が重要です。主体的な参加を高く評価します。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育方法 (Educational Methodology)		大城 宜武

授業の到達目標及びテーマ：
教育方法の歴史を概観し、グループでティーチング・プランを作成し、模擬授業を実演する。

授業の概要

学習を通じて学ばれるべき教育の内容の選択と構成について教育課程の意義及び編成法の基礎的な検討を行う。ついで、カリキュラムとして系統化・統合された教授材をいかにしてより効果的な教授・学習を可能にするか、について得られている多くの知見について学ぶ。プレゼンテーション・ソフトを利用した模擬授業を実施する。

授業計画

第1回： 講義の目的と評価方法の説明、 講義の概要を説明	第9回： 教育課程と教材の選択・ 配列・組織
第2回： 授業と「教授-学習」理論①	第10回： 情報通信技術と教育方法
第3回： 授業と「教授-学習」理論②	第11回： 教材研究と授業の技術
第4回： 教育方法の展開① コメニウスの方法を中心に	第12回： 教材研究演習（模擬授業）①
第5回： 一斉学習・グループ学習・個別学 習教育方法の展開② ヘルバルトの方法を中心に	第13回： 教材研究演習（模擬授業）②
第6回： 教育方法の展開② ヘルバルトの方法を中心に	第14回： 教材研究演習（模擬授業）③
第7回： 教科・領域の教育課程	第15回： まとめとテスト
第8回： 教科内容の課題	第16回：

テキスト： 田中耕治、他 2012 『新しい時代の教育方法』有斐閣

参考書： 特になし

評価方法・評価基準：

下記表による。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度	○	○	○	○			10
受講者の発表					○		
演習	○	○	○	○	○		30
授業への参加度			○				
その他							

履修上の注意：

「教育心理」、「教育原理」を履修していること、さらに「コンピューター基礎演習」を履修していること。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
道徳教育の研究 (Moral Education)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

道徳教育の歴史と理論を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養う。

授業の概要

主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。さらに教育（学）全般についての理解を深める。

授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。

授業計画

第1回： 講義の概要説明	第8回： 道徳教育の歴史①(戦前の修身教育と教育勅語)
第2回： 同和(人権)教育を学ぶ①	第9回： 道徳教育の歴史②(戦後の道徳の教科化をめぐる議論)
第3回： 同和(人権)教育を学ぶ②	第10回： 学習指導要領と道徳教育—「愛国心」と道徳教育を考える
第4回： 同和(人権)教育を学ぶ③	第11回： 「心のノート」の意義と問題点を考える
第5回： 〈生・性・死〉の授業の意義を考える	第12回： 道徳教育と開発教育
第6回： 道徳性の発達(コールバーグ)とモラルジレンマ授業①	第13回： いじめ問題を考えよう
第7回： 道徳性の発達(コールバーグ)とモラルジレンマ授業②	第14回： 道徳教育とエンカウンター
	第15回： ディベート(道徳の教科化)

テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参考書：

- 1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』(第2版)酒井書店・育英堂 2006
- 2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004
- 3 柴田義松(編著) 『道徳育～理論と実践』学文社 1992

評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						30
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		10
授業態度				○	○			30
受講者の発表								
演習								
授業への参加度				○	○			30
その他								

履修上の注意：

- 1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
特別活動の研究 (Extra-curricular Education)		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ

特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、特別活動の具体的な実践方法のいくつかを身につける。

授業の概要

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力や資質」を培うことである。

本講においては、特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、ホームルーム活動(学級活動)・生徒会活動・学校行事等における実践的指導力の養成を図ることを目指す。特に、学校における基礎的・基本的な生活集団としてのホームルーム活動(学級活動)の望ましいあり方やその運営方法、実践演習等を行い考究する。

授 業 計 画 ※授業計画変更予定。新しいシラバスは、クラスで配布します。

第1回：	オリエンテーション(講義概要、受講心得、特別活動の課題等)	第8回：	ホームルーム活動(学級活動)の指導計画
第2回：	特別活動と教育課程	第9回：	ホームルーム活動(学級活動)の展開
第3回：	特別活動の意義	第10回：	ホームルーム活動(学級活動)の演習
第4回：	特別活動の目標	第11回：	〃
第5回：	ホームルーム活動(学級活動)の内容	第12回：	〃
第6回：	ホームルーム活動(学級活動)と生徒会活動	第13回：	〃
第7回：	ホームルーム活動(学級活動)と学校行事	第14回：	〃
		第15回：	まとめ

テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参 考 書： 渡部邦雄 他編『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法』日本文教出版、2009年

評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題、試験等により総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○						50
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度				○	○	○		20
受講者の発表								
演 習								
授業への参加度				○	○			30
その他								

履修上の注意：

- 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語科教育法 I (English Language Education I)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。 思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。

授業の概要

教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション・英語教育の目的	第9回： 教室の使用言語
第2回： 日本の英語教育の歴史	第10回： 授業の形態
第3回： 英語教師論	第11回： 測定と評価
第4回： 言語習得と教授法	第12回： 語彙の指導と評価
第5回： 第一言語習得と第二言語習得	第13回： 文法の指導と評価①
第6回： 学習者論①	第14回： 文法の指導と評価②
第7回： 学習者論②	第15回： まとめ
第8回： 英語教育課程	

テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」(三修社)

参 考 書： 課題図書、参考文献は授業において提示する。

評価方法・評価基準： 1.発表、授業への参加姿勢 2.レポート・クイズ・定期テスト
上記、1, 2をもって総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					70%
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20%
授業態度			○				10%
受講者の発表				○			評価に加えず
演 習	○				○		評価に加えず
授業への参加度				○			
その他							

履修上の注意：

- 1 テキストとともに課題図書が指定される。
- 2 予習を前提として講義を行う。
- 3 2回以上の遅刻を認めない。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語科教育法Ⅱ (English Language Education Ⅱ)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：英語教育理論や日本の教育事情について説明できる。
 思考・判断：中等教育における英語教育の問題を批判的に考察できる。
 関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、議論できる。

授業の概要

中学校・高等学校英語教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、指導能力の養成を図る。教授法の歴史の変遷、個々の教授法の特徴、問題点等について討議をし、中学校や高校の教育現場の実情に照らしながら、各技能指導の方法を探る。また、指導の実践力を養成するため、グループ活動を通して、実際の授業を想定した具体的な課題に取り組み、指導技術の基礎基本を体験する。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション・日本における英語教育	第9回： スピーキングの指導と評価
第2回： 教員養成・教育実習	第10回： ライティングの指導と評価
第3回： 教材研究と授業計画①	第11回： 学習指導案の作成①
第4回： 教材研究と授業計画②	第12回： 学習指導案の作成②
第5回： リーディングの指導と評価①	第13回： 理論と実践の融合
第6回： リーディングの指導と評価②	第14回： 4技能の統合を目指した授業の実践
第7回： リスニングの指導と評価①	第15回： まとめ
第8回： リスニングの指導と評価②	

テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」(三修社)

参 考 書： 課題図書、参考文献—授業において提示する。

評価方法・評価基準：

個人・グループ発表、レポート、クイズ、定期テストをもって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)		○	○		○			50%
小テスト・ 授業内レポート		○			○			30%
授業態度				○				5%
受講者の発表								5%
演 習						○		10%
授業への参加度				○		○		
その他								

履修上の注意：

- 1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。
- 2 事前に受講資格審査を行う。
- 3 2回以上の遅刻は認めない。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語科教育法演習 I (中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. Teaching I)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識理解・技能・表現：①理論を指導実践に生かすことができる。②日本人学習者の課題を理解し4技能の習得について指導できる。

思考・判断：自他の授業を授業目標に沿って評価し、問題点を考察できる。

関心・意欲/他：①多面的に教材研究を行い、②課外活動に積極的にかわり、その成果を授業にフィードバックできる。

授業の概要

本講義のねらいは、英語教科教育法 I・II で学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR 視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： スピーキング指導の計画と実践
第 2 回： 英語授業の視点	第 10 回： ライティング指導の計画と実践
第 3 回： 授業の組立・指導案作成	第 11 回： 模擬授業・授業観察①
第 4 回： 文法指導の計画と実践①	第 12 回： 模擬授業・授業観察②
第 5 回： 文法指導の計画と実践②	第 13 回： 模擬授業・授業観察③
第 6 回： リーディング指導の計画と実践①	第 14 回： 模擬授業・授業観察④
第 7 回： リーディング指導の計画と実践②	第 15 回： 総括
第 8 回： リスニング指導の計画と実践	

テキスト： 特に指定しない。必要な資料を各授業において配布する。

参 考 書： 授業において提示する。

評価方法・評価基準：

授業参加姿勢、グループ発表や模擬授業、レポート、クイズ、テストをもって、総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							なし
小テスト・ 授業内レポート	○	○		○	○		40%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							10%
演 習	○	○			○		30%
授業への参加度			○		○		
その他						課外活動	10%

履修上の注意：

- 「英語教科教育法 II」の履修を前提とする。
- 2 回以上の遅刻を認めない

授業科目名	2単位 (1-3)	担当教員
介護等体験 (Practice in Social Volunteer Work)		近藤 功行

授業の到達目標及びテーマ

本講義は社会福祉施設5日間・特別支援学校(旧養護学校)2日間体験に際し、講義と体験名が一致している。体験に際し、少しでも理解しやすく有意義なものとなるよう本科目設定がある。講義を通して、全体の仲間作りをはかっていただきたい。全員が一丸となって取組まないと、この体験は成功しない。例えば、特別支援学校へ行く際、開始時間前に到着する連携行動が要求される。仲間作りが必要となる。両体験が全員終了したのを見計し、「発表会」を開催、当該科目は終了となる。講義自体は前期で終了する。体験は前期で終了する場合もあるが、全員が終わる次期を待って発表会を行なう。2013年度は、12月期に「発表会」が開催できた。

授業の概要

介護等体験は、小・中学校教員免許希望者に必須の実習である。7日間の介護体験学習を行うにあたり、社会福祉施設や特殊学校の事前オリエンテーションの他に下記について学修し理解を深める。福祉施設また特殊教育諸学校で何を学ぶことになるのか、各施設の概要、教師になるために、何故介護等体験が必要なのか、実習の心構えなどを教示する。講義設定をはかった理由は、円滑に実習が行えることが目的である。講義そのものも重要であるが、前述したように受講生の仲間作りを目指したい。まず前期開始、初期段階でつくってゆきたい。

授業計画

第1回：	受講確認；当該年度「発表会」までの参加が義務づけられるため。	第8回：	社会福祉施設の概要を知る③「体験先までの地図を描く」意義含む
第2回：	社会福祉施設体験の申し込み説明(申し込み書類が到着していた場合第1回講義で実施)。最終人数の確認後、教科書2種類発注。	第9回：	3障害と高齢者福祉を学ぶ
第3回：	社会福祉施設の概要を知る①	第10回：	障害者雇用の重要性を学ぶ
第4回：	社会福祉施設の概要を知る②	第11回：	学校教育と ノーマライゼーションの視点
第5回：	社会福祉施設を学ぶ・外来講師	第12回：	特殊教育諸学校を知る①
第6回：	特別支援学校へ全員で行く前に	第13回：	特殊教育諸学校を知る②
第7回：	特別支援学校訪問(全員参加；講義時間内を使用。今年度から。)	第14回：	介護等体験と医療・保健・福祉 & 高齢者と子ども
		第15回：	総括(試験に代わる課題；内容の説明＝一部、第14回講義から) ※※外来講師・特別支援学校受入れ日程などから、順番変更あり。

テキスト：※2冊とも購入必須。文科省で定めた内容です。教科書を使用して講義をとるかたちで、進めません。テキスト2種類は先輩から譲り受けるものでもなく、また終了後そうすることは回避して下さい。自宅で保管して、体験を振り返ることが教職課程本科目履修の意義です。①社会福祉法人全国社会福祉協議会(発行)『新版・よくわかる社会福祉施設-教員免許志願者のためのガイドブック』2003 525円、②全国特殊学校長会(編著)『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック』フィリア ジアース教育新社(2003) 980円 [価格は前年度]。

評価方法・評価基準：①社会福祉施設体験＝行先が決定後、事前訪問を行い体験に行く迄に施設までの地図提出(ネット打ち出し印刷のみ不可)。②「試験に代わる課題」提出と出席を併せて評価します。③体験先での内容は、評価の対象にはしません。ただし、2つの体験を終えること、そこは評価対象となります。④発表会＝体験報告会は正装で望んで下さい。発表会ではA4・1枚のレジメ作成、全員のものを集めて冊子を受講生で作ります。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○	○	参考程度
授業態度			○	○			10
受講者の発表			○	○			参考程度
演習							
授業への参加度			○	○			20
その他							10

履修上の注意：毎回の出席は、絶対条件です。申し込みなど、諸費用がかかります。特別支援学校行きは、公共の交通機関利用＝本学スタート「タクシー相乗り運賃」が必要となります。なお、本科目は、授業と体験[＝公欠手続をとって下さい]＝福祉施設5日間・特殊教育学校2日間で、2単位を構成しています。何らかの事情で、社会福祉施設実習が連続した5日間で終わらない場合、延長となる場合は先方の指導者と相談して、延長して下さい。なお、成績は全員の体験終了が後期になること、発表会資料作成を待って成績を付けるため、後期で出ます。出欠重視。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育総合研究		照屋 信治

授業の到達目標及びテーマ：教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。

授業の概要

①これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。②また、教員採用に関する状況を説明し、受講者が採用試験対策を行えるようにする。③さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。

授業計画

第1回： 講義の概要説明 教員採用に関して①	第8回： 模擬授業と批評会①（道徳の授業）
第2回： 教員採用に関して②	第9回： 模擬授業と批評会②（道徳の授業）
第3回： 教員採用に関して③	第10回： 模擬授業と批評会③（道徳の授業）
第4回： 教育問題の討議①	第11回： 模擬授業と批評会④（道徳の授業）
第5回： 教育問題の討議②	第12回： 模擬授業と批評会①（HR・特別活動）
第6回： 教育問題の討議③	第13回： 模擬授業と批評会②（HR・特別活動）
第7回： 教育問題の討議④	第14回： 模擬授業と批評会③（HR・特別活動）
	第15回： まとめ

テキスト：講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。

参考文献：講義中に適宜お知らせする。

評価方法・評価基準：出席状況、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○	○	○		50
受講者の発表	○	○	○	○	○		50
演習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：

- 1 教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。
- 2 教員採用試験を受検することを前提とする。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
教育実習事前事後研究 (Pre, Post-Teaching Practicum Seminar)		照屋信治・大城直人

授業の到達目標及びテーマ

1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。5. 実習校と連絡をとり、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。

授業の概要

(事前研究) 教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとする。

(事後研究) 教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種(中学校・高等学校)、学習環境(地域差、学習母集団)等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。

授 業 計 画

第1回	講義の概要説明、実習に向けて
第2回	学校訪問について
第3回	実習前に準備すべきこと
第4回	講話：高等学校の現場から
第5回	講話：中学校の現場から
第6回	授業参観・教材研究
第7回	講話：若い教師に聞く
第8-10回	教育実習中間報告会(全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う)
第11-13回	教育実習反省会(全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。)
第14回	教育実習レポートの作成
第15回	教育実習成果報告会

テキスト： 教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』(第8版)倉丘書林 2005

評価方法・評価基準：授業への参加度、発表・討議参加、提出物等、実習への取り組み姿勢をもって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								20
小テスト・ 授業内レポート		○	○					
授業態度				○	○			30
受講者の発表		○	○	○		○		50
演習								なし
授業への参加度						○		欠席は厳しく 減点する
その他								なし

履修上の注意：

- 1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。
- 2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。

授業科目名	4単位	担当教員																																																																
教育実習(中学) (Senior High School Teaching Practicum)		照屋信治・大城直人																																																																
授業の到達目標及びテーマ 中学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。 ①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能, 教材研究と授業準備) ②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握, 学級経営, 課外活動への関心) ③意欲を持って実習に臨み, 態度に示すことができる。(勤怠状況, 実習への意欲, 学級事務等の実務能力等)																																																																		
授業の概要 教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。																																																																		
実習内容 ○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他 																																																																		
テキスト： 1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)																																																																		
参考書：																																																																		
評価方法・評価基準： 実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価を含めて、総合的・客観的に評価する。																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>到達目標等</th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト・ 授業内レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>受講者の発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業への参加度</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演習								授業への参加度								その他							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																											
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)																																																																		
小テスト・ 授業内レポート																																																																		
授業態度																																																																		
受講者の発表																																																																		
演習																																																																		
授業への参加度																																																																		
その他																																																																		
履修上の注意：実習資格(※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと。) 1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。																																																																		

授業科目名	2単位	担当教員
教育実習（高校） (Senior High School Teaching Practicum)		照屋信治・大城直人

授業の到達目標及びテーマ

- 高等学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。
- ①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能, 教材研究と授業準備)
 - ②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握, 学級経営, 課外活動への関心)
 - ③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。(勤怠状況, 実習への意欲, 学級事務等の実務能力)

授業の概要

教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に2週間（80時間）である。

高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。

実 習 内 容

- 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。
- ・ オリエンテーション
 - ・ 学校組織・学校経営
 - ・ 学級経営
 - ・ 「英語」学習指導
 - ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導
 - ・ その他

テキスト：

1. 実習校使用の英語教科書
2. 実習校使用教科書のマニュアル
3. その他（学校要覧、学校経営計画等）

参 考 書：

評価方法・評価基準：

実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価を含めて、総合的・客観的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度							
その他							

履修上の注意：実習資格（※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと）

1. 指定された「教職科目」を履修済であること。
2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。
3. その他、必要な要件をみたしていること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
教職実践演習(中・高)		照屋信治・大城直人

授業の到達目標及びテーマ

教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。

授業の概要

4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていきたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。

授業計画

	内容	担当
第1回:	イントロダクション・教育実習を振り返る(講義、個人発表)	照屋・大城
第2回:	学校現場が抱える教育課題(グループ討議)	照屋・大城
第3回:	生徒理解・カウンセリング(講義、ロールプレイ)	照屋・大城
第4回:	学級経営ー共に育つ場の創造(グループ活動)	照屋・大城
第5回:	特別活動ー生徒の個性を伸ばし可能性を拓く(グループ活動・全体討議)	照屋・大城
第6回:	学校教育とノーマライゼーション(事例研究、全体討議)	照屋・大城
第7回:	教育政策ー教員養成・採用・研修(講義)	照屋・大城
第8回:	教育実践構想ー理想の学校・学級づくり(グループ活動)	照屋・大城
第9回:	英語の授業と地球をつなぐアクティビティー(グループ活動)	照屋・大城
第10回:	国際理解教育のファシリテーターとしての英語教師の役割(講義)	照屋・大城
第11回:	ティームティーチング成功の鍵(模擬授業・全体討議)	照屋・大城
第12回:	リーディング教材と文学(グループ活動・講義)	照屋・大城
第13回:	英語コミュニケーションと英文法(グループ活動・講義)	照屋・大城
第14回:	英語教育とアイデンティティーーOKINAWAを教材化する(グループ活動・講義)	照屋・大城
第15回:	まとめ、「理想の英語教師像とは」(全体討議・講義)	照屋・大城

テキスト： 授業内容に応じて資料を配布

参考書： 適宜提供

評価方法・評価基準：

毎回の授業におけるレポート、発表、討議等への参加状況、出席状況を総合的に判断し、評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演習							
授業への参加度							
その他							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語科教育法演習Ⅱ(中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. Teaching Ⅱ)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識・理解/技能・表現/思考・判断：①中・高における50分の授業案を作成し、実践できる。
 ② 授業のための教材を研究・作成することができる。
 ③ 自他の授業を客観的に分析し、課題を発見し、改善することができる。
 関心・意欲：他者の授業に積極的にかかわり、支援することができる。

授業の概要

受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践研究する。これまでの英語教科教育法で学んだことを踏まえ、実習校で使用している教科書を基に、各自、学習指導案を作成し、模擬授業を2回実践する。授業後は、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の活動を通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を培う。

授業計画

第1回： 授業計画・運営について	第9回： 模擬授業—個人
第2回： 学習指導案の分析と評価	第10回： //
第3回： 授業観察（着眼点と分析の方法）	第11回： //
第4回： 模擬授業—個人	第12回： //
第5回： //	第13回： //
第6回： //	第14回： //
第7回： //	第15回： //
第8回： //	

テキスト： 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。

参考書： 授業において提示する

評価方法・評価基準： 教案、模擬授業内容、授業計画とその準備、授業参加姿勢、提出物をもって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								なし
小テスト・ 授業内レポート		○	○		○	○		20%
授業態度				○	○			30%
受講者の発表								評価に加え
演習		○	○			○		50%
授業への参加度				○		○		
その他								

履修上の注意：

1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。
2. 模擬授業の前に必ず、教案を提出する。
3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。
4. 2回以上の遅刻を認めない。